SENRI O

EPIC/SONY RECORDS

大江千里「1234」・7月21日発売ニューアルバム

収録曲/GLORY DAYS/平凡/ROLLING BOYS IN TOWN/Rain/ハワイへ行きたい/サヴォタージュ/帰郷/昼グリル/消えゆく想い/ジェシオ'S BAR/全10曲 ●CD:32・8H-5034 ¥3,200 ●LP:28・3H-5034 ●CA:28・6H-5034 ¥2,800 each

ニューシングル「GLORY DAYS」爽快発売中/Coupling with:ROMANCE (From the Olympic Torch Tour) ●シングル:07・5H-3028 ¥700 ●CDシングル:10・8H-3028 ●シングルカセット:10・6H-3028 ¥1,000 each

ニュービデオ¥3,800 2巻同時発売中/●PART I「OLYMPIC TORCH THE 1st. DAY OF 3-DAYS FINAL AT NHK HALL "SERENE" SIDE」全5曲 VHS β 各¥3,800 光学式 ¥4,300 ●PART II「OLYMPIC TORCH THE 1st. DAY OF 3-DAYS FINAL AT NHK HALL "EMOTIONAL" SIDE」全5曲 VHS β 各¥3,800 光学式 ¥4,300

■テレビをロックする「eZ」、いよいよ千里の番だ。8月初旬より全国でオンエア予定。詳しくはGB来月号の広告を見てほしい。お問い合せは:〈北海道地区〉Tel.011-231-7571・ES札幌営業所〈東北地区〉Tel.022-261-1491・ES仙台営業所〈関東中部地区〉Tel.03-404-8280・エピック・ソニー〈東海地区〉Tel.052-231-3812・ES名古屋営業所〈関西四国地区〉Tel.06-538-0143・ES大阪営業所〈中国地区〉Tel.082-228-8138・ES広島営業所〈九州沖縄地区〉Tel.092-712-6571・ES福岡営業所まで、気軽にプリーズ。

■7月22日、浅間高原でのイベント「ASAMA WOW.!」で、力強い"納涼千里天国"あり。必修だ。

OE1234

4、3、2、1、0、発売。

CONTENTS

別冊ギターブックGB『GB DELUXE』
昭和63年7月1日発行
編集・発行人：塚本忠夫
発行所：株式会社CBS・ソニー出版
〒102 東京都千代田区五番町6番地2
TEL 03-234-5811（販売）
03-234-5101（広告）
03-234-6711（編集）
印刷：大日本印刷株式会社
版下制作：株式会社三共社
日本音楽著作権協会（出）許諾第8870493-801号

定価980円（別冊付録とも）

STAFF

ART DIRECTION——根布谷僚治
DESIGN——BE.TO BEARS
江澤千代一
香取紅美子
根布谷僚治
EDITORS——塚本忠夫
三浦圭一
岡村尚正
水津伸也
黒木ミドリ
吉田　正
安達明子
松下香世
浜田次郎
CONTRIBUTORS——洞野正己
城葉子
COVER PHOTO——岩岡吾郎

CONTENTS PHOTO●SHUSUKE

TM NETWORK
THE COLLECTION OF SHORT STORIES

[一般の部]
選考結果発表

●GB 8月号で募集した「TM ショート・ショート」に多数の御応募ありがとうございました。
2週間足らずの応募期間にもかかわらず、1000編を越える作品が寄せられました。
編集部で一次・二次選考を行ない30編に厳選、
そして5人の選考委員による最終選考会で、以下の通り入選作品が決定しました。

撮影●岩岡吾郎(LONDON)/菅野秀夫(TOKYO)　構成●編集部

[入選]
①Fool On The Planet　広島県尾道市/宮本徳美
②Twinkle Night　静岡県駿東郡/堤聖子
③Dawn Valley　神奈川県横浜市/伊東佳代子
④Childhood's End　北海道札幌市/八乙女美智代
⑤Twinkle Night　群馬県勢多郡/石田あずさ
⑥Twinkle Night　埼玉県上尾市/木根真衣亜
⑦Confession　大阪府豊中市/佐野茉莉子
⑧Don't Let Me Cry　北海道江別市/松本みちよ
⑨Human System　千葉県船橋市/永浜理香
⑩Confession　兵庫県西宮市/篠崎翼

[特別賞]
⑪Self Control　大阪府堺市/岩崎晶

★数字はあくまでも掲載順を示すものであり、作品の優劣とは無関係です。

"会議は踊る"

最終選考会・誌上再録

［選考委員］
木根尚登●TM NETWORK
小室みつ子●作詞家
三浦雅子●フリー・ライター
藤井徹貫●フリー・ライター
立岡正樹●「オフィスタイムマシン」プロモーター

ある週末の午後。TM NETWORKの所属事務所である「オフィスタイムマシン」の会議室には、すでに木根尚登の姿があった。彼は決して取材時間に遅れることはない。ストロボのセッティングをしているカメラマン・管野秀夫の横で、どういうわけかスーツ姿のプロモーター・立岡正樹が、「今日は友人の結婚式があったから」としきりにそのネクタイの言い訳を繰り返しているが、誰も聞いてない。藤井徹貫がやってきた。「テレビに出て顔を知られているのは僕だけだから、僕を中心に撮ってよね」と注文をつける彼は、木根尚登の存在を完全に忘れている。ちょっとテレビに出るとこれだから素人は怖い。三浦雅子が登場。ライターには稀な美人。もう一度書いておく。ライターには稀な。そして、小室みつ子も登場。作家には稀、かどうかは知らないが美人。いつもこうだと、仕事は楽しい。テーブルに応募原稿がひろげられ、静かに回覧が始まった。そして1時間後——。

——最終選考に残った30編を読んでいただいたところで、全体の感想を。

藤井「とにかく面白かった。ここで僕が選ばないものの中から、2か月くらいすると原稿に出てくるな、というネタがいくつかありました、はい。(笑)使えます、はっきり言って」(笑)

三浦「一気に読んじゃったので、書いた人に申し訳ないな、と。もっとじっくり読んだら、もう少しいい部分とかも見えてきただろうに、と残念な感じもしました。作品自体はパターンがはっきり分かれて、何か傾向のようなものがありますね。何かに影響を受けて書いてるんだな、という気がしました。その中にオリジナリティーのあるのがポツンとあると、おかしかったです」

木根「こういうふうに書ける人がたくさんいるんだな、と。みなさん、たいしたものだと。(笑)「こんなふうに感じるんだな」という意外なのがやっぱり一番面白かったですね。「この曲からこういうものが浮かぶんだな」というものに、どうしても目がいきました」

小室「みんな本当に想像していた以上に、一生懸命書いてくれたので関心しました。すごくまじめなのが多かったんですが、もっとおチャラけている、というか、もう少し違った意味での面白いストーリーもあったらよかったな。でも、みんなすごくうまいのでびっくりしました。私が書いた詞のフレーズをうまく使って、私が書くときに思っていた以上に深く考えて、詞の断片を使ってくれていたのがとっても嬉しかったです」

立岡「あまり文字を読むのは得意なほうじゃないんですが、本当は送ってもらったもの全部を冷静なときにゆっくり時間をかけて読んであげないと、これを書いてくれた人たちに申し訳ないな、と。これだけ一生懸命に書いてくれたということが非常に嬉しかったですね。内容について言えば、やはりパターンがはっきりしていたな、と思います。曲や詞のイメージ、TMのイメージを具体的に考えてそれに合わせたもの、小室みつ子さんの本(「ファイブ・ソングス」)の雰囲気に似たもの、それからまるでそれを無視したものがありましたね。個人的にはオリジナリティーのあるのがよかった。そういう意味でも⑪には、みんなの笑いが集まった。(笑)笑っちゃいけないんだけど」

ふじいてっかん/フリーライター。最近は構成を担当している「ビデオ・ジャム」にも自ら顔を出す。「バンドやろうぜ」が口癖。

みうらまさこ/フリーライター。ロンドンで買ってきた鮮やかなブルーのシャツがとてもよく似合う。僕にもきっと似合うよ、三浦さん。

小室「書いている本人には笑わそうという気は全然ないんだろうけど、すごく新鮮だった」

木根「読むほうに「なんだこりゃ?」と思わせるのがすごいよ」

三浦「最初の3行で笑わせてくれる」(笑)

小室「作品のほとんどのパターンが男の子と女の子の恋物語なんだけど、その中でいきなり飲み屋のおカミさんが出てくる、っていう」(笑)

立岡「こっちも読む前に曲名で「たぶん、こうだろうな」って想像して読んでるから、いきなりああいうのがくるとね」

木根「「Self Control」をもとにして、って書いてあるけど、そんなのこれっぽっちも流れてこない」(笑)

小室「でもあの設定、一応歌詞の中にあるわけよ、女の子を見送って始まる歌だから」

木根「関西版「Self Control」なわけだ」(爆笑)

＊

——それでは具体的に気に入った作品を

藤井「⑪は載せたいな、豪速球投手の中に変化球を投げるのがいて打てなかった、みたいな感じ。あとは①、②、③はうまい」

小室「①は私も好きだな。うまいなあと思った。文章がすごくきれい。最後のフレーズもいい」

藤井「この人の弟子になりたい。ぜひ、うちの事務所に入れたいと。(笑)僕の場合、基本的には意味不明、っていうか抽象的なものを選びました。今の世の中、具体的なものが多いから、そういう意味でも②と③が抽象的でよかった。自分の世界にのめり込んでて、他の人が読んでもわかんねえなっていうのがね」

三浦「何も考えずにスーッと入ってくるものを選ぼうと思って読んでたので、文章に注目して、というんじゃなくて、発想とか、展開の面白さ、ストーリー性の部分で選びました。④はブランコで女の子が消えちゃうあたりの発想が面白い。⑤はバンドの話なんだけど、親近感っていうか、例えば「その子もバンドやってるのかもしれないな」っていう視点をなんとなく感じて、ちょっとSFっぽいし、発想がキラッとしてた。⑥はストーリー性はいいんだけど、

TM NETWORK
THE COLLECTION OF SHORT STORIES

きねなおと／ミュージシャン。インタビューマガジン「ボリューム・ワン」で連載小説を執筆中。次号は7月23日発売。お楽しみに。

あまりにも女の子っぽいからどうかなとも思ったんだけど、TMをイメージして一生懸命書いたんだろうなというオトメチックな部分が出てて、最後のオチまでTMに引っ張ってきた努力も買える。詞の使い方もぴったりうまくはまってた」

木根「今回の企画をもりあげてくれた⑪。(笑)コンテストにもいますよね、実力がどうのこうのというより、面白かったっていうんで、特別賞をもらうタイプ」

小室「でも本人は憮然としてたりして」(笑)

木根「④。インストっていうとこの曲と「Dawn Valley」しかないんですけど、歌詞がないだけに、どういうふうにイメージが広がるかなっていうのが楽しみだった。ブランコを題材にして、少女と大人のはざまを揺れる心理状態を描いてあって、SFまでいかないけど、ちょっと不思議な世界でよかった。あと⑦は手紙のタッチで彼と彼女が出てくるんだけど、女性である作者が彼女ではなくて彼の視点で描いてる、っていうところに女の「性」を見たような気がします。(笑)都合のいいように、彼になりきって書いてるところがよかった」

小室「①。とにかく文章がきれい。⑧はストーリー、っていうより文章がすごくうまいの。文学的な鋭い文章で、もしかしたらちゃんと書ける人なんじゃないかな。びっくりしました。⑨の場合、他の作品がロマンチックなのに対して、「ナイフを持って何かを切り裂きたい、切り取ってしまいたい、もしかしたら自分の友達を刺すかもしれない」っていう発想が驚きだった。好きです」

立岡「⑩もいい。悩まずにスーッと読めていくっていう意味で気持ちよかった」

＊

——この企画に参加してくれた読者のみんなに、何かひとこと。

藤井「いやあ、僕はもう、本当に「ネタをありがとう」。(笑)バレないところでさんざん使わせてもらおうと思ってますから、ありがたくてしょうがない。(笑)関係ないけど、みんなが本当に書いた通りに思ってて、10代くらいの女の子から男がこういうふうに見えているんなら、僕はもっとモテていいなと思った」(笑)

三浦「危機感がありますね、自分の仕事に。みんながこんなにちゃんと書けるんだったら、がんばらねば、とね。やっぱりTMのことを好きだから上手に書けるんだろうな。好きだから書いてる、っていう気持ちが伝わってきました」

木根「TMの曲をこんなにたくさんの人がいろんなイメージをもって、全然違った感覚でとらえてるんだな、と。まったく自分たちが考えていないイメージを持っててくれたりするのが面白いですね。あと、まがりなりにも最近「書く」ということを始めた人間として、(笑)ああ、こういう人たちが真剣に読んでくれてるのかと思うと怖くなってきた。(笑)もうちょっと頑張らないと、いつかみんなに追い越されるな、とね」

小室「「初めて書いてみました」っていう人が結構いたんですよ。でもそれでもすごくうまくて「これで初めてなのかな」って。もしかしたら今回の企画をきっかけにして、自分の才能を見つけた人もいるかもしれない。本当にみんなうまいから、もしそういう仕事をやりたい、と思っていたら諦めないで頑張ってほしいですね。個人的には私の書いた詞を一生懸命読んでくれて、いろんな素敵な話を書いてくださったので、とても嬉しいです」

こむろみつこ／小説家、作詞家。TMの詩の世界を紡ぐミューズ。今回の企画のお手本ともいえる「ファイブ・ソングス」の著者である。

たつおかまさき／プロモーター。「歌って溺れる宣伝マン」。「約束は守る」を連発するが、飲むと忘れる。ロブ・ロウには似てない。

立岡「TMの曲を聞いてくれる人が、こうやって想像の世界を広げて文章にしてくれる、っていうのはいいなと思いました。こういう機会がないと、思ってはいても書くことをしなくなってるから、よかったんじゃないかな。これだけみんな想像力があって、文章に表現する力があるんだから、今回限りじゃなくて、何か次に生かしてほしいですね」

小室「私の友達でも投稿からひょんなことでライターになった人もいるし、アマチュアとプロの境なんて歴然とあるわけじゃないし……」

立岡「TMのショート・ショートを書いた、っていうのをきっかけにして、世界を広げていってくれるといいなって気がします。こういう企画もまたやりたいですね」

——アドバイスがあれば、ぜひ。

小室「こういう企画のときには、傾向を予想して「じゃあ違ったものを書いてみよう」っていうのでアピールするのもいいかもしれないですね。⑪の人はもちろんそんなこと思って書いたわけじゃないんだろうけど」(笑)

立岡「でもみんなが考えそうなことは、たいてい他の人も考えるだろうから、逆に素直な気持ちで書くのもいいかもしれない。自然に」

三浦「みんな方言で書いてきたりして」(笑)

立岡「今度は受け狙いだらけ」(笑)

＊

TM NETWORK THE COLLECTION OF SHORT STORIES

——というわけで、入選10編、そして5人全員の推薦による特別賞1編が選ばれた。みなさんからの力作、傑作、怪作をじっくりと楽しんでいただきたい。

TMワールドへようこそ——!?

①Fool On The Planet　広島県尾道市／宮本徳美

彼と私とは幼なじみだった。小さい頃、いつも二人は一緒に遊んだ。彼は飛行機が大好きで銀翼をきらめかせ、まるで頭上すれすれに飛んでいくようなその姿を走って追いかけた。そして息をきらして夕陽の中に吸い込まれていく機体をいつまでも見つめていた。瞳を輝かせて……。

その瞳を見ると幼心に彼が遠くへ行ってしまうような、なぜかそんな不安に襲われて、立ちつくしている彼の手をぎゅっと握り締めた。少し大きくなると今度は二人でよく星を見た夜、こっそり家を抜けだして近くの小高い丘まで駆けていく。そして芝生に二人して大の字に寝転がるといつも彼は星座を教えてくれた。蠍座の心臓アンタレスを狙う射手座、善悪を量る天秤座、白鳥座が天の川で羽ばたき琴座のベガが悲しく瞬く……夏の夜空を指差しながら説明してくれる彼の瞳はどんな星達より輝いて見えた。

やがて夜空の星座も幾度となく移り変わり、再び現れる。そうして時は巡りいつの頃からかお互いがなくてはならない存在であることに気づいていった。そんなある時、彼が宇宙飛行士になるといった。人類がまだ今のように自由に惑星間を行き来出来なかった時代。だれもが無理なことだと笑った。宇宙飛行士になんかなれやしない。だけど彼はあきらめなかった。そして私にはわかっていた。彼が必ず宇宙飛行士になるだろうこと、きっと夢を叶えるだろうことを。それはちっとも不可能なことなんかじゃない。いつの時代にも自分の夢を叶えてきた人はいるのだから。たとえ万に一つの可能性しかないとしても、自分がその万に一つの可能性であるかもしれないのだから……。

そして彼は宇宙飛行士になった。その瞳の中に、私はオレンジ色に染まった空の下でいつまでも飛行機を追っていた少年と星空を遠い目をして見つめていた少年を見た。あの頃と変わらない、夢を追い続ける瞳。

――どこにも行かないで、離れて行かないで――言葉にならない想いが胸を締めつける。彼の手をぎゅっと握り締める。幼い頃の様に。

「いつか二人で青い地球が見れるさ」

彼は優しくそう言って旅立った。そして

「そして……」

そこで母さんはふっと黙り込んだ。

「それからどうしたの？」

僕はなんとなくわかっていながら聞いた。

「行方不明になって、戻ってこなかったわ」

「それじゃ……」

「あんまり地球がきれいなんでどこかの星から一人でこっちを眺めてるんでしょ」

母さんはちょっと寂しそうに笑った。

「ああ、ごめんなさい。明日はあなたが月にある宇宙飛行士の学校へ行こうっていう大事な旅立ちの前にこんな話をするなんて」

そして慌てて涙を隠しながら無理に明るくわらって見せた。それから僕をじっと見つめた。

「地球ってたくさんの夢を生むの。人はそれを受けとめて永い時をかけて叶えていく。その人が叶えられなくても誰か次の人がその夢を叶えようとする。そうやって繰り返し繰り返し夢は受け継がれていくの。だからあなたの夢も遠い昔の誰かの夢かもしれないわね」

母さんはそう言うと僕の顔を優しく両手ではさんだ。誰かを僕に重ねて見ている。

「さあ、お父さんを呼んで来てちょうだい。久ぶりにテラスで星を見ながら三人で乾杯しましょう」

「何に乾杯するの？」

僕は父さんを呼びに行きながら振り返った。

「そうね、あなたのその瞳と夢多きこの素敵な青い惑星に生まれたことを感謝して」

そう言って母さんはにっこり微笑んだ。

夜の帳が降りる頃、星が一つ瞬いた。

②Twinkle Night　静岡県駿東郡／堤聖子

くるくる　くるくる

回転扉。キラキラまわるガラスの中に、光にまかれて君が消えた…。

クリスマスの街を走り回る、回る。

くるくる　くるくる

街に溢れる光と同じ数だけの音が、耳の中でshakeされて眩暈をおこしそうだ。

（足は地についてるんだろうか、浮いてるんだろうか…？）

いつの間にか、赤ワイン色した風景の中に囚われてる。

踊る人たち。仮面の女。タキシードにカクテルの男。浮かれたパーティーは石畳の上の騙し絵だ。一列に横並ぶドアを縫いながら、ノック、ノック！

どのドアも空。ただの路上のドア。

ふりかえる僕に、うかれたドレスの女たち。

男たちが、同じ様にふりかえる。

クスクス…　ヒソヒソ…

薄笑い、眉をひそめ、肩をすくめる人達の前をぬけて走る。

ドウシテ君ヲ　失ワナクチャナラナイ
コンナニ綺麗ナ夜ナノニ…
コンナニ君ヲ愛シテルノニ…！

次から次へ扉を探して、道をジグザグ。あふれる程の光に目を痛くしながら。それでもこんな夜じゃなければ、君を探せやしないだろう。今夜は特別、"天使の夜"。

と、突然、足下に扉――いや、鏡の中のドア。（よく考えろよ）上を見ればそのドアそのものの方がある。

（よーく考えるんだ）　……考えて、鏡のドアを開け飛び込む！

――鏡が走ってゆく……僕と反対の方向へ、すべるように。

情けない顔の僕。頬を紅潮させた僕。人を愛してる顔の僕。

いくつもの顔、いくつもの鏡と交差して、僕の扉を探すけれど、ひとつとして実在のドアはみつからない。

暗闇の中、落胆。うつむく。ここではもう、あのクリスマスの街は幻……いや、もしかしたら、クリスマスのあの夜の方が本当の幻なのかもしれない。

その時、幻の滲んだ明りが届けられるように、大きな鏡が一枚近づいてきた。目の前でその鏡はキラッとひと輝き、左右に開く。そこには1つの扉――！

ゆっくり近づいて冷たいノヴを握る。

ドアの向こうは外の世界。夜の森を見渡せる丘の上。星が輝いてはいるけれど……その星こそが正しく、夜明け前の印！

もう朝が来る！　どうしたらいい!?　早く早く。でも、もう戻る扉も消えていて、僕は立ち尽くす。どうしたらいいんだ？　何をしろと言うんだ！　お願いだ、"天使の夜"…

――空に手をかざして、奇跡を願う。バカみたいに懸命に。（バカでいい）

なのに、もう、夜の扉は開かない。
星だけがただ輝きを増して
Twinkle Twinkle
異常な程に、降る程に………。

Gloria in exelsis Deo……
ベツレヘムの空の天使の歌声
一夜にしてこの世界におこる奇跡
ソレヲオコス、チカラ

気がつくと、僕は街の中に戻っていた。呆然とつっ立って。時化たポケットに両手をつっこむ。気の抜けたフルーツ・ポンチの街。何もかもが贋ものの夜。ただ君は本当にいない。悟った事と現実が引合わない僕がここに残されるだけ……。

くるくる　くるくる

回転扉。一人勝手に回り出して、まばゆい程の光の帯をたなびかせ、……後ろから回った手にふと振返ると、シャンパンの夜に君が微笑って立っていた。

「おかえり　Merry Christmas…」

③Dawn Valley 神奈川県横浜市／伊東佳代子

夢を見ていた。
荷物を積んだラクダの列が、隊商の男達に連れられて、月明りの中を歩いて行く。
僕が、
「どこまで行くの？」と声をかけても、皆、無言で、ただひたすら歩き続けている。
だけど、最後のラクダが僕の前を通り過ぎようとした時、突然、彼の背の荷がほどけて、
Lily of The Valley
すずらんの花があたり一面に散らばった。
月の光に照らされて、白く輝く谷間の百合。そのむせかえるような香りに押し潰されて、僕は息が出来なくなる。夢中でもがいていた。
目が覚めた時、僕は泣いていた。
遠く離れたこの街で、淋しくなると、いつも彼女の最後の背中を思い出す。
夕暮れ時だった。ガランとした部屋の隅にダンボールの箱が積み重なっていた。
わがままに生きる僕を責めもせず、笑顔さえ見せながらピアノに向かったあの日の彼女。
だけど、その背中は震えていた。
「愛してる」「必ず帰ってくる」
「本当は君を連れて行きたい」
彼女の細い後姿に、僕のいいわけや飾りの言葉が積み重なっていく。
彼女の指が止まった。曲の途中で止まった。振り向きもせず、ピアノに向かったまま、彼女はポツリと話し始めた。
彼女の生まれた北の国では、広い草原は季節になるとラベンダーの花が一面に咲きつくし、地平線を青紫色に染めあげる。それはもうみごとな光景だ。
けれども皆、同じように沢山の中で咲き乱れていて、一つくらい摘み取ってもわからないぐらいラベンダーの畑は長く、美しく続いているのだ。それより自分には、青い空と白い雲と、谷間に咲いた一輪の白いすずらんの小さな花の方が、よりずっと〝生きている〟って思える。うなだれたように咲く白い小さな花。摘み取るとすぐに枯れてしまうような弱々しい花。でも、その清らかな存在感は、人に摘み取る罪を犯させない優しさ、強さがある。そんな雰囲気がとても好きだ。
そんなような事を話していたと思う。
その時彼女が何を言いたかったのか、僕はあまり深く考えもしないで、沢山の夢といくらかの荷物だけを持ってこの街にやって来た。
もう一度聴きたかったあの曲。DAWN VALLEY。
僕は窓辺の小さなマホガニーの机で短い手紙を書き始めた。
『昨日、BROMPTON通りのHARRODSという、こちらではちょっと有名なデパートで、すずらんの香水を見つけました。送ります』
昨日、僕は食料を買い出しに街へ出掛け、ハロッズには一缶だけティークッキーを買うつもりで立ち寄ったのだ。だけど、店を出てきた時、僕が手にしていたのは小さな香水の包みが二個だけだった。
売り場にちょこんと置いてあったこのすずらんの丸い小さい香水は、なんとなく彼女の香りがしてきそうで、思わず僕は二つも買ってしまったのだった。
初めから一つは彼女に送ろうと思っていた。そしてもう一つは……あの時はだれに贈るあてもないのに、なぜ買ってしまったのだろう。
今、僕はもう一つのすずらんをこの机の中にしまっておく事に決めた。コルクの栓はゆるめたまま引き出しの中にいれよう。
なぜってそれは、
僕は谷間の百合の夢が見たいから。

④Childhood's End 北海道江別市／松本みちよ

私にとって、久しぶりの休日だった。窓の向こう側から、子供たちのにぎやかな声がする。私はぼんやりと、天井を見つめた。少し疲れている自分に気がつく。そして、こうしてベットの上に、のんびりと寝ころんでいる自分が、妙に懐しかった。窓から入る日差しは、とても優しくて、ほんの一瞬、まどろみそうになった。すると、急に子供たちの声が聞こえなくなり、ブランコを漕ぐ音だけが、静かに残っていた。
キーコ　キーコ
キーコ　キーコ
とても悲しい音だった。
私は不意に起き上がり、窓の外を見た。すぐ近くの公園には、さっきまでいたはずの子供たちの姿はなく、ポツンと一人だけ女の子がブランコに乗っていた。その姿は、遠い昔の私にとてもよく似ていた。あの頃の私は、いつも一人で遊んでばかりいた。女の子は、私の視線に気づいたのか、こっちの方を向いてニッコリと笑った。私も思わず微笑んだ。
ブランコか……。もう10年以上も乗っていなかった。私はいつも座って漕いでいた。そして最後には勢いよく飛び降りて、ポーズをとった。女の子はまさしくそれをやろうとしているかの様に、ぐいぐいとブランコを漕いでいた。今のブランコには柵があるから、とても危険なはずなのに、女の子は必死で漕いでいた。そして体が逆さまになるくらい上がった時、パッとブランコから手を放して、思い切り飛び降りた。
〝あっ!! 危ないっ!!〟
心の中の叫びを裏切る様な出来事が、私の目の前で起こった。
女の子が突然消えてしまったのだ。
〝何処!?〟
辺りを見渡してみても、どこにも姿はなかった。私は、急に不安になり、あわてて部屋を飛び出して公園へ行ってみた。
どこにもいなかった。
そこには、静まり返った公園があるだけだった。遠くから微かに子供たちの声がする。それから、白い車が一台、公園の横を走りすぎていった。
ふと、さっきまで女の子が乗っていたブランコへと目がいった。恐る恐る近づいてみる。何の変哲もないただのブランコだった。けれども妙に懐しい気持ちになって、ちょっとだけ乗ってみたくなった。そっと触れてみるブランコの鎖。まだ、少し暖かい。女の子のぬくもりが残っているかのようだった。
ギーコ　ギーコ
少しずつ漕いでみる。足が地面につきそうで、ひょいと上に向けた。どんどん加速をつけてみる。なんとなく空へ届きそうになった。そして私自身が、とてもちっぽけな物の様な気がした。
ひとつ、ふたつ、みっつ。ブランコを漕ぐ時の私のクセだった。ワケもなく、漕いだ回数を数えていた。
〝あっ……女の子……〟
そうだった。私は女の子を捜しに来たのだった。ブランコを止めようとした。が、止まらない!! 止まらないのだ!! どんなに地面を蹴ってみても全く止まらない!! まさか女の子もこれと同じに？ でも、とても楽しそうだった。あの無邪気な笑顔に不安は全くなかった。じゃあいったいこれは……。私の中で次々と、たくさんの不安が横切る。仕事……両親……友人……夢……その全てを失いたくないと思った。けれども止まらない。全く止まらないのだ!! ただのブランコなのに。こんな小さな乗り物なのに。私は軽く見ていたのだろうか……。
急に、周りのざわめきが遠くなり、やがて何の音もしなくなった。そして、春風だけがスーッと私の頭上を通っていった。
「お姉ちゃん!!」
急に上の方から声がした。見るとさっきの女の子が、ものすごいスピードで落ちて来る!! 私は、いつの間にか止まっていたブランコに座ったままで、女の子を受け止めた。とても軽かった。女の子はニッコリと笑って私のことを見た。
「どうも、ありがとう」
そうつぶやくと、ピョンと私の腕から降りて、駆けていった。
やがて、辺りのざわめきが近づき始めた。車の通る音がして、子供たちが姿を現し、にぎやかな公園に戻っていった。私はポツンとブランコに座ったままでいた。いったい何が起こったのだろう。子供と大人の間にいた私のジレンマだろうか。それとも、もう子供の頃には戻れない寂しさの幻だろうか……。幼い私が昔、いつも感じていた空しさがあふれ出した。
優しかった日差しが少し冷たくなってきた。もしかしたら雨でも降るのかもしれない。私はまた、自分の部屋へと駆けていった。

TM NETWORK THE COLLECTION OF SHORT STORIES

⑤Twinkle Night 群馬県勢多郡／石田あずさ

光と音の氾濫。ショウ・ウィンドウからは七色の灯がもれて、舗道の飾りレンガにクリスマス・ツリーの影を映し出していた。

顔を傷だらけにした宮崎尚生は、そんな冬の街を歩っていた。ウィンドウに映った自分の顔をちらりと眺め、そっと頰のバンドエイドに触れてみる。

「いてて……」

不意に尚生の後ろで笑い声が洩れた。振り向くと、尚生の見慣れぬ大きな瞳の少年が、いたずらっぽい笑顔で立っていた。

「どこまでついてくるんだよ。俺になんか用か？」

ムッとした尚生の表情を、大きな瞳が覗きこむ。

「すごい喧嘩だったね。ギター投げちゃったりして」

そして、たまらなくおかしいという風に肩を揺らした。尚生はますます不気嫌になって、その場に寝転んだ。飛行場近くの土手の上。

「全部知ってんだったら俺に構うな」

〝大きな瞳〟は一言「えへへ」と笑って、尚生の隣りに寝転んだ。不思議な笑顔だった。しばらくの沈黙のうちに、尚生の苛立ちが薄れてゆく。

「同じ夢を信じて一緒に歩いてきた筈の仲間が実は全然自分と違ってたっていうのは、哀しいもんだよなァ。なぐってやりたくもなるぜ。〝もう音楽なんてものやってられない〟だとよ。俺の夢も終わりだ。あと少しでレコード出せたのに」

尚生はわからなかった。自分の夢を見知らぬ人間に話している自分が。しかしこの不思議な笑顔に話しかけていると、心の中を心地良い風が吹きぬけてゆくようだった。

「あ、ねえ、飛行機が飛んでくよ」

ふいに少年が跳ね起きた。両手の人差し指と中指でちょきをつくり、重ね合わせて空へかざしている。

「なんだ、それ？」

「飛行機が飛んでくのを見たらね、こうやって囲むんだ。何機囲んだか覚えとくと、願い事が叶うんだって。だけど――、他人に話すと0機になっちゃう」

「それじゃいつ叶うか、わかんないじゃないか」

「そうじゃないよ」

少年の顔がきゅっと引き締まる。

「願いをかけた数じゃなくて、自分がそれを本当に望んでいれば、きっと叶うんだ」

飛行機の翼がつくる夜空の濃い一部分が遠のいてゆく。あとには降るような星が残った。

――自分が本当に望んでいればきっと叶う。

尚生の心でなにかがはじけた。

「叶えるのは、自分、なんだな」

しかしそのつぶやきに答えはなく、不思議な笑顔も空気に溶けたようになくなっていた。

昨日は彷徨っていた尚生の心は、今夜しっかりと夢に向かって踏みだそうとしていた。ライブハウスの扉の前。一人でもギターを弾き続けるつもりだった。唇をかみしめ、扉を開ける。

ふと、扉のガラスにあの少年の姿が映った気がして振り向くと、向かいの店のショウ・ウィンドウから人形が見つめている、少年にそっくりな人形が笑顔で居た。大きな瞳が、一瞬ウインクしたように見えて、尚生も思わず笑顔になる。

「びっくりした、あいつはお前だったのか」

そして両手でちょきをつくり、不思議な笑顔を囲った。

「叶えてみせるさ、俺の夢だから」

少年の答えのように、ひとひらの雪が尚生の肩に舞い降りた。見あげると、無数の星が姿を変えたかのように、無数の雪が夜空を埋め始めた。

あるひとりのロマンティストの生誕。

夢を追ってる誰もが、ロマンティストなんだ。

⑥Twinkle Night 埼玉県上尾市／木根真衣亜

<ACT.1>

――NW　#37号アメリカ行

私は、ただぼう然とアイツを一人だけ乗せて飛びたつ飛行機の名前をつぶやいていた。少なくとも私達、普通の恋人のつもりだった。あんな普通じゃない言葉がアイツの口から、出てくるまでは……。

「5年間、僕に時間をくれないか」

「!?」――あたし、すぐ答えができなかった。確かにあたしは、アイツのこと愛してるし、待てない程アイツを信じてない訳じゃないけど、今この時代にいくら何でも5年は、長すぎるよぉ。それに20歳のムスメをつかまえて5年とは正気の人の言うことじゃないよ。もし、アイツが約束をスッポかしでもしたら、5年もさそいを断り続けてきたヤツに誰が声なんか、かけてくれるもんか。なんて思いながらも、アイツの目に写っているもの、これからうつしだそうとしているものがたまらなく、まぶしく未来を照らしているから、あたし思わず「うん」っていっちゃった。

「5年後の僕の誕生日には必ず迎えに来る」

アイツ22歳、あたし20歳、まだ先のことなんて何にもわかってない。

<ACT.2>

それから幾月かたってあたしは、短大出て小さなオフィスで働きはじめて、いわゆる普通のOL生活を送った。ただあの普通じゃない約束を胸にひめて…。だってこんなこと会社の友達にいってみたところで、とんだ笑い話しだもんね。なんて思ったら自分でも少し哀しくなっちゃった。いかん、いかん。

3ヶ月ぐらいしてU.S消印のハガキがついた。マンハッタンの一角の小さなアパートメントをむこうでの巣にしているらしくて、その他自分の近況はほんのちょっとで、あとは音楽の事がいっぱい書いてあったけどあたしにはまだ半分もわかんなかった。でもなんだかたまらなくアイツらしくて笑いすぎてたら涙が出ちゃった。

<ACT.3>

それからだんだん手紙の間合が長くなってあたしもあたしなりに忙しくなった頃、半年振りにアイツから手紙が届いたんだ。あたしはその手紙を見て驚いた。だって消印が東京なんだもん。日本なんだもん。でも帰ってくるなら何で連絡くれないんだろう……。

その手紙には、黙って帰ってきたことの謝罪文と日本でのレコード・デビューのこと、それから、このプロジェクト（つまりアイツの5ヶ年計画）は、やっぱり5年はかかるから日本にいたとしても逢うことは出来ない。けれど必ず迎えにいくから残りの2年、僕を信じて待っていてほしい、ってなことが書かれてあった。あたしは、嬉しいんだか、悲しいんだかわからなかったけど、今は同じ国にいるんだし、今迄3年も待ったんだからっていう気持（半分ヤケクソ）で待つことにした。

<ACT.4>

なんていってられたのは最初のうちでアイツはだんだん大きくなってきた。俗的な言い方をすれば、売れてきたっていうのかな……。あたしはアイツがひとつおおきくなる度に不安になった。アイツを信じてないわけじゃない。ただ、おおきくなってしまった今のアイツにあたしが本当に必要なのかがわからなかったから……。

<ACT.5>

1985年11月27日――とうとう約束の日が来た。とうとうなんて言葉はおかしいかもしれないけど、あたしにとっておおきなカケ。一生に一度の大勝負の白か黒か出てしまう日である。もちろん黒が出ても、あたしは、恨んだりしない。あたしに人をみる目がなかっただけ。なんていいながらアイツからの電話を待ってる。今日は山口でコンサートだから車を飛ばしても今日にはまにあわないだろうな。だから、あたしにとってはTELが頼り……9：00pm……9：30pm……、だけど電話は10時をすぎても11時をすぎてもかかってこなかった。11：50あと少しで5年間っていうつかの間の夢はきえる。58、59、……00――むなしい程乾いた空間に時報が鳴り響いた。あたしは、つっかえ棒がとれたみたいに、崩れて堕ちた。

<ACT.6>

もう、あたりは、明るくなっていた。あれから電話の音は聞いてないから、どうやら本当にカケに負けたみたい……ただぼう然と床にへばりついてたら、

「ピンポーン」いきなりベルが鳴った。

「アイツ!?」あたしは大急ぎで玄関に走った。でもそこには、見慣れない一人の人が速達の小包を持って立っていた。あたしは用件を済ませると、それを開いた。

「！」

そこには、ウエディング・ドレスを着た人形のジャケットのレコードが入っていた。

Twinkle　Night　いくつもの扉

EmptyHeart 叩き続けてきた

Twinkle Night 君を探さなくちゃ

Come&See 今夜中に

きれいな夢と　ひきかえにして　取り戻すのさ　Till Tonight

Till Tonightのところには、赤い線が引いてあってその下には、日付がうってあった。

――1985.11.28.Twinkle Night――

今日、5年越しの夢　かなう……。

⑦Confession 大阪府豊中市／佐野茉莉子

お元気ですか。

君からはいつも長い手紙を貰っているのに、僕が出すのはせいぜい5回に1回、それも絵葉書ばかりだったということに、ふと気づきました。多分、それ以外にも、様々に君を傷つけていることがあるんでしょう。

こちらでの生活にも、かなり慣れました。大体において、ミュンヘンという所は、日本人にとっては住み易い街なのではないか、と思います。欧州屈指の大都会というわけではなく、買物や移動に不自由するほど田舎町でもない。観光客と外国人労働者が多いところに目をつぶれば、さほどカンにさわる所ではないね。もっとも、君も僕も、観光客とそう変わらない立場だったんだよね、初めて会った時は。

実は昨日、アルテ・ピナコテーク（美術館）へ行った。ヴァン・ダイクの部屋に来たとき、君が好きだった「ビオラを弾く少女」を見て、なんとなく手紙を書きたくなってしまった。Gambenspielerinの意味がわからなくて、ごそごそ辞書を捜してた君に僕が教えたら、びっくりしたみたいな眼でこっちを見ていた。あれは気分が良かった。おかげで、何かというと、君に単語をきかれる羽目になったけれど。

あれから4年経ったなんて、何だか信じられないね。4年の間、一体何日会っただろう。365×4 ＝(イコール) 1460日のうち、2割も会っていない気がする。それを君は、多いと感じるか、少ないと感じるのか。会えばいつも、無邪気な表情(かお)をして喜んでいたけれど、会っていない時はどうだったんだろう。

今思うに、僕は相当、薄情な男だったんじゃないだろうか。丸2年も留学して、ろくに手紙も書かず、何の約束もせずに、君が諦めて去ってしまっても、仕方のないことをしてきた。なのに君は、今でも手紙をくれる。それは僕を自惚れさせるよ。

だからはっきり言っておくけれど、僕はこの先も、約束なんかしてあげられない。いつ日本に帰るか、自分でもわからない。手紙も、そう多くは書けないし、また君を傷つけるかもしれない。もともと、そうやさしい方ではないし、君が泣いていても、何もしてあげられない。

ただ、頼むから、僕の部屋に電話をかけるのだけは、やめて欲しい。部屋が残っているだけで、誰もいないんだから。コールの音をひとりで聴いて、泣くのだけはやめてくれ。

それくらいは、僕にも想像がつくよ。君はそういう人だから。それで僕には、一言だって言わない。図星でしょう。でも君のその強さに、僕は甘えているのかもしれない。

僕は絶望的な筆不精だから、こちらからはなかなか返事を出さないけれど、君の手紙はいつも楽しみにしています。他愛のないことから、嬉しかったこと、哀しかったことまで、今の君がわかる。その唯一の手立てが、君自身からの手紙です。

ひょっとしたら、8月頃、一度日本に戻るかもしれません。その時には、一番新しい君に、直接会えるといいね。

それまで、お元気で。

⑧Don't Let Me Cry 北海道江別市／松本みちよ

「じゃ……今度はあたしからTELする」

「うん……じゃあ」

……そういって電話を切ると、僕の部屋の中は、凍りつくほどの静寂に包まれた。夜だというのに電気をつけないでいたが、部屋の中は妙に明るい。ブラインドをあけたままの窓の外では、夜の黒が白に見えるほどの激しい雨が降っているのだった。

ケンカ、とも言えないような小さなイザコザがもとで、彼女とのこの週末のデートは取りやめになってしまった。『あたしからTELする』という彼女の言葉は、遠回しな僕への拒否だった。しばらく逢うのはよしましょう、という。

性格の不一致、なんて言葉がよく使われるけど、完全に一致しているカップルなんて絶対いやしない、と僕は思う。それでも彼女は、このまま僕から離れて、また完全には一致しないだろう男を探すのだろうか。見つかったら、僕に別れを告げるのだろうか。

「・・・・・・」

静寂を突き破るようにわざと大きなため息をつくと、僕は前髪をかきあげた。振りあげた手が、闇のせいか妙に白っぽく浮き上がって見えた。

……それなら、あの娘の手を闇の中で見たら、もっと白く見えるんじゃないかな。……そう思って、僕は彼女の腕を思いだそうとした。けれども、浮かんでくるのは、彼女の哀しげな顔や笑った顔、あとはぼんやりした輪郭だけだった。

思い出さないとどんどん彼女が遠ざかっていくようで、僕は冷たい壁にもたれかかって、一生懸命、彼女の腕をイメージした。

……腕は、細かった。多分指も。マニキュアをあまりしない爪は長めで、奇麗なさくら色をしていた。右手のくすり指には銀の指輪。……いや、たまには金のもしてたっけ。左手の内側には小さなホクロがあった。

……思いだせた。

よかった。

……そうして同時に僕は、こんなことを考えてしまうほど彼女を愛している自分に気がついた。

愛しているとか好きだとか、今まではっきりと考えたこともなければ、ましてや彼女に言ったことなどただの一度もなかった。

照れくさかったし、それに今までの僕は、どれが本当の恋かも判らなかったから。

19の僕と18の彼女。

何もかも危なっかしいところに、僕はいる。年齢も、お互いの距離も、心も。

年を追うごとに、好きは好き、嫌いは嫌いと割り切って生きることができなくなってきた。……だからこそ僕は、本当に好きな君を、心から大事に思う。こんなに好きな君を、こんなちょっとしたすれ違いで失ってしまってはいけないと思う。

僕は瞬間、電話の受話器をとりあげ、まっ暗闇でも決して間違うことのない彼女のTELナンバーをプッシュした。

むこうからかけてくるのを待っていたら、今のこの思いは永遠に伝えられない、そう思った。

彼女はなかなか出てくれない。早く早く。僕は汗ですべる受話器を左から右に持ち変え、乾ききった唇を舌で湿らせて、彼女が出てくれるのを待った。こみあげる思いに、目頭が熱くなる。

『おとこのひとは、泣かないのよね』

昔、彼女にそう言われてけっこう悩んだことがあった。そして今、確信する。

おとこだって、泣くんだよ。

そして僕を泣かせるのは、きっといつだって君なんだ。

……僕をもう泣かせないでくれ。

「……もしもし!?」

30回くらいコールして、やっと彼女が出てくれた時の僕の声は、我ながら情けなくて、でもけっこう感動的なものだった。

TM NETWORK THE COLLECTION OF SHORT STORIES

⑨Human System

千葉県船橋市／永浜理香

朝は、いつも用意されているTVの画面みたいに、気付くと始まっていた。

僕は、生の食パンをかじると、夏の制服に腕を通す。７月の朝は、すっきりしない。

「いってきまぁす」

空っぽな部屋に声かけてから、ぺちゃんこの鞄、片手に、僕は人混みにまぎれる。

僕は、ナイフが欲しかった。そう言うと、友達は笑った。

僕は全てを断ち切ってしまえる、ここからかけだせるためのナイフが欲しい。

「そんなの無くても生きていけるさ」

僕は、ぼんやりと、そうかもしれない、と言った。

人混みの中を、僕は歩く。隣りの友達とも二言三言しか会話をかわさず。そう思うと何か不気味だったので、僕は、話しかける。

「運命をかえる出会いって、あるかな」

「さぁな──。なんでよ、急に」

友達は面喰ったような顔で苦笑した。

「昨日、ドラマでやっててぇ」

会話が続く。空は晴れていた。空気はぬるかった。大人は無表情で歩いてた。

運命をかえる出会いがあったなら、僕のナイフはみつかるだろうか。それとも跡形もなく消えさるだろうか。

「あ、──」

僕は小さく叫んでふり返る。友達は、

「どうした？」と、言った。

白い背中は人混みに消えた。僕は、あきらめたように前へ進む。

友達は、何も聞かなかった。

教室の窓、全開にして、僕は街をのぞく。きっとこのどこかにいるはずの誰かは、元気だろうか。──僕はここにいる。

教室の中は、やけに渇いていて、妙に居心地が悪かった。誰かが、足りない気がして、ふり返る。友達が、いた。

「誰か、さがしてるのか？」

「うん、誰か」

「ナイフ、やるよ。俺もう、いらないから。」

友達は笑って、教室から出て行った。すっきりしたような、少し哀し気な顔で一度ふり返り、学校から出て行った。

「アイツ、中退だってよ」

かすれた声が、ひそひそ話をしてた。

僕はジャックナイフをもてあそぶ。これで何を、切ればいい、人混みの大人達を刺して歩こうか、追っかけて友達を刺そうか、それとも、僕を刺して見ようか──。

〝何か〟が、足りない。僕はナイフを、ポケットに押し込む。

朝は、昨日と同じように、僕が目を開けると、朝の顔をしてそこにいた。７月のすっきりしない朝の中で僕は、ポケットの中のナイフ、握りしめる。──何か、が、足りない。

僕は、一人で人混みを歩く。隣りに、友達はいない。一人で話すのもばかなので、僕も黙って歩く。僕のナイフは、何も切れない。友達は全て断ち切って、いってしまった。

僕は、僕はまだ、ここに、いる。

人混みの中、僕はふり返る。白い背中が、一瞬、ふり返りかけた。僕は、何故か、前を向いて、歩き出す。きっと、あの背中も行ってしまった。何か、が、みつかったら僕は自由になれるだろうか。

僕は苦笑してから、学校へと歩き出した。

TM NETWORK
THE COLLECTION OF SHORT STORIES

⑩Confession 兵庫県西宮市／篠崎翼

静寂の中に存在していたはずのエンジン音が現実のものとしてよみがえろうとしていた。一体どれぐらい眠っていたのだろうか？

飛行時間は13時間しかないはずだ。

窓の外は雲しか見えやしない。

もう一度眠ろう。N.Y.は朝のはずだから……。

マンハッタンの朝が一瞬の静寂の中で眠りからさめようとしている。

2ブロック離れたセントラルパークから、青い鳥がささやいている。

マンハッタンの中にも人々の生活が在る。

裏通りに面した窓部から見えるいつもの風景。何も変わりはしない。

「おはよう」

開け放たれた窓から素顔の彼女が声をかけた。

「おはよう」

もう何度も僕は彼女と、この一連のやりとりをくり返している。

彼女は、ダンサーなのかもしれない、女優の卵なのかもしれない。そんなことはどうだっていいことで、彼女のたった一言のあいさつを聞くだけで、僕は少しずつ大切な何かをとりもどしている気分になれた。

シャワーをあびると、僕はスウェットに着変え、セントラルパークのジョギングコースを軽く一周する。

そして、僕の住むアパートの隣にあるカフェに立ちよる。

ドアをあけると、いつものようにマリアは手を止めず僕を迎え入れる。

「おはよう、いつもと同じ時間だ」

そう言うと、マリアはいつものカウンターに僕の為に作られた朝食をおく。

初めて僕がマリアの店に来て、つたない英語で朝食を食べたいと言った時からメニューは変わっていない。

そして、マリアは常に僕に対してスローなテンポで話しはじめる。

「今日はとてもいい天気だ。今日は何をする予定なの？」

手早くフライパンの中の卵をかきまぜながらマリアはほほえむ。

「今日は……そうだネ、天気がいいから、セントラルパークでスケッチでもしょうかナ」

熱いコーヒーカップを両手でさましながら答えをさがしだしていた。

「それはいいネ、こんな天気のいい日は素敵だ。でもまちがっても眠ったりしたらだめだよ、わかってるかい…」

マリアのそのあとの言葉をすっかり僕はおぼえてしまった。

「N.Y.は危険な街だ」

「そう、その通り」

マリアは僕がとてもたよりない子供のように見えるようだ。

けれど彼女のやさしさは決して一方的な親切ではない。彼女だけじゃなく、僕の知りあった数少ない友達はすべて、一方的な親切をおしつけることがない。

これがこの街でのルールだ。

N.Y.の生活は少しずつ僕を本当の僕に近づけていった。だれも知らない生活の中で、たった一人の僕自身だけをたよりにして生活はくり返されている。身動きできなかった関係は海のむこうに捨て去った。一方的に別れをいった友達から何度か手紙が届く。

考えることも、悲しむこともできなくなった僕は、やさしさも知らずに多くの友達を傷つけていた。

N.Y.で朝をむかえるたびに僕は少しずつやさしくなれる。

すべてを捨て去り逃げだして来たけれど、今ならほんの少し強くなれるだろう。

こんなに離れているのに、寂しさは感じない。多くの傷を刻みこんだはずの海のむこうの友達からやさしさが伝わる。

今なら本当のことが言える。

マンハッタンで僕は朝をむかえる。

そして君は眠りに落ちる。

街は動きだす。

街は眠りにつく。

時計は別々の時刻を指す。

●特別賞

⑪Self Control 大阪府堺市／岩崎晶

ここは大阪、時は夜。私は、少しさびれた街なかで小料理屋「扇楠」を営んでおります、おカミでございます。

少し前まではお客さんがぽちぽちといたのですが、今では中野さん一人になってしまいました。

中野さんは22、3才くらいのサラリーマンで、ときどき上司の方や同僚の方と、ここへいらっしゃいます。中野さんはスラリとしていて、なかなかハンサムな青年です。今日はひとりでやって来て、ぐいぐいとお酒をあおっておられます。もう少しで酔いつぶれてしまいそうです。そういえば、この店に入る時、いつもとちがって少し元気がありませんでした。

「そんなにお酒飲んで、どないしはったん、中野さん」

「うん？」

「そんなに飲んで、どないしたん」

「今日、俺、えらいことしてしもたんや」

そこで、中野さんはまたぐっとお酒を飲みました。

「俺、今日、ある娘をデートに誘ったんや。映画観て食事して……と思て。その娘と行くのは初めてやってん。予定通り、映画観て、食事して、帰ろう思て駅に向かってたんや。とても楽しかったけど、その時はただそれだけやってん。けど、一緒に歩いているうちに、なんかすごく胸が高まってきて、思わずその娘にキスしようとしてなぁ。そしたらその娘、俺のほっぺたひっぱたいて、駆け出して、タクシーに乗ってそのまま行ってしもたんや。俺、しばらくその車をじっと見てた」

中野さんは、だんだんとろれつがまわらなくなってきました。

「キスって、そんなに大事なものなんやろか？　俺、自分で言うのもなんやけど、そんなに悪い男やないと思うし……。キスぐらい、いいんとちゃうかと思ってな。やっぱり俺が悪いんかなぁ？」

中野さんはそう言うと、また一口お酒をのみました。

「それは突然すぎるんちがう？　やっぱり物には順序ゆうものがあるんやし……。「好きや」の一言でも言ったん？　以心伝心ってこともあるけど、やっぱりはっきりと言わな分かれへんことが多いんとちゃうやろか？」

私は中野さんを励したかったのです。きっぱりと行動してほしかったのです。

「う～ん」

中野さんはうつろな目をして、分かったのか分からなかったのか分からないような返事をしました。

すると突然、財布からいくらかのお金を取り出して、

「ほな帰るわ」

と言って立ち上がりました。その時、中野さんはふらふらっと2、3歩進むと、その場にへたりこんでしまいました。

「ちょっと待っとき。いま電話でタクシー呼んであげるから」

タクシーを待つ間、中野さんはときどき、「好きやで…、好きやで…」と口の中でもぐもぐと言っていました。その時、なぜだか私の胸がきゅんとなりました。

タクシーがやって来て、中野さんを乗せて走って行きました。私はしばらくの間、その車を見送っていました。

「好きやで」

数日後、また中野さんがやって来ました。今度は少しうれしそうです。

「おばちゃん、ありがとう。あの娘に、この前のこと謝まったら、許してくれるって。そして、思いきって「好きや」言うたら、今度、僕の家に食事つくりに来てくれるって！　一人暮らししてる言うたから、貧しい食事してると思ったんちゃうやろか。俺、ここでおいしいもん食うとるのに……。おばちゃんの料理、本当にうまいわ！」

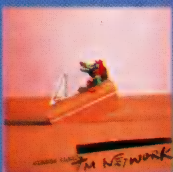
そう言われて、私の胸はきゅんとなりました。

「ごっそうさん」

中野さんはそう言うと、帰って行きました。中野さんは本当に嬉しそうでした。その時の中野さんの横顔が忘れられません。

「がんばりや！」

しばらくの間、私は、中野さんが座っていた場所を眺めていました。

●Album

RAINBOW RAINBOW

Ⓐカリビアーナ・ハイ／クロコダイル・ラップ／½の助走／1974／クリストファー
Ⓑイパネマ '84／金曜日のライオン／RAINBOW RAINBOW／パノラマジック
ES●28・3H・117　'84年4月21日

CHILDHOOD'S END

ⒶCHILDHOOD'S END／ACCIDENT／FAIRE LA VISE／永遠のパスポート／8月の長い夜／TIME
ⒷDRAGON THE FESTIVAL／さよならの準備／INNOCENT BOY／FANTASTIC VISION／愛をそのままに
ES●28・3H・166　'85年6月21日

GORILLA

ⒶGIVE YOU A BEAT／NERVOUS／PASSENGER／Confession／You can Dance
ⒷI WANT TV／GIRL／雨に誓って／SAD EMOTION
ES●28・3H・222　'86年6月4日

Self Control

ⒶBang The Gong／Maria Club／Don't Let Me Cry／Self Control／All-Right All-Night
ⒷFighting／Time Passed Me By／Spanish Blue／Fool On The Planet／Here, There & Everywhere
ES●28・3H・270　'86年2月26日

humansystem

ⒶChildren of the New Century／Kiss You／Be Together／Human System／Telephone Line
ⒷLeprechaun Christmas／Fallin' Angel／Resistance／Come Back To Asia／Dawn Valley／This Night
ES●28・3H・310　'87年11月11日

●12inch Single

Dragon The Festival

ⒶDragon The Festival (Zoo Mix)
Ⓑ1974 (Children Live Mix)
ES●12・3H・171　'85年7月21日

YOUR SONG

ⒶYOUR SONG ("D" Mix)
ⒷYOU SONG (SPECIAL INSTRUMENTAL DISCO MIX)
ES●12・3H・183　'85年11月1日

Come on Let's Dance

ⒶCome on Let's Dance (This is the FANKS DYNA-MIX)
ⒷCome on Let's Dance (the SAINT MIX)
ES●12・3H・211　'86年4月21日

●Mini Album

TWINKLE NIGHT

ⒶYOUR SONG (TWINKLE MIX)／組曲VAMPIRE HUNTER"D"
ⒷTWINKLE NIGHT／ELECTRIC PROPHET
ES●15・3H・185　'85年11月28日

●CD ONLY

Gift for Fanks

Get Wild／Come on Let's Dance／Passenger／Your Song／Dragon the Festival／½の助走／愛をそのままに／Confession／Rainbow Rainbow／1974／8月の長い夜／Nervous／You can Dance／Self Control
ES●32・8H・125　'87年7月1日

●Video

VISION FESTIVAL

THEME／1974／QUATRO／PANORAMAGIC／RAINBOW RAINBOW／½の助走／金曜日のライオン／ELECTRIC PROPHET／DRAGON THE FESTIVAL／ACCIDENT／CHILDHOOD'S END
ES●β：96・1M・3008　VHS：96・2M・3008
'85年8月25日

FANKS "FANTASY" DYNA-MIX

OVER THE RAINBOW／ALL-RIGHT ALL-NIGHT／FAIRE LA VISE／RAINBOW RAINBOW／雨に誓って／ACCIDENT／DRAGON THE FESTIVAL／GIVE YOU A BEAT／NERVOUS／COME ON LET'S DANCE／YOU CAN DANCE／ELECTRIC PROPHET／OVER THE RAINBOW
ES●β：98・1H・107　VHS：98・2H・107
'86年12月1日

SELF CONTROL

Bang The Gong／Self Control／Time Passed Me By／Spanish Blue／Here, There & Everywhere
ES●β：58・1H・114　VHS：58・2H・114
'87年8月1日

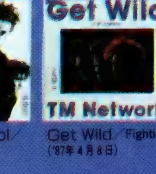
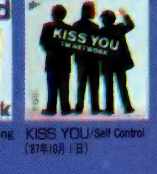
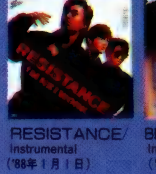
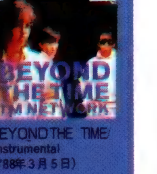
●Single

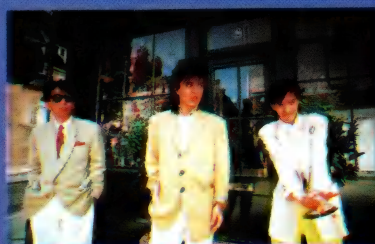
金曜日のライオン／クロコダイル・ラップ('84年4月21日)

1974／パノラマジック('84年7月21日)

アクシデント／Fantastic Vision('85年5月22日)

GIRL／雨に誓って('86年8月27日)

All-Right All-Night／Instrumental('86年11月21日)

Self Control／Instrumental('87年2月1日)

Get Wild／Fighting('87年4月8日)

KISS YOU／Self Control('87年10月1日)

RESISTANCE／Instrumental('88年1月1日)

BEYOND THE TIME／Instrumental('88年3月5日)

米米CLUBのカラオケ度CHECK!

●歌は世につれ、世は歌につれ。ライブで、あなたの部屋で、コンパで、歌われ踊られ楽しまれております米米ナンバー。果てさて、そのエンターテイメントぶりの評価はカラオケ度に比例する!?　メンバーと共にあなたもCheck!

撮影●大川直人　構成●能地祐子

ジェームス小野田

歌えといわれれば歌ってしまう。カラオケ度50%

❶あなたはカラオケが好きですか？

きらい。ま、行くこともあるんですけど恥ずかしいですね。あんまり自信ないし……。あと、雰囲気もあんまり好きじゃないし。１人でずーっと歌ってる人とかいるでしょ。ああいうのを聴いてなくちゃいけないのもいやだ。

❷カラオケでどんな曲を歌いますか？

行くと歌わなくちゃいけないからねえ。歌いたくないんですけど、「歌え！」とか言われると歌わないわけにはいかないから……「マイ・ウェイ」と松山千春の「長い夜」。

❸ぜひ歌ってみたい曲はありますか？

歌うんだったら、静かなところで詩吟ナンバーなどを一人静かにかみしめて歌いたい。

❹カラオケに合う飲物、おつまみは？

ビール、チーズ、柿の種。

❺派手なステージは好きですか？　好きな人は具体的にどういうのがいい？

嫌い。地味に、隅で歌うのが好き。

❻デュエットしたい相手と曲名は？

モーリス・ホワイトと。上手いですから。今、日本に来てるし、曲はやはり「イエスタディ」なんかがスタンダードっぽくていいでしょう。

❼カラオケ・バーのお客で、どういうタイプの人が嫌いですか？

酔ってからむ客。強引に人に歌わせようとする客。

❽米米クラブの曲を家で口ずさむことはありますか？　その曲名は？

「宴」→今度のアルバムに入る曲です。いい曲です（宣伝）。

「男の意地」→昔、宴会でよく歌ってたナンバーです。

❾米米の曲でいちばんうまく歌えるだろうなと思う曲は何ですか？

「オン・ザ・ロックをちょうだい」

❿米米の曲がカラオケになったらいいと思いますか？

人が歌うと思うと、恥ずかしい。だからいやだ。

⓫カラオケにおすすめの米米の曲は？

「美熱少年」。でも歌いずらいかも。

⓬米米の曲を歌って欲しい人は？

どうせなら上手い人に歌って欲しい。演歌歌手なんか結構雰囲気あって、米米の曲にはまると思う。

⓭シュークリームシュと同じ振りで踊れる曲はありますか？

「パラダイス」

⓮あるお店に米米のレーザー・カラオケがあり、店員に歌ってくださいとお願いされました。歌いますか？

やだ。米米のカラオケがあったら嬉しいかもしれないけれど、歌うとなるとやはり恥ずかしい。

⓯行きつけの、または行って面白かったカラオケ・バーは？

ない！

⓰カラオケには誰と行くのが好き？

行かずにすむのなら、誰とも行きたくない！

⓱米米の曲を１曲選んで、歌い方のポイントをアドバイスしてください。

「かっちょいい」。お腹から声を出して、"かっちょいい〜！"と叫ぶ。

⓲米米の曲から１曲選んで、ダンスのコツをアバドイスしてください。

「赤いシュプール」。マラカスを振り回し、あ！　う！　の雄たけびをあげる、というところがポイント。

⓳カラオケ・バーで歌ってはならない米米の曲は？　その理由は？

「Q」。歌うたびに激しい動きで、いす、机が壊れてしまうから。

⓴米米のカラオケKINGは誰？

てっぺいちゃん。

ジョプリン得能

大嫌い。でも1人きりなら延々歌うかも? 5%

①あなたはカラオケが好きですか?
大嫌い。カラオケはうるさくてダメ。酒は静かに飲むものだ。
②カラオケでどんな曲を歌いますか?
皆無。歌わない。もしかしたら、自分1人で延々に歌ってるならいいかも知れないんだけど。カラオケだと、人の歌も聴いてなくちゃいけないから、歌いに行きたいと思わない。
③ぜひ歌ってみたい曲はありますか?
どうしても1曲あげるなら「マイ・ウェイ」かな。人生教訓を感じる。
④カラオケに合う飲物、おつまみは?
んなものはない。
⑤派手なステージは好きですか? 好きな人は具体的にどういうのがいい?
一見カフェ・バー風のお店が、回転棚のように一瞬にしてカラオケ・バーになる、というステージが嫌だ!
⑥デュエットしたい相手と曲名は?
ない。ま、あえて歌うならリョージと2人で「加油」を掛け合いで歌ったら面白いかも知れない。
⑦カラオケ・バーのお客で、どういうタイプの人が嫌いですか?
マイクを持つ手の小指が立つ奴。金色のマイクが好きな奴。マイクのコードを手に巻いて歌う奴。
⑧米米クラブの曲を家で口ずさむことはありますか? その曲名は?
ある。たとえば「I CAN BE」とか「フィクション」。でも、なぜか歌詞がはまらない。どうしても字余りになってしまう。
⑨米米の曲でいちばんうまく歌えるだろうなと思う曲は何ですか?
「大人物」
⑩米米の曲がカラオケになったらいいと思いますか?
ハイッ! 理由はないけど。
⑪カラオケにおすすめの米米の曲は?
やはり「大人物」がいいと思う。
⑫米米の曲を歌って欲しい人は?
主婦の方。あと小林旭さんに「大人物」を、あのカン高い声でぜひ歌ってほしい。
⑬シュークリームシュと同じ振りで踊れる曲はありますか?
「I CAN BE」「パラダイス」
後ろでずっと見てるから、いつの間にか覚えてしまう。リハーサル時も、飽きると一緒に踊ってたりして。
⑭あるお店に米米のレーザー・カラオケがあり、店員に歌ってくださいとお願いされました。歌いますか?
絶対に! 絶対に! 歌わない。
⑮行きつけの、または行って面白かったカラオケ・バーは?
ない。
⑯カラオケには誰と行くのが好き?
たとえ好きな女の人にさそわれても絶対に行きたくありません。
⑰米米の曲を1曲選んで、歌い方のポイントをアドバイスしてください。「愛の歯ブラシ・セット」。
男同士でカマっぽくどうぞ。
⑱米米の曲から1曲選んで、ダンスのコツをアドバイスしてください。
「パラダイス」。男3人組で、よく踊りを合わせてやったら受けると思う。
⑲カラオケ・バーで歌ってはならない米米の曲は? その理由は?
「エクスクラメーション・マーク」。
舌を噛むから。
⑳米米のカラオケKINGは誰?
てっぺいちゃん。もう、カラオケ行ったらマイク離さないですからね。その上、カラオケ・スナックのママにもよく惚れられる。「あら〜あなた歌上手ねー」って。

ミナコ

ド派手大好き!! でも行きつけの店ナシ。 95%

①あなたはカラオケが好きですか?
カラオケははっきり言って大好きです。でもなかなか行く機会がないのが淋しい。
②カラオケでどんな曲を歌いますか?
「別れても好きな人」
「銀座の恋の物語」
どちらもデュエットです。ナハハ。
③ぜひ歌ってみたい曲はありますか?
「男と女のラブ・ゲーム」
これもデュエットです。ナハハ。デュエット好きなんですけど、これはなぜか歌ったことがないんですよね。
④カラオケに合う飲物、おつまみは?
水割り。柿の種。ピーナッツ。
フツウだけどこれで決まり!
⑤派手なステージは好きですか? 好きな人は具体的にどういうのがいい?
もちろんド派手なステージ大好き。一回でいいから、昔のシャボン玉ホリデーのようなキラキラ光る、丸い台の上でダンスしてみたいです。
⑥デュエットしたい相手と曲名は?
オノちゃんと「銀座の恋の物語」をデュエットしたことが一度だけあるのですが、これが良かった。もう一度ぜひ歌ってみたい。
⑦カラオケ・バーのお客で、どういうタイプの人が嫌いですか?
私の歌を聴いてくれない客。あと、拍手してくれない客。
⑧米米クラブの曲を家で口ずさむことはありますか? その曲名は?
「キック・アス」
腹立たしい時によく口ずさんでる。
⑨米米の曲でいちばんうまく歌えるだろうなと思う曲は何ですか?
ステージで歌ってはないけど、歌詞なんか覚えちゃうし、歌えばみんな歌えるとは思う。でも上手く歌えるかどうかは"?"。
⑩米米の曲がカラオケになったらいいと思いますか?
「オン・ザ・ロックをちょうだい」、「カッチョイイ」「加油」なんかいいと思う。
⑪カラオケにおすすめの米米の曲は?
「I CAN BE」「シュール・ダンス」「パラダイス」「心のままに」
⑫米米の曲を歌って欲しい人は?
シュークリームシュの振りを完璧に踊れて、振り付きで踊れる人に歌って欲しいですね。
⑬あるお店に米米のレーザー・カラオケがあり、店員に歌ってくださいとお願いされました。歌いますか?
絶対に歌わない。
⑭行きつけの、または行って面白かったカラオケ・バーは?
行きつけはない。
⑮カラオケには誰と行くのが好き?
とにかく大勢で大騒ぎ。大盛り上がり大会がいいです。
⑯米米の曲を1曲選んで、歌い方のポイントをアドバイスしてください。
?
⑰米米の曲から1曲選んで、ダンスのコツをアドバイスしてください。
「なんですかこれは?」
とにかく頭の中をからっぽにして、自分はダンサーなんだという自覚を持つこと。
⑱カラオケ・バーで歌ってはならない米米の曲は? その理由は?
歌ってならない曲はない。米米クラブの曲は、なんでもじゃんじゃん歌って踊って欲しい。
⑲米米のカラオケKINGは誰?
もちろん、てっぺいちゃん。
そしてQUEENは私です。なんてね!

フラッシュ金子

けっこう好きで楽しめる、平均的タイプ 70%

①あなたはカラオケが好きですか？
けっこう好きです。盛り上がってる人を見るのが好きです。
②カラオケでどんな曲を歌いますか？
大体女のコを誘って「銀コイ」（銀座の恋の物語）。あと「軍艦マーチ」をいきなりマジメな顔で歌うとウケますね。大学の時は聖子ちゃんが好きでよく歌いました。
③ぜひ歌ってみたい曲はありますか？
特にないです。
④カラオケに合う飲物、おつまみは？
ビール等あまり強くない酒と、お豆。
⑤派手なステージは好きですか？　好きな人は具体的にどういうのがいい？
ステージはうんと派手で、なるべく高く。150センチくらいの高さだとみんなびびるよ。盛り上がるのでは？　ミニスカートの女のコなんかいーよね。
⑥デュエットしたい相手と曲名は？
その場にいる、知らないきれいな女の人。曲は「銀コイ」。
⑦カラオケ・バーのお客で、どういうタイプの人が嫌いですか？
真剣に大きな声で歌う奴。
⑧米米クラブの曲を家で口ずさむことはありますか？　その曲名は？
ある。「ハレハレ新人類」とか「セクシー・パワー」。
⑨米米の曲でいちばんうまく歌えるだろうなと思う曲は何ですか？
うーん、わかんないけど自分の作った曲かなあ。
⑩米米の曲がカラオケになったらいいと思いますか？
はい、思います。
⑪カラオケにおすすめの米米の曲は？
「オン・ザ・ロックをちょうだい」や「サブウェイ・ブルース」を含む"マッチョメ・シリーズ"がいいと思う。
⑫米米の曲を歌って欲しい人は？
中年のおじちゃん、おばちゃん。見てて面白いから。
⑬シュークリームシュと同じ振りで踊れる曲はありますか？
ある。「狂わせたいの」他。
⑭あるお店に米米のレーザー・カラオケがあり、店員に歌ってくださいとお願いされました。歌いますか？
「いや」とか言いつつも嬉しくて歌っちゃうんだろうなあ、僕は。
⑮行きつけの、または行って面白かったカラオケ・バーは？
行きつけとかは特にありません。
⑯カラオケには誰と行くのが好き？
てっぺいちゃん他大勢で行きたい。てっぺいちゃんがいると対抗してくる他のお客さんがいて楽しい。
⑰米米の曲を１曲選んで、歌い方のポイントをアドバイスしてください。
「I CAN BE」。難しくて歌えず笑ってごまかし、途中で店員さんと「これ難しいのよね」とかしゃべっちゃっても"I CAN BE～"のとこだけ歌うと、僕は笑ってあげます。
⑱米米の曲から１曲選んで、ダンスのコツをアドバイスしてください。
「オン・ザ・ロックをちょうだい」。これはてっぺい＆小野田の完コピで、絶対ウケるでしょう。
⑲カラオケ・バーで歌ってはならない米米の曲は？　その理由は？
「ビーナス」。普通すぎる曲のくせにキーが高く、カラオケのエコーにはとても似合わず、喜ばれるとは思えない。
⑳米米のカラオケKINGは誰？
シモガミ。歌ってるとこが最高におかしい。マッチの真似などは絶品です。てっぺいちゃんにはない、東京芸人的な盛り上がりがあります。

マリ

振り付けチェックの目が光る観察派。60%

①あなたはカラオケが好きですか？
好きです。楽しいから。
②カラオケでどんな曲を歌いますか？
歌いません。人の歌を聴いてる方が楽しいから。
③ぜひ歌ってみたい曲はありますか？
ないです。
④カラオケに合う飲物、おつまみは？
ウォッカトニックがいい。好きだから。おつまみは断然ナッツとチョコレート。
⑤派手なステージは好きですか？　好きな人は具体的にどういうのがいい？
好きです。ミラーボール回したり、スクリーン使ったり、ド派手な照明でおどかしたり。米米クラブのメンバーで派手なステージが嫌いなんて人、いるわけないでしょ。
⑥デュエットしたい相手と曲名は？
いません。
⑦カラオケ・バーのお客で、どういうタイプの人が嫌いですか？
酔っぱらい。特にお酒飲んでケンカする人。大っ嫌い。
⑧米米クラブの曲を家で口ずさむことはありますか？　その曲名は？
あります。元気なときに「アジテーション」を。
⑨米米の曲でいちばんうまく歌えるだろうなと思う曲は何ですか？
みんな好きだけど、下手です。
⑩米米の曲がカラオケになったらいいと思いますか？
はい。思います。
⑪カラオケにおすすめの米米の曲は？
「オン・ザ・ロックをちょうだい」や「シェイク・ヒップ」なんかいいと思う。ちなみに、私が入手した最新情報によると、なんだか米米の中心メンバー６人が最近悪だくみをしているみたい。私たちの知らないうちに、レコーディングの合間をぬって、かの名曲「ホテルくちびる」のカラオケを録ったらしいわ。まだ私も聴いてないんだけど、楽しみッ。でも、誰が歌うのかしら。レコードにもなってない曲だっていうのに……。
⑫米米の曲を歌って欲しい人は？
歌が上手で踊れる人。
⑬あるお店に米米のレーザー・カラオケがあり、店員に歌ってくださいとお願いされました。歌いますか？
歌わない。
⑭行きつけの、または行って面白かったカラオケ・バーは？
ない。
⑮カラオケには誰と行くのが好き？
大勢。
⑯米米の曲を１曲選んで、歌い方のポイントをアドバイスしてください。
私は歌ってないのでよくわかりません。でも、今度、９月に出る予定の米米クラブのニュー・アルバムでは、私も美奈子ちゃんもこれまで以上にコーラスをたくさんやったりしてるんだ。ぜひ、そこんとこに注目して聴いてみてね。お楽しみに。
⑰米米の曲から１曲選んで、ダンスのコツをアドバイスしてください。
「ハッスル・ブラッド」
かっこよく、めりはりつけて踊るように。マッチョっぽいポーズをとるところとかあるけど、ちゃんと全身に力をみなぎらせてビシッときめてね。息切れに負けずにガンバレ！
⑱カラオケ・バーで歌ってはならない米米の曲は？　その理由は？
歌ってならない曲はない。
⑲米米のカラオケKINGは誰？
もちろんてっぺいちゃん。

カールスモーキー石井

自薦他薦のカラオケKINGナンバー1!! 100%

❶あなたはカラオケが好きですか？
カラオケばんざーい！ 金持ちでスタイルがよく世界的な美人モデルで優しく気だてのよい娘が素っぱだかで僕を呼んでも、すぐとなりでカラオケが鳴ってたら、1も2もなくカラオケを選ぶ……わけねえだろ！
❷カラオケでどんな曲を歌いますか？
エンカ関係を少々と流行歌を少したしなみます。「いとしのエリー」「ルビーの指環」を始め、バリエーションに富んだ内容になっております。
❸ぜひ歌ってみたい曲はありますか？
「I CAN BE」などをひとつ。
❹カラオケに合う飲物、おつまみは？
にんにく飲料、ピーナツ、柿の種。マイクに食べかすがついて次の人がいやがり、マイクを独占できる。
❺派手なステージは好きですか？ 好きな人は具体的にどういうのがいい？
こぢんまりとキラビヤカ。内に秘めたいやらしさがコンゼンとした安キャバレーのノリが最高。
❻デュエットしたい相手と曲名は？
「歌ってよ夕陽の歌を」を竹下首相と肩組んで歌ってみたい。
❼カラオケ・バーのお客で、どういうタイプの人が嫌いですか？
音痴。こればかりはどーもね。
❽米米クラブの曲を家で口ずさむことはありますか？ その曲名は？
米米の曲は素晴しいので、しょっちゅう歌っては金をもらってます。10円とか。うそです。
❾米米の曲でいちばんうまく歌えるだろうなと思う曲は何ですか？
どれも難しい曲なので、C・石井の歌唱力のすごさを思い知らされる。
❿米米の曲がカラオケになったらいいと思いますか？
イイ。E。
⓫カラオケにおすすめの米米の曲は？
「かっちょいい」「イカス」「トラブル・フィッシュ」。
⓬米米の曲を歌って欲しい人は？
ひばり、聖子という大御所にぜひ。
⓭シュークリームシュと同じ振りで踊れる曲はありますか？
すべて踊れる。
⓮あるお店に米米のレーザー・カラオケがあり、店員に歌ってくださいとお願いされました。歌いますか？
歌いますけれど金をとります。（だいたい1曲200円）
⓯行きつけの、または行って面白かったカラオケ・バーは？
六本木“カラオケさんが通る”。
⓰カラオケには誰と行くのが好き？
カラオケは神聖な場所ですから。大勢で行っちゃいけない。打ち上げなんかで行く奴はカラオケ・ファンの敵です。できれば肉親である父と2人で行きたいですね。
⓱米米の曲を1曲選んで、歌い方のポイントをアドバイスしてください。
「シュール・ダンス」。C・石井さんは、日本古来から受け継がれているじょんがらこぶしを高度に使いこなしますので、これと尾崎紀世彦さんの歌い方をミックスしてお試しください。
⓲米米の曲から1曲選んで、ダンスのコツをアバドイスしてください。
美しい女性はそれだけで美しい。踊らなくていい。美しくない人はどんどん踊った方がいい。くるくると。
⓳カラオケ・バーで歌ってはならない米米の曲は？ その理由は？
じじいの「狂わせたいの」。
⓴米米のカラオケKINGは誰？
もちろん俺。

リョージ

アンチ派を装いつつも潜在的歌唱願望あり？50%

❶あなたはカラオケが好きですか？
大キライだ！ 自分で歌ってるよりも、カラオケ歌ってる人を茶化してる方が楽しい。
❷カラオケでどんな曲を歌いますか？
歌ったことはない！ と言うのはウソで、実は「津軽海峡冬景色」を歌ったことがある。
❸ぜひ歌ってみたい曲はありますか？
ない！ が、美しい人とデュエットしてみたい気がしないでもない……。
❹カラオケに合う飲物、おつまみは？
焼酎のウーロン茶割り。
❺派手なステージは好きですか？ 好きな人は具体的にどういうのがいい？
カラオケに関しては派手だろうと地味だろうとすべてが恥ずかしい限りである。
❻デュエットしたい相手と曲名は？
ジョプリン得能とキングトーンズの「グッド・ナイト・ベイビー」を歌いたーい！ 理由は彼がキングトーンズの人に似ている、ただそれだけ。
❼カラオケ・バーのお客で、どういうタイプの人が嫌いですか？
オレよりもうまい奴。妙に歌い込んでる、プロ顔負けの奴。いやです。
❽米米クラブの曲を家で口ずさむことはありますか？ その曲名は？
トイレに入ってる時に「なんですかこれは？」を歌う。
❾米米の曲でいちばんうまく歌えるだろうなと思う曲は何ですか？
「セクシー・パワー」
❿米米の曲がカラオケになったらいいと思いますか？
いいと思う。
⓫カラオケにおすすめの米米の曲は？
「ホテルくちびる」「六本木マッチョメ・ナイト」「美熱少年」「ハウスマヌカン」「オットスターだ」「オン・ザ・ロックをちょうだい」
⓬米米の曲を歌って欲しい人は？
・銀座の美人ママ
・赤坂の美人ママ
・六本木の美人ママ
⓭シュークリームシュと同じ振りで踊れる曲はありますか？
踊りたいが、機会があまりない。
⓮あるお店に米米のレーザー・カラオケがあり、店員に歌ってくださいとお願いされました。歌いますか？
米米のカラオケを見つけた瞬間にわき目もふらずその店を出ます。
⓯行きつけの、または行って面白かったカラオケ・バーは？
だからァ、カラオケはキライダと言ってるだろうが……！
⓰カラオケには誰と行くのが好き？
行かないのでわからない。が、行くとしたら大勢で行きたい。
⓱米米の曲を1曲選んで、歌い方のポイントをアドバイスしてください。
「オン・ザ・ロックをちょうだい」。これは男同士で歌ってください。べろべろに酔っぱらって……。
⓲米米の曲から1曲選んで、ダンスのコツをアバドイスしてください。
「東京タワー」。みんなの歌と手拍子に合わせてボンが踊るという幻の宴会ソング。ボンの振り付けは簡単。ポイントは顔の作り方。見たことないだろう、ザマーミロ。
⓳カラオケ・バーで歌ってはならない米米の曲は？ その理由は？
シングルになった曲全部。
理由・カラオケに対して失礼だ！
⓴米米のカラオケKINGは誰？
てっぺいに決まってるだろ。
いや、もしかしたら……。

ボン
カラオケ大嫌い派を貫ぬく頑固一徹主義0%

❶あなたはカラオケが好きですか？
　好きではない。というか、はっきり言ってキライです。もうカラオケのある店に行くという行為からしてイヤ。
❷カラオケでどんな曲を歌いますか？
　行かないから歌わない。ま、学生時代に酔っぱらって……というのはなきにしもあらずですけど、何歌ったかも覚えてないくらい泥酔していたし。
❸ぜひ歌ってみたい曲はありますか？
　ない。どんな曲も歌いたいとは思わない。すっごいきれいな女のコに「歌いましょ」って誘われても絶対歌いません。
❹カラオケに合う飲物、おつまみは？
　そんな飲物もおつまみもない。
❺派手なステージは好きですか？　好きな人は具体的にどういうのがいい？
　ミラーボールとか、レーザー光線とか……考えるだけではずかしい。
❻デュエットしたい相手と曲名は？
　そんなもん死んでもやだ。
❼カラオケ・バーのお客で、どういうタイプの人が嫌いですか？
　カラオケに来てる客全員が嫌いだ！
❽米米クラブの曲を家で口ずさむことはありますか？　その曲名は？
　ない。ゼッタイない。
❾米米の曲でいちばんうまく歌えるだろうなと思う曲は何ですか？
　どれもうまく歌える。と思う。
❿米米の曲がカラオケになったらいいと思いますか？
　ちっとも思わない。
⓫カラオケにおすすめの米米の曲は？
　僕は絶対歌いませんけど「グラデーション・グラス」。ちょっと水商売っぽくてカラオケの席に合うんじゃないでしょうか。
⓬米米の曲を歌って欲しい人は？
　カールスモーキー石井。
　ジェームス小野田。
⓭シュークリームシュと同じ振りで踊れる曲はありますか？
　あります。レコードに入ってないけど「VIVAみたいなもの」。
⓮あるお店に米米のレーザー・カラオケがあり、店員に歌ってくださいとお願いされました。歌いますか？
　その場で自殺するか、そのお店の人を殺す。
⓯行きつけの、または行って面白かったカラオケ・バーは？
　そんなとこあるわけがない。福岡で、カラオケ・バーとは知らずにてっぺいと2人で大理石作りのシャレたカフェ・バーふうの店に入った。飲んでるうちに「お客さん1曲いかが？」と店の人が言って、ボタンひとつでカラオケ・テレビがいきなり登場。あわててすぐに帰った。
⓰カラオケには誰と行くのが好き？
　絶対に誰とも行かない。
⓱米米の曲を1曲選んで、歌い方のポイントをアドバイスしてください。
　アドバイスできる立場ではない。あえて挙げるなら「かっちょいい」。JBを敬愛して出来た曲なんで思い切りファンクして歌ってもらえれば……。
⓲米米の曲から1曲選んで、ダンスのコツをアドバイスしてください。
　「狂わせたいの」とか楽しいんじゃないかな。みんなで踊って、あのダサイ感じが出ればいいと思う。
⓳カラオケ・バーで歌ってはならない米米の曲は？　その理由は？
　「VIVA」シリーズ。理由は歌ではないから。
⓴米米のカラオケKINGは誰？
　もちろんカールスモーキー石井。

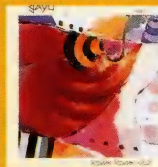
DISCOGRAPHY

●Album

シャリ・シャリズム
Ⓐフィクション／I・CAN・BE／ニュー・スタイル／エクスクラメーション・マーク／On My Mind
Ⓑかっちょいい！／SPACE／だからからだ／ノンコンプレックス／リッスン
CS●28・AH-1935　'85年10月21日

E・B・I・S
Ⓐストップ・シュート／ミッドナイト・レジスタンス／OH！／I・KA・SU／大人物
Ⓑ晴晴新人類／トラブル・フィッシュ／アジテーション／グギグギ・ウーマン／STAY
CS●28・AH-2090　'86年10月10日

KOMEGUNY
ⒶOnly As A Friend／Sûre danse／浪漫飛行／Collection／Primitive Love
Ⓑ Make Up／Misty Night／Hollywood Smile／Hustle Blood／Twilight Heart
CS●28・AH-2250　'87年10月21日

●12inch

加油
Ⓐ加油(がゆ)
Ⓑヴィーナス／グラデーショングラス
CS●12AH-2074　'86年7月21日

●Single

I・Can・Be／パーティ・ジョーク
('85年10月)

Shake Hip！／Blue Wave
('86年4月)

PARADISE／Parodies
('87年7月)

Sûre danse／日没航
('87年9月)

●Video

米米TV ONODA-SAN
収録曲 SUBWAY BLUES／SHAKE HIP！／オン・ザ・ロックをちょうだい／Hyper Comic Show（バラエティ番組のパロディ）
CS●VHS：4988-009-40357-1
β：4988-099-10357-0　'87年7月22日発売　4800円

SENRI'S SINGLE BOX II
FLIP SIDE COLLECTION

●昨年のGB DELUXEでご披露したのがSINGLE A面コレクション。ならば、進級2年目はコレクター必須アイテム(?)のB面、曲にスポットを当ててみたい。アルバム未収録の貴重なテイク、ナンバーもあったりで、意外なエピソードも隠されているもよう——。

撮影●大川直人　文●馬込じゅん　ヘア&メイク●中村裕美子　スタイリスト●阿部いくこ　衣装協力●シェビニオン ヌヌシュ

SINGLE① 天気図
SIDEⒶワラビーぬぎすてて
'83年5月21日発売

自分の名刺的存在として選んだデビューシングルの2曲。A面はもちろんあの「ワラビーぬぎすてて」であるわけだが、実は当時この「天気図」こそ千里くんにとっては『WAKU WAKU』の中で唯一、「この曲は誰にも文句をつけさせないぞ」と思ってた作品なのである。

ではなぜA面にならなかったのか？という疑問も当然出てくるだろうけど、「タイミングってあるじゃない。その日の天気とか温度とか……いろんなことすべてが絡まって、A面の存在が決まるような気がする」

また、「両A面ていうのは好きじゃないんです。キチンとどちらか一つに決めてみろ、と言いたくなりますね」というわけで「天気図」はB面に収まることになった。

この「天気図」、当時の千里くんの曲の中では「詞の世界やメロディー・ライン、コード進行などが強引じゃなくて、やりたいことができた。僕の中の言い過ぎない美学を初期の段階である程度成功させることができた」という作品だけあって、「未だコンサートで演ると完結してない。もっともっと歌えるはずだと思うんです」

ところが、シングル盤だと4分を越える曲は、溝がレコードの内側にいくに従ってレベル的に苦しくなってくる。「当時そういうことがよくわからなくて、いま聞くとレコードの内輪にいくに従って〝Darling〜〟がせつなくて(笑)。そういう意味では、濃縮度も濃いし、古典的存在とも言えますね」

SINGLE② 瞳きらきら
SIDEⒶガールフレンド
'83年8月25日発売

この曲は「ガールフレンド」との相性のよさで選ばれた。これには原曲があって、オーディションの時に歌った「サーファーブームがやってきた」がそれ。「'70年代後半の大阪の、女のコはダリアの巻きスカートをピンで止める、男のコはマッシュルームカットを脱色、といった世相を反映した曲」だったわけだが、歌入れの直前になって大村憲司氏との話し合いの末、詞を書き直すことに。「ホテル住まいだったんですけど、必死になって一晩で詞を書き上げた。僕の曲の中では珍しく詞が後で曲が先の曲なんです」

「瞳きらきら」の詞をみると、直接サーファーを指す言葉はみつからない。でも、この詞の中にも当時の大阪の世相が〝PIPIPIPI〟と反映されているのかもしれない。

「最近はステージでこの曲は演ってないんですけど、ちょっと前のツアーで歌った時に〝なんて男気のある曲なんだ！〟と思ったんです。書いてる時は無我夢中でわからないし、一旦自分の手を離れると、ちょっと歌えない、歌いたくないなと思うこともあるんですよ。それが、そのツアーの時にハッと気がついたんです」

B面曲の中では比較的テンポの速い曲でもあり、「詞があまりディテールに凝らず言いたいことを言っている。変化球じゃなく速球。今の自分に近い部分ですね」

ちなみに「サーファーブームがやってきた」も、いつか時が来たら、お披露目したいとのこと。

SINGLE③ 恋せよシルビア
SIDEⒶふたつの宿題
'83年12月1日発売

デビュー後しばらく、何度か札幌に行くことがあった。「冬季オリンピックの時にできた地下鉄のホームでいろいろとアイディアを練ったんですよ」

〝シルビア〟という名前には特別ないわれはないが、「人の名前、女のコの名前を歌えるのは今っていう感じがするんです。理屈ではなくて、ホッとするんですよ。聞くほうも、みんながそれぞれ語りかけられているような気分で聞けるし……」

この曲を聞いてくれる女のコすべてが〝シルビア〟である、と。「でも、〝シルビア〟という語感は、今はちょっと気恥ずかしいですね。それでも、気恥ずかしいくらいの歌をバーンと歌ってしまうのがまたイイんですよ、きっと」

〝気恥ずかしい〟というところが、いかにも千里くんらしくて、だからこそ聞く側にも微妙なニュアンスが伝わってくるのかもしれない。

「僕の中である方向性が見えた曲かもしれない。というのも、〝スタイルは変えないで〟や〝悲しい思い出あったほうがいい〟といった詞は『WAKU WAKU』の時にはなかった部分」

3枚目のシングル、2枚目のアルバム、と確実に自分の道を歩いてきた跡がうかがえる。

シルビアの代わりに〝気恥ずかしくない〟名前を当てはめるとしたら？の質問に苦笑する千里くん。それはそうだ。シルビアだからこそ、そして今思うと気恥ずかしさを感じてしまうからこそ、この曲はいつまでも魅力的なのだ。野暮な質問でした。

SINGLE④ 三人目のパートナー
SIDEⒶBOYS&GIRLS
'84年3月5日発売

一人目でなく、二人目でなく、どうして三人目なのか。「三という数字はすごく神秘的な感じがするんですよ。三を足していくと六とか九とか、何かありそうな思わせぶりな印象を受けるんです。割り切れない数字というのもありますね」

でも、三人目というのは、そうした数字的なものだけじゃない。一人目じゃないのは「中学生の頃とかの、女のコに対して馴れていない頃の、純粋なんだけど、ものすごく辛い気持ちで誰かを見ていた頃の痛さや苦みを思い起こして作ったように思います」

〝針がとんで順が狂って〟やっとめぐり逢えるという切ない気持ち。それが三人目たるゆえんといえそう。

奇しくも、A面の「BOYS & GIRLS」も、〝十年経ってラストは君と〟踊ろうというわけだが、「別に狙ったわけじゃないんですよ」とのことだが、どちらもピュアな気持ちがひしひしと伝わってくる。一方は三人目、もう一方は十年、それぞれの間隔は違っても思いは一緒なのである。「当時の曲はでっかい感じ」というイメージで作っていたため、シングルAB面に、それが表われているのだろう。

ところで〝世界一番さ　そのステップは〟という表現があるくらいだから、ダンスのほうもさぞかしお上手？　と思いきや、「たまに社交ダンスとかをテレビで見る程度。ディスコもほとんど行かないし、一度体験入学しなくちゃいけないと思うんですけどね(笑)」というくらいの腕前だそうだ。

SINGLE⑤
思いたったら吉日
SIDEⒶロマンス

'84年7月21日発売

『Pleasure』の後、生活基盤を東京に移し「新しいことをしてみたい」という思いにかられ、そして生まれたのが、この5枚目のシングルである。

東京人・千里くんの処女作は、TM NETWORKの小室哲哉氏との出会いもあり、コンピュータ制御の〝打ち込み作業〟にチャレンジすることになる。「マニュピレーターのところへ行って、みんなで打ち込みながら、時間があくと〈すかいら～く〉に行って「あ～でもない、こ～でもない」とやってましたね」

〝打ち込み〟といっても、当時はまだシャッフルのリズムが打ち込めず、この曲にも苦労の後が伺える。そう考えると、「ここ4～5年の機械の進歩はすごいですよ」という千里くんの言葉ももっとも。

「それ以前の曲というのは、その時の主流だった〝こってり〟としたサウンドと反して、大村憲司氏の影響もあり、整理された音作りが骨組みにあったんです」

ところが、六本木のスタジオで、この曲の歌入れをしている最中に、「どうもこれは背骨が入ってない」という気がして、小室氏にその場にあったピアノを「弾いてよ！」と頼み、打ち込みの上にピアノが重なることになった。

「小室くんと二人で〝トムソーヤの冒険〟をしたわけですね(笑)」

また、「一つ一つ機械に打ち込んでいく作業は、とても人間的」という千里くんの打ち込み初体験は、彼自身の音楽の枝葉が別れる岐点ともなっている。

SINGLE⑥
真冬のランドリエ
SIDEⒶ十人十色

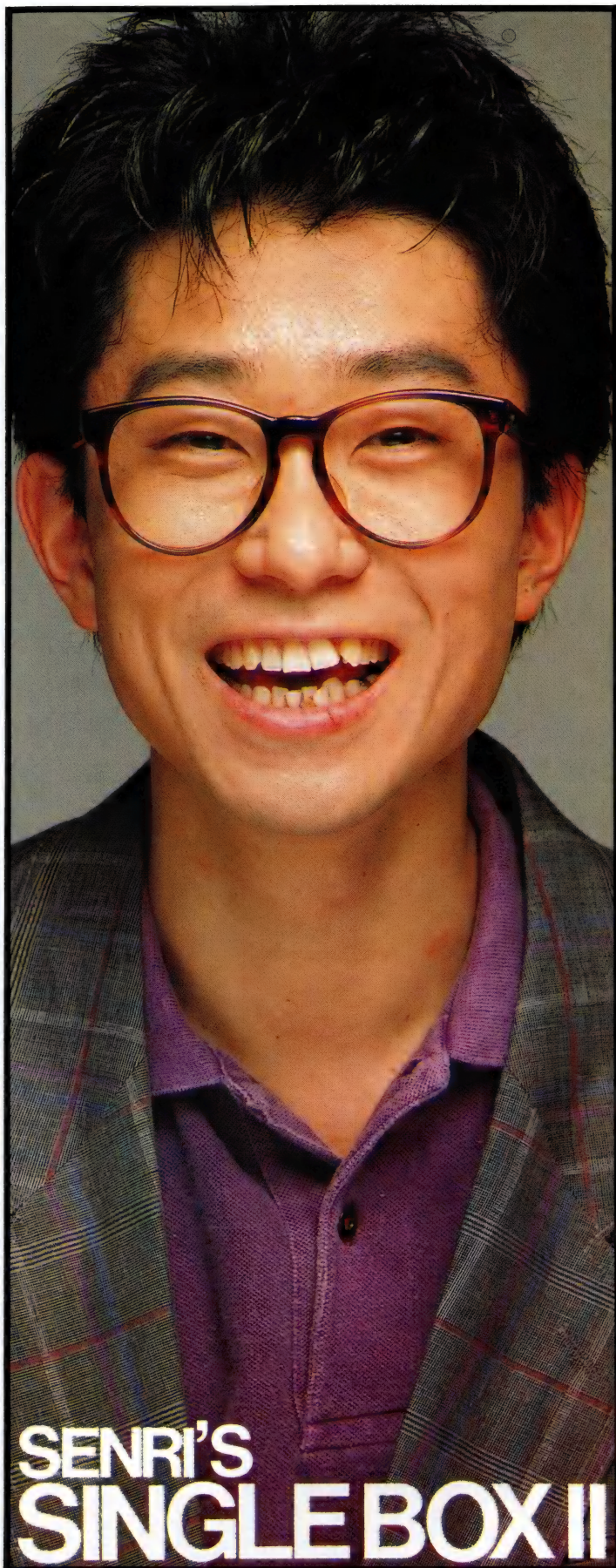
'84年11月1日発売

「真冬のランドリエ」は当初、A面にする予定でつくられていた。現に、アレンジャーの清水信之氏は未だに「真冬のランドリエ」をA面に、とプッシュし続けているというほど。

その清水氏との出会いによって、千里くんの中で「眠ってた派手好きな部分、曲の可能性といったものが一気に開いた」というこのシングル。例えば、1・2枚目のアルバムではシンセサイザーで処理していた部分に弦楽器を導入したりすることによって、千里くんの世界がさらに広がったわけだ。

一方、サウンド面だけでなく、詞の世界での変化もみられる。この曲は、たまたま大阪の事務所に戻っていた時、地下鉄のホームで生まれた。「ホームを歩いていると、排気口から流れてくる生暖かい風を耳に感じて、最初は「砂まじりの温風 耳の裏で止まる」という歌詞にしていたんですよ」

「本質は変わらない」けれども、それまでの〝若さ・体当タリ〟的な表現から「言い過ぎない言葉を選ぶコツを覚えた」のがこの頃。その変化の要因は、ときくと、「ずっと大阪で生まれ育った僕が、東京に出て来て見るもの聞くものすべてが新しいものばかり。例えば、大阪なら狭くても景色のイイ場所とか、これだという所がわかってたんですけど、東京に来て80点の所は多くても、これだという場所が見つからなくて右往左往してたんですよ」

そんな試行錯誤の末に生まれた「真冬のランドリエ」は、その後の作品にも大いなる影響を与えることになる。

SINGLE⑦
渚のONE-SIDE SUMMER
SIDEⒶREAL

'85年3月6日発売

実は「渚のONE-SIDE SUMMER」はオーディションの時にも歌った曲で、千里くんの中でも記念碑的存在だった。「いつか、ここだという時にメチャクチャいい声で録りたい」と考えていた作品で、『未成年』の中では、この曲の詞は「ちょっと違う感じがする」ようだ。とはいえ、もちろん作った当初のものと比べれば、若干手が加えられてはいるが、この曲にとって正に機が熟した時であったのだろう。その点では、「渚のONE-SIDE SUMMER」は初期の大江千里と『未成年』期の大江千里がバランスよく融け合っている曲でもある。

また、千里くんはこの曲について、「とても奔放な曲」とも言う。「曲の構成がすごく特異なんですよ。構成の中でコードもメロディーも動く。アマチュアの時にありがちなんですけど、とにかく知ってるコードを楽曲の中に詰め込むといったような。だけど、それでも割とシンプルに聞こえるという稀な曲なんですよ」

さらにこの曲には「海を歌った曲は海でなくちゃ作れないとか、忙しいとゆったりした曲が作れない、なんていうことはない」という思いも込められている。「〆切はもちろんイヤですけどね」と前置きしながらも、「時間をかけさえすれば良い作品ができるかというと、けしてそうじゃないと思うんです」

そのせいか、今この曲を聞くと、「一旦放り出して入れ直した曲ですけど、細かい所にこびてなくて、非常に突きぬけてますね」と本人も納得してる。

SINGLE⑨
バンドをつくろう
SIDEⒶコスモポリタン

'86年2月26日発売

「自分でお金を払って、一分を惜しんでシールドを片付けたりした、あの感じに戻れないと、自分がおかしくなってしまうんじゃないかと思うときがあるんですよ」

いつまでも純な気持ちを大切にする千里くんらしい発想が「バンドをつくろう」誕生の背景にある。もちろん、この曲には、千里くん自身のアマチュア時代とオーバーラップする部分もある。〝ガレージを整頓して〟のフレーズは、「昔キャプテン&テニールの『愛ある限り』を聞いた時に、テニールが『この曲はウチのガレージで録った曲なのよ』と言った一言が強烈に印象に残ってたんですよね」

じゃあ、千里くんたちは何処で練習を？「真夏になると室温が40℃くらいになる学校の部室で練習してましたね」

青春の汗を感じるね。

〝最初はスタイルから入ったね〟のフレーズに関しては、「当時はヤン・ハマーやリッキー・リー・ジョーンズ、それとイーグルスや「あんたのバラード」なんかもコピーしましたよ(笑)。それからピアノの弾き語りで五輪真弓さんの「煙草の煙り」を演ったこともありましたね(笑)。わりとなんでも演ってたんですよ」

いかにも曲のとおりの賑やかそうなアマチュア時代が想像できる。この曲のレコーディングの時にも「当時僕のアルバムに参加してくれた全員が集まってくれて、最初に録った仮歌(カリウタ)が最もパワーがあるということでOKになったんですよ」

SINGLE⑧
コンチェルト
SIDEⒶフレンド

'85年11月1日発売

「コンチェルト」を語るについて、まずアルバム『未成年』以降の多忙さが思い起されるという。その年の3月に『未成年』を発表し、夏のイベントがあり、学園祭があり……。「今思うと、何がなんだかわからない日もあったし、流されたくないと思いながらも死んだような日々も何日かありましたね」

「コンチェルト」と「フレンド」の誕生は、そんな苦悩の日々から抜け出し「やりたいことをやるぞ!!」という気持ちが凝縮したものだった。

そのやりたいこととは「僕の大好きなブラック・コンテンポラリー、それもスローファンク。それを黒人以外のヒトが演ってるという〝オイシサ〟を表現したかったんですよね」

もっとも、「メロディーとかは全然黒人ぽくないんですけどね」

そう、ブラック・ミュージックのエッセンスも、千里くんが「やりたいことをやる！」という精神で料理すれば、オリジナリティたっぷりの曲に仕上がってしまうのだ。

「コンチェルト」もA面に、という話しがあった。この曲が出来たのは夏。観音崎でのコンサートの前にリズムを録り、そのテープを楽屋に持ち込んでメンバーたちに聞かせた。「夏で、向こうにバーッと広がってるリゾート地で、このテープを聞いたんですよ」

この「コンチェルト／フレンド」のシングルは、発売が11月。夏にリゾート地で聞いた「コンチェルト」も、発売がその3か月後というタイミングからかB面に収まった!?

SINGLE⑩
AVEC
SIDEⒶ　きみと生きたい

'86年10月22日発売

「AVEC」。仏語で「〜とともに」という意味。千里くんの曲の中では、唯一アルバム・タイトルにもなっている。「アルバム・タイトルを考える時、全体のコンセプトを問題にする人もいるけど、僕の場合は身体で曲を書くタイプ。いつも7〜8曲出来上がってくると、自然にタイトルが出てくるんです」

だから、この「AVEC」も、なるべくしてアルバム・タイトルになったというわけだ。

「『乳房』を作った後、それまでは考えたりしなかったんですけど、朝起きて歯を磨こうかベランダに出ようかとか、人と会ってるようでいて、全然人と話をしてないんじゃないか、という気がし始めたんです。いま考えるとナーバスだったんですけど。一つ一つ時間をかけてやっていこうと思って、それでも作りたくなって作ったのが「AVEC」なんですよ」

それが〝ゆるめた蛇口〟や〝ケチャップのしみ〟というフレーズに表れている。「ちっちゃな生活の一部分からドンドン広がって滲んでいくような、すごく地味な曲作りをしたかったんです」

日々の生活の中でのささいな出来事に確かな手応えを感じ、それをラブ・ソングに昇華できる。その姿勢はアルバム・タイトルになるほど、その時の千里くんを表わしているわけだ。

ファンからの手紙の中でも、この曲は難しくて覚えにくいというものがあるそうだが、「この曲に関しては説明不可能。すべて曲の中に入ってるんです。B面だけどベスト10に入れたいです」

SINGLE⑪ Man on the Earth

SIDEⒶBedtime Stories

(12インチ)'86年12月1日発売

ひいらぎ色も鮮やかな「ベッドタイム・ストーリーズ」のB面に収められている「マン・オン・ジ・アース」。A面が〝クリスマスは大切に聞ける曲〟なら、B面は〝I LOVE YOU〟が印象的なロマンティックなラブソングだ。〝仕上がる前のノートの走り書き〟的イメージで、詞も曲もほとんどそのままの形で出来上がっているとのこと。そんなわけで、それまでの大江千里とはちょっと違った面も覗かせているのかもしれない。

例えば、リズムやメロディー・ラインもそれまでの千里くんのそれとは若干違っているような部分もある。また、後半のインストゥルメンタルの部分は、大江千里&清水信之のノリを感じさせながらも、こうしたオマケ的なものを楽しめるのも12インチならではといえる。初めての12インチとしては、千里くんの様々な試みがなされている作品といえるだろう。

「デーモン小暮くんと話してて、B面て好きなことができるから楽しい、という話になったんです。アルバムのAB面は、1枚のアルバムとしてのつながりがあるし、シングルのA面にはA面なりの束縛がありますよね。B面というのは肩身の狭いところもありますけど、そこを突き抜けて好きなことができるという楽しみがあるんですよ」

この「マン・オン・ジ・アース」は そんな千里くんのB面に対する意識の試金石ともなっているようだ。考えようによっては、「ROMANCE」ライブ・バージョンのB面入りの伏線ともとれる。

SINGLE⑫ 夏渡し

SIDEⒶYOU

'87年5月21日発売

「10年前と10年後、世の中が変わって格好とかが変わっても、相変わらず残り続けている動作とかにゾクッとすることがあるんですよ」

千里くんのひとつ上の世代。いわゆる団塊の世代と呼ばれる人たちの話を聞く。新宿で生ギターを弾いて、といったような話だ。

「僕より下の世代はそういった話を聞く機会が少ないと思うんです。歌は世につれ世は歌につれ、という言葉がありますよね。歌は世代渡しもできるんだなぁと思います」

この歌は、春から夏へと季節を渡すのと同時に、そうした世代渡しといった意味あいも含まれているのだ。

千里くんにとっては〝ものすごく個人的なラブソング〟でもある。

「失恋した時って、妙に敏感になって、いろんなことが目について魂に届くことってあるんじゃないですか」

そう、そして政治のことや、その他様々なことが気になり始める。でも、別れた彼女とまた何処かで会いたいという主人公の気持ちが伝わってくる。〝何かを失ったことで目覚める瞬間〟を歌ったこの歌。目に映る街の情景の一つ一つが、彼女への切ない気持ちをより鮮明にしている。

バスに乗ったり、駅前を歩いたりしていても、彼女と一緒の時には気がつかなかった様々なものに気がいくようになる。時代は変わり、季節は変わり、ものの見え方が変わっても、やっぱり彼女に会いたいという、千里くんならではのラブ・ソングといえる。

SINGLE⑬ TORCH

SIDEⒶ POWER/A DAY

(12インチ)'87年12月2日発売

12インチ・シングル「POWER」のB面は、正確にいえば「TORCH」のみである。しかし、アルバム・タイトルでもある「POWER」をA面として考えれば、「A DAY」も「TORCH」もB面的要素を持ってますね」ということになる。3曲入りの12インチ・シングルだけあって、各曲の演奏時間の長さの関係から、A面2曲、B面1曲となったわけだが、ここではとりあえず「ラジオでオンエアされる機会が少ない2曲がB面」ということにしたい。

『OLYMPIC』から半年、前の12インチ・シングル「Bedtime Stories」からちょうど1年。前回で掴んだ12インチの要領をさらに発展させて、〝てらいのないほがらかさ〟を打ち出すことに成功している。

「Man on the Earth」の場合もそうだが、ここでは「TORCH」がほとんど歌詞も手を加えていないままということもあって、逆に聞くほうとしても、新しい千里くんを感じられる。これだけの長い歌詞を歌いきってしまえたのも、12インチ・シングルのしかもB面である、という要素は否定し難いところであろう。

また、「A DAY」の中の〝今日が形に今日が歴史になる〟という一節には、常に自分に厳しい千里くんが一つ一つ確かめるようにして積み重ねてきたものが象徴として感じられる。

そしてそれらが、『OLYMPIC TORCH』へとつながり、さらなる発展へとつながっていく。12インチにおける大江千里の世界の確立過程である。

SINGLE⑭ ロマンス(Live)

SIDEⒶGLORY DAYS

'88年6月22日発売

御存知5枚目のシングルA面に入っていた「ロマンス」。地方に行って、「ロマンス」がどこを探してもないんですよ」と言われ、「なんとかこの曲をもっとストレートに聞いてもらいたいという気持ちがあったんです。ただ、以前の「ロマンス」をそのまま入れたのではちょっと……」

一方、先の『OLYMPIC TORCH』では「たくさんのものを貰いました。ニュー・アルバムへの僕のブリッジ的存在となりましたね」とのこと。

この『OLYMPIC TORCH』の雰囲気を伝えたいという思いと、もう一度「ロマンス」を聞いてほしいという思いが、タイミングよく実を結んで、今回のシングルB面収録となった。

「以前の曲のイメージを払拭して、ゼロから作り上げた。僕たちの世界が一つ広がった、運命共同体みたいな曲なんですよ」

歌詞は失恋の歌だけど、打ち込みなど派手めの処理で生まれ変わった新生「ロマンス」は、千里くんにとっても、ファンにとっても、大きな意味を持った存在になりそうだ。

今後はライブ盤も出す？ という質問に「僕はライブは今後も出すつもりはないです。先のことはわかりませんけどね(笑)

だから新生「ロマンス」もライブ・バージョンというよりは、「GLORY DAYS」と一緒に持っていてもらいたい音源なんですよ。リミックスといっても、ビデオのそれとは少し変えているんですよね」

●Album

WAKU WAKU

Ⓐワラビーぬぎすてて／君はマドンナ／瞳きらきら／裸足のマドモアゼル／ポパイ'Sカレンダー
Ⓑ海開き山開き／宵闇／天気図／たそがれに背を向けて／ガールフレンド
ES●28・3H-86　'83年5月21日

Pleasure

Ⓐシンデレラにはかなわない／かわいいハートブレイカー／待ちわびて／リップスティック・グラフィティ／浮気なLINDA
Ⓑ恋せよシルビア／三人目のパートナー／HAPPY BIRTHDAY／BOYS&GIRLS／ふたつの宿題
ES●28・3H-116　'84年3月23日

未成年

ⒶREAL／SEXALITY／A MOONLIGHT EPISODE／真冬のランドリエ／もう一度X'Mas
Ⓑ赤茶色のプレッピー／プールサイド／渚のONE-SIDE SUMMER／十人十色／♮ナチュラル
ES●28・3H-157　'85年3月21日

乳房

Ⓐサンタクロースがやってくる／彼女によろしく／手垢のついたステーショナリー／コンチョルト／バンドをつくろう
Ⓑ六甲GIRL／JANUARY／コスモポリタン／愛するということ／フレンド
ES●28・3H-190　'85年12月4日

AVEC

Ⓐきみと生きたい／コインローファーはえらばない／17℃／マリアじゃない／去りゆく青春
Ⓑ長距離走者の孤独／本降りになったら／ゆめみるモダン・クリスマス／BOY MEETS GIRL／AVEC
ES●28・3H-256　'86年11月6日

OLYMPIC

Ⓐ回転ちがいの夏休み／路上のさよなら／STELLA'S COUGH／小首をかしげるTシャツ／塩屋
Ⓑエールをおくろう／贅沢なペイン／夏渡し／YOU／gloria
ES●28・3H-287　'87年6月21日

1 2 3 4

ⒶGLORY DAYS／平凡／ROLLING BOYS IN TOWN／Rain／ハワイへ行きたい
Ⓑサヴォタージュ／帰郷／昼グリル／消えゆく想い／ジェシオ'S BAR
ES●28・3H-5034　'88年7月21日

●12inch

Bedtime stories

ⒶBedtime Stories／ⒷMan On The Earth
ES●12・3H-261　'86年12月1日発売

POWER

ⒶPOWER／A DAY／ⒷTORCH
ES●12・3H-321　'87年12月2日発売

●Single

ワラビーぬぎすてて／天気図
('83年5月)

ガールフレンド／瞳きらきら
('83年8月)

ふたつの宿題／恋せよシルビア
('83年12月)

BOYS&GIRLS／三人目のパートナー
('84年3月)

ロマンス／思いたったら吉日
('84年7月)

十人十色／真冬のランドリエ
('84年11月)

REAL／渚のONE-SIDE SUMMER
('85年3月)

フレンド／コンチェルト
('85年11月)

コスモポリタン／バンドをつくろう
('86年2月)

きみと生きたい／AVEC
('86年10月)

YOU／夏渡し
('87年5月)

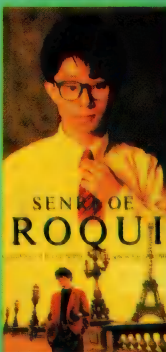
GLORY DAYS／ロマンス(Live)
('88年6月)

●Video

CONSICE LOVE

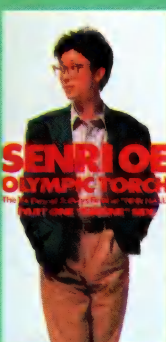
収録曲　十人十色／十人十色(オルゴール編)／十人十色／真冬のランドリエ／かわいいハートブレイカー／シンデレラにはかなわない／HAPPY BIRTHDAY／BOYS & GIRLS／ふたつの宿題／ロマンス／十人十色／十人十色(オルゴール編)
ES●VHS：78・2M-3005　β：78・1M-3005
'84年12月1日発売　カラー38分　7,800円

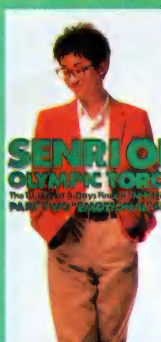
NATURALLY

収録曲　天気図／A MOONLIGHT EPISODE／SEXUALITY／ワラビーぬぎすてて／プールサイド／もう一度X'mas／REAL／♮ナチュラル／♮ナチュラル(インスト)
ES●VHS：78・2M-3010　β：78・1M-3010
'85年10月21日発売　カラー40分　7,800円
(ただし初回発売分は写真集付きで9,600円)

CROQUIS

収録曲　BOY MEETS GIRL／AVEC／きみと生きたい／本降りになったら
ES●VHS：35・2H-111　β：35・1H-111
'87年2月26日発売　カラー19分　3,000円

TOLEDO～Soly Sombre～

収録曲　OPENNING (interlude)／In Car(interlude)／エールをおくろう／YOU／贅沢なペイン／Chase(interlude)／POWER／塩屋／ENDING(interlude)
ES●VHS：68・2H-118　β：68・1H-118
'88年1月21日発売　カラー38分　6,800円

OLYMPIC TORCH PART ONE "SERENE"SIDE

収録曲　エールをおくろう／回転ちがいの夏休み／小首をかしげるTシャツ／ロマンス／贅沢なペイン
ES●VHS：38・2H-125　β：38・1H-125
'88年6月22日発売　カラー29分　3,800円

OLYMPIC TORCH PART TWO "EMOTIONAL"SIDE

収録曲　REAL／もう一度X'mas／エールをおくろう／きみと生きたい
ES●VHS：38・2H-126　β：38・1H-126
'88年6月22日発売　カラー29分　3,800円

●日本から南南西に向かって数千キロ、南太平洋の真っただ中に常夏の楽園、パイナップル・アイランドは浮かぶ。大自然に恵まれたこの島は、一人の王様によって治められ、王様は島を離れると久保田利伸にかえる。

王様は、全島民から愛情と尊敬をこめてKUBOTA王と呼ばれている。彼は、もちろん世界的に有名なミュージシャンであるが、そんなスノッブな問題はトコ夏の楽園、地球で一番ファンキーなパラダイスと呼ばれているパイナップル・アイランドにピュンッと飛んでしまえば、このさいそれこそまったく関係ないのである。

7月の昼下がり、我々Gデラ取材班は2000人乗りの専用エア・バスをチャーターして、総勢3人でP島へと向かった。東京から8時間あまり、持参したレゲエのCDを3枚、アイズレー・ブラザーズの『SHOUT！』を1回、プリンスの『LOVE SEXY』を2回聞いて、合間にはボビー・コールドウェルの「JAMAICA」(久保田はぜひ海岸で聞いて欲しいというナンバー）を差しはさみ、その他情熱と哀愁のためにいちおうジプシー・キングスで気分を盛り上げて、最後に久保田利伸のL.A.レコーディングのあの名アルバムを数回リピートする頃、ようやくパイナップル型の黄色い島を眼下に見下ろして、私たちはアポロ空港に着陸したのだった。

「ドォワーッ、滑走路まで黄色いパイン型◎のイルミネーションが輝いてるー！」

規模はごく小さいとはいえ、超近代的なパイナップル設備の整った空港にカメラマンが感動の声を上げる。全員が出迎えてくれた美しいプロポーションの島の娘たちから、GO-GOダンスの歓迎を受けて、パイナップルとキス♡を一個ずつ手渡された。(これはハワイのフラ・ダンスとレイに相当する、この島特有のあいさつなのだ）なんて義理がたい、島なんだ！

王は、パイナップル城内の東塔の下にあるSWIM POOL（ここで泳ぐとスウィム・ダンスの手首と腰のキレがよくなることで有名）で南国の太陽を楽しんでいた。一年にわたる長いツアーを終えて、世界をかけめぐり、いまようやく、ひとりきりでいることの孤独に安らぎを覚えているところなのだという。

「こうしていると、あの熱狂と喧騒の日々が、まるで夢のようだね」

ワイルドに不精ヒゲをはやした頬にパイナップルを当てると、彼は目をとじて〝自由〟の香りを思いきり深く吸い込むのだった。

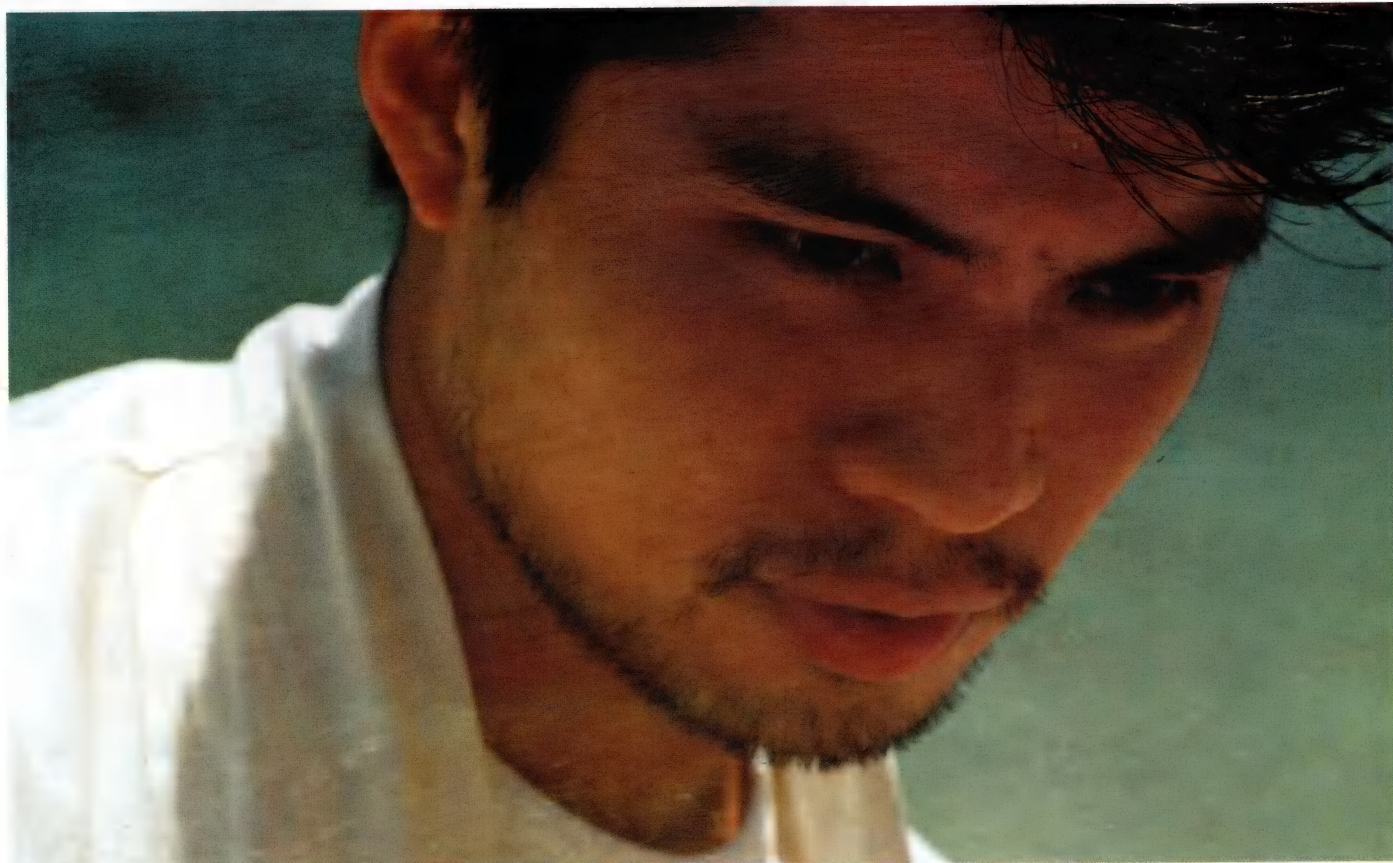
パイナップル王の伝説とイロイロ

ベンツのリムジンを降りて、いま王は広大なパイナップル農園を見渡す。ハワイのマウイ島にあるドール社の所有する巨大なパイナップル・フィールドは百科辞典にも載っているが、この畑の秘密はアイランド観光局の発行するガイド・ブックにしか記載されていない。

それによると――ここのパイナップルたちは、GO-GOダンスが踊れる、ということだ。

全島は肥沃な黄色い土におおわれている。熱帯とはいえ農産物が気候の制約をあまりうけていないのはそのためだが、それでもやはりパイナップルは最もよく育つ。そんなパイナップルたちに〝躍動する喜び〟を教えたのが、KUBOTA王だといわれる。今日の王様はパイナップルの木々の間を歩きながら、軽快なシャッフルのステップを踏む。するとオヤ不思議、踊る彼の喜びを受けて、まだ鮮やかな緑色のものからすでに黄色く濃厚に熟した果実たちが、何万個も一緒に嬉しそうにシェイクするのである。(現在、果実たちはフライ、バード、GO-GO、スウィム、ダックなどいくつものソウル、ファンキー系のダンスをマスターしているそうだ）これが、この農園のパイナップルが特に成長いちじるしく、しかも味良しと、世界のマーケットで折り紙付きの要因である。

王様は、不安な夜も孤独な横顔も決して他人には見せない。けれど世界の恋人、キング・オブ・ファンキーと呼ばれる彼にもひと並みの寂しい時はある。むしろ華やいだ日常を持っていればいるだけ、心に空白が生まれるものかもしれない。ただしいっせいにダンスするパイナップル農園の巡回視察を終えた午後、王様のハートの中には豊饒の喜びが生まれる。それはどこか、ずばぬけてファンキーなオーディエンスの前でコンサートを終えた時の喜びにも似て、ジャングルで突然のスコールを浴びる瞬間の快感にも似て、つまりそれは離れられない音楽の楽しみをたっぷりと思い起こさせてくれるのだ。

夕日の当たるマウントJ. B.（朝日と夕日に赤く染まる時、この山はソウルのゴッド・ファーザー、ジェームス・ブラウンの顔に見えることで有名）を見上げながら、王様はやっぱり音楽へのファイトをドクドクと静かに激しく燃やしながら、ベネチアン・グラスに入った冷たいパイナップル・ジュースをグイッと一気に飲み干すのだった。

MAP OF PINEAPPLE ISLAND

●こちらパイナップル・アイランド観光局。GO-GOを踊るパイナップル畑、ソウルを歌う山など、世界一ファンキーなパラダイスへようこそ。あなたもパンパンパンピャッ！

PURPLE BRIDGE

◀島と島を結ぶ架け橋の向こうはペイズリー・アイランド。KUBOTA王の親友にして音楽のライバルである、紫王子が住んでいる。

◀全長50,000kmに及ぶ海岸は、KUBOTA王のプライベート・ビーチ。いつも、たくさんの熱狂的な国民に取り巻かれている王が唯一自分に帰ってくつろげるのが、ここだ。

KUBOTA BEACH

石投げのトシちゃん
●王様の中学時代の友人に、星飛雄馬がいた。のちに彼はプロ野球選手になるが、教わったピッチングの技を今でも忘れない。

ゆかいな水際遊び
●大胆にして素敵な王様は、幾つになっても童心を忘れません。水遊びより、水際遊びのほうが、語感が好きだという。

大地に穴を掘る
●大好きなアフリカの最高峰キリマンジェロ火山は地球単位で考えてちょうど裏側に当たる。思いをはせる時、なぜか穴を掘りたくなる……わけないか。

PINEAPPLE'S DAY

◀年がら年中ハッピーなこの島だけど、年に一回の国民の祝日が〝パイナップルの節句〟。毎年５月５日、島で生まれた子供たちのために、オトナも子供に帰って底抜け大騒ぎ。この日のシンボルは王様がヤポンから持ってきた〝恋登り〟という魚型のフキ流し。

GROOVIN' GROVE

◀KUBOTAビーチとJ.B.山にはさまれたこの木立は、ノリがいいので有名。散歩する人が楽しく歌ったり、腰のクイックをキレイにきめると木々も一緒にザワザワってグループするっていうから、こりゃ愉快だね。

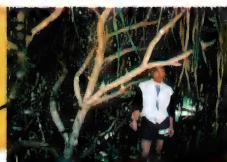
PINEAPPLE FARM

▲ハワイの広大なパイナップル・フィールドも、この島の農園には足元にも及ばない。だってここのパイナップルたちは、王様直伝のGO-GOダンスを踊ってスクスクと成長するのだ。

BAY OF FUNKY DUCK

▶王様の友達の４人(？)のアヒルが来島したことを記念してこの小さな入り江は〝BAY OF FUNKY DUCK〟と名付けられました。今ここにはFUNKY SWANが停泊中です。

FUNKY SWANは小型クルーザー
●B.O.F.D.に来るといつも、王様はつい、ステージでの動きを思い出してこんなアクションをかましちゃうのだ。

to the Party
Shake Shake
Power Groovin'
APOLLO AIRPORT
●世界的に有名なミュージシャンが専用エア・バスで飛来する空港。島の景観に感動した彼らは即興で歌うこともしばしば。
CAPE RAP〈ラップみさき〉
●この岬に打ち寄せる波は素敵なリズムを持っている。それに合わせてしゃべるという遊びを続けると、いつのまにかRAPミュージックのエキスパートになれる霊験あらたかな場所。
TAWAWA JUNGLE
◀熱帯性植物がビッチリと繁るここは、伊豆のバナナ・ワニ園の姉妹ジャングルとしても有名である。特産のおみやげは、マーマレードの瓶詰めとヒット・パレードのCD。
Mt. J.B.
◀朝日と夕日が照らす一日のうちのわずかな時間、この山は人間の顔に見えるという。それもソウル・ミュージックのゴッド・ファーザーと呼ばれる、ジェームス・ブラウンにソックリというから不思議なことだ。なお一説にはKUBOTA王の父君にもよく似ているといわれる。
"LITTLE STEVIE"Is.
●グラス・ボートに乗って30分あまり、本島とまったく同じ形をした小さな島に着く。王様は子供の時によくここで、スティービー・ワンダーを聞いたものだ。
SWIM POOL
▲お城の一角にあるプールで泳ぐとダンスがうまくなると評判さ。
CASTLE OF PINEAPPLE
●巨大なパイナップル部分はプラネタリウムになっている。これが王様のお城です。
PSYCHIC REHEASAL
▲トコ夏の楽園を楽しむ日々も王様は城の地下にあるディスコで次なるツアーのためのリハーサルを忘れることはない。歌う彼の思いは世界に向かう。
▶お城の大食堂では時に、島の人々のためだけにコンサートが開催される。王の右後ろにたなびくのはパイナップルの節句の"恋登り"。

世界にたったひとつの“久保田利伸”という音楽

やがて、短くも極上のHOLIDAYが終わる。王様は、アポロ空港のメインデッキに立ち、愛するパイナップル・アイランドを遠く見はるかしながら（島への思いをひとまず断ち切るように）歌について熱く語り始めるのだった。

——つまり、僕がやっているのは、ブラック・ミュージックでもなく、白人の音楽というわけでもなく、元来つちかわれて来た日本人の音楽というわけでもなくて、世界の中にたった一人しかいない久保田という奴の音楽だと思います。ウン、世界にたった一人しかいないって言っても、僕と同じようなものの感じ方をして、同じような環境で育ち、ほとんど似たようなバイブレーションを持った人が作ったら、同じような曲ができるかもしれないですね。ただ、それぞれの人間が、それぞれの自分に素直にやれば、それぞれに個性的な音楽になるものだと思いますよ。

ああ、そういえば以前に、マイケル・ジャクソンやジョージ・マイケルが、僕に近いフィーリングを持っているって言ったことがありましたね。それは、二人とも僕に近い年代で、同じような音楽を聞いて育って来たし、好きなものも似ているから、わかりやすいので名前をあげたのです。実際彼らが作るオリジナルにしても、僕もアルバムに入れてもいいなっていうくらい近い感覚があります。

……僕はね、好きな音楽のノリがこういうのでよかったな、こういうものが好きでよかったなっていうのは今も時々思いますよ。もしかして東京に出て来たときにマザー・アースの羽田とかと会ってなかったら、違う音楽をやっていたっていう可能性もあるから。迷って違う音楽を始めていて、もしかしたらいま頃、ポピュラリティーのあるロックン・ロールを続けてやっていたっていう両極端な可能性だってあるしね。そういう意味では同じような音楽が好きな奴に巡り会えてよかったし、他人と違う音楽のノリを示せてよかったなって思う。

いやいや。ノリっていうのは、好きな音楽や好きなステージをやって来た結果なんです。別にこうやれば、こういうノリになるっていうことをことさら意識してやっているワケではないけど、でも、そういえば昔から、他人と違うことをやっているなっていう優越感とか、やり甲斐を感じるときはありましたね。特にアマチュア時代って、他のバンドと同じステージに立つことがあるでしょう。そういうとき、とりあえずこのあたりじゃこういうノリって誰もやってないなって、他のバンドの本番中によく思ったりしたものですよ。

ただね。いま言われた躍動感ですけど、こればっかりは、人に聞いてみないとわからないんです。自分の音楽が、人と比べてより躍動感があるか、それともないかっていうのは、自分ではわからないんです。

………そうですか、僕と同じ種類のを持っている人のステージは見たことがないって？　それはナーイス（笑）。そうじゃないとね、やっぱり他人と違うような感じでないとね。あ、僕にもコーヒーください。ありがとう。

これから次のアルバムのレコーディングに向かうわけだけど、いままでの『SHAKE IT PARADISE』と『GROOVIN'』は、デビュー前に書いた曲も多いので、もっともっと自分らしいものっていうのは、まだまだ出せていなかったような気もするんです。いま思うとね。だから今度は、もっと、こう出せるという意気ごみでのぞむから、より自分らしいものができると思うんです。まだ遠慮がちだった部分、つまりこれはしちゃダメかな、とか、聞く人がこういう気持ちで聞けるかなっていうことを考えながら作った部分も、今度はハダカの自分を出したらどうなるかっていうことでやると思うから。だからより自分らしいものができる反面、聞く人にとっては不親切っていう可能性は充分ある。でも、これまでとイキナリ変わったっていう、そういう反応はないと思う。これがね、すごくいい曲が多いんです。（笑）

いやぁ。自分の音楽を素直に出すっていうことは、黒っぽい音楽に、ヨリかたよるっていうことではないです。つまりブラック・ミュージック・マニアを喜ばせるのは簡単なんです。あ、こいつジェームス・ブラウンのあのフレーズを入れてるなとか、そういう方向に行けば行くほど嬉しい。でも、真似を多くやるとか、そういうつもりでは作ってないですよ。そうだと、ちょっと寂しいですよね、自分のレコード作るっていうことからすると。……そう、僕はやっぱり世界でたった一人しかいない久保田の音楽をやり続けて行きたいから——。

王様はさっと手を振ると、いまはもう久保田利伸の顔に戻って、次のアルバムのレコーディングのためにL.A.の空へ向かって飛び立った。

D I S C O G R A P H Y

●Album

SHAKE IT PARADISE
Ⓐ流星のサドル／Olympicは火の車／Shake it Paradise／Missing／失意のダウンタウン Ⓑ To The Party／もうひとりの君を残して／Somebody's Sorrow／Dedicate（TO.ME）／Insideカーニバル／For You～伝えきれなくて
CS●28AH－2054 '86年9月10日

GROOVIN'
ⒶPSYCHIC BEAT／北風と太陽／PLACE／RANDY CANDY／LADYSUICIDE Ⓑダイヤモンドの犬たち／薄情LOVE MACHINE／永遠の翼／VISIONS／八番目の虹の色
CS●28AH－2168 '87年4月22日

●Video

SUPER DUPER Vol.1
流星のサドル
GODDESS～新しい女神～
RANDY CANDY
Missing
CS●30ZH－172 '88年5月

★初のライブ・ビデオ『KEEP ON DANCING』は7月21日発売予定!!

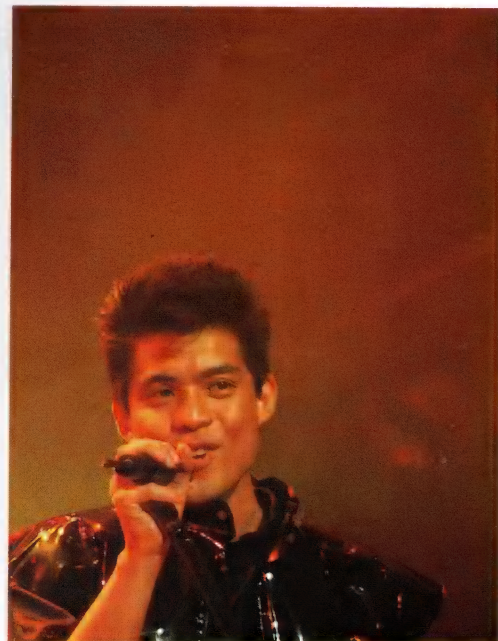
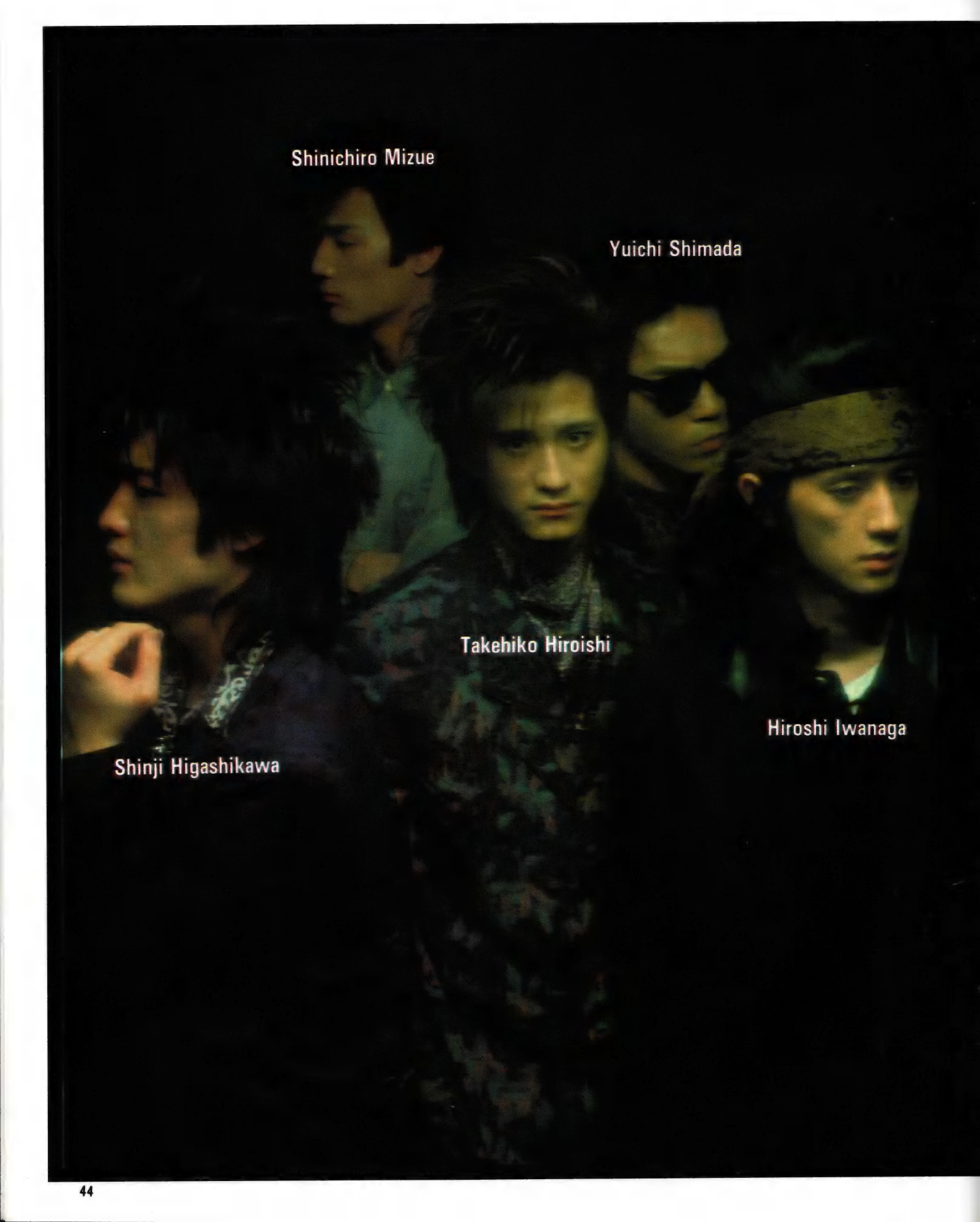
●Single

失意のダウンタウン b/wせめてGOOD TIME今夜だけ（'86年6月）

TIME・シャワーに射たれて b/w流星のサドル（'86年12月）12inch.

GODDESS b/w一途な夜、無傷な朝（'87年2月）

CRY ON YOUR SMILE b/w TAWAWAヒット・パレード

YOU WERE MINE b/w永遠の翼（'88年2月）

UP-BEAT MIND-DIRECTION

[シングル・ナンバーにみる、意識の移り変わり]

●デビューしてから丸2年が過ぎた。この、2年という期間の中で、UP-BEATは着実に上昇と変化を遂げてきた。12インチ・シングル「KISS…いきなり天国」から「Blind Age」まで、6つのシングル・ナンバーから、彼らの意識の向かう先を探ってみた。

PHOTO by HIDEO CANNO

Shinichiro Mizue

Yuichi Shimada

Takehiko Hiroishi

Hiroshi Iwanaga

Shinji Higashikawa

UP-BEAT MIND-DIRECTION

現在、UP-BEATはデビュー3年目に突入している。"まだ3年目"というべきか、"もう3年目"というべきか　いずれにせよ、ここまでの間、バンドはうまく転がってきた。

そんなUP-BEATが、これまでに発表したシングルは6枚。ここでは、それらを改めて吟味しつつ、彼らの音楽と意識の流れを追ってみようと思う。

＊

●「Kiss…いきなり天国」

12インチ・シングルという形でリリースされたデビュー曲は、作詞　柴山俊之、作曲　大沢誉志幸、によるもの。まだ音を聞く前にそのクレジットを目にしたとき、"なぜ自分たちの作品でデビューしないのだろう？"と思った。"ひょっとして、端正なルックスを売り物にしただけのバンドか!?"などという気さえ起こりかけたが、実際にその音を耳にしたとたん、思わずニヤリと納得したことを覚えている。大沢メロディーをうまく自分たちの色に引き寄せているではないか。そう、それはあのラモーンズにも似た、ニューヨーク的な香りのサウンド。「どうせならここまでやらないとカッコ悪いよ」と語った広石に、頼もしさが感じられた。詞のほうは、広い意味でのラブソングではあるが、かなりキワドイ内容であった。このころ何かとルックスのよさを強調されがちなUP-BEATであったが、彼らの本質はワカる人にはワカっていたはずだ。

●「VANITY　BRANDNEW　」

2枚目のシングルは、「Kiss…いきなり天国」のB面に入っていた「Vanity～憂いの君～」を、文字どおりBRANDNEW ARRANGEで再現したものである。

デビュー・12インチ・シングルに収録されているほうのテイクを最初に聞いたときも感じたことだが、この作品はそのサウンド・アレンジ面で非常に注目すべきものがある。いわゆる"ビート・バンド"と呼ばれるアーティストにありがちな、ただ単にコードをかき鳴らすギター・サウンドと脳天気なタテノリ8ビートに終始するのでなく、さまざまなニュー・ウェイブのエッセンスがちりばめられているのだ。それていてメロディー・ラインはあくまで聞きやすい。広石独特の憂いを含んだ歌詞も、ニュー・アレンジされた2ndシングルでは、いっそう引きたっている。直情的だったデビュー曲から、ひとつ拡がりが出た。

●「PRISONER OF LOVE」

UP-BEATは、デビュー当時から堂々と「売れたい」という意志を口にしていた。テレビへの出演もはばからず、メジャーになることへの飽くなき執着が見てとれた。「5歳の子供が歌えるロックを」という広石の言葉もあった。もちろん、そういった姿勢を安易な意味に受けとると、大きな間違いになる。彼らは、日本にロック・ミュージックが少しでも根づくために、まず自分たちが前へ出てゆくことの必要性を感じたのである。この3rdシングルは、まさしくそんな彼らの姿勢を象徴するかのような作品だ。親しみやすいメロディーは、一度聞いたら口ずさめそうてある。ロック、ロックとこだわりすぎて世界を狭めることの無意味さを感じさせる作品といえよう。

●「Kiss in the moonlight」

きれいな作品だ。美しいメロディー・ラインと美しい歌詞、そしてタイトルのもつ甘美な雰囲気は、ともすれば単なる"きれいなラブソング"として受け流してしまいそうになるが、どうやら違うようだ。広石はこう語った。

「この曲はね、恋の歌じゃないんだ」

なるほど、"優しさまで君を苦しめ　僕等も引き裂く"というフレーズは、少しばかりネガティブな意味あいが込められているようだ。中途半端な優しさは、かえって他人を傷つけてしまうことがある。それならば、むしろ冷たくしておいたほうが両方のためになる場合がある、ということだ。ストレートなようで、実はクールなメッセージが込められたこのシングルは、UP-BEATの深みを感じさせる一枚てある。

●「NO SIDE ACTION」

「Kiss in the moonlight」、そして2ndアルバム　inner ocean　てつちかわれた曲と詞の深みと拡がりを、さらにもう一歩おしすすめたような作品だ。ここにきて、UP-BEATの作品は、ファースト・アルバムまでのそれと、はっきり色を異にするレベルまできた。"なんだか難しくなった"と、離れてゆくファンがいるとすれば、それはそこまでのファンだったということだろう。この曲は、"明日になれば、きっと明るい未来が待ってるサ"という単純なものでは決してない。ノリのよいビートに身をまかせているだけだと、肝心の"思い"を見落としてしまう。歌詞の中の"Someday"という単語ひとつとっても、どれほどの重さがあることか……。

●「Blind Age」

この曲については、GB本誌の広石インタビューでも深く掘り下げたとおり、日常の中の非日常があまりにも目にあまるものとなってきた現在の世界観に基づいて作られたものといえる。それていて、ただヤミクモにひとつの対象をヒステリックに糾弾するのでもなければ、必要以上に悲観的になり、すべてを絶望視しているわけでもない。とにかく"ここにいる"ということをまず認識したうえて、ポジティブな視点は崩していない。

サウンドは、いつになく大きなスケール感を漂わせ、キーボードの配しかたにも何かふっきれたものが感じられる。音に関しては、やはりプロデューサーの佐久間正英氏やミキシング・エンジニアのマイケル・ツェマリング氏といったスタッフの手腕も大きなポイントになったようだ。

＊

今年、UP-BEATはその作品を見る限り、格段の進歩を遂げた。さらにこの秋にはサード・アルバムのリリースを控え、その前にもう1枚のシングル曲も発表する予定だ。

デビューしてからの2年間、その作品に込められた意識や思いには、さまざまな紆余曲折があり、多彩な世界が描かれてきた。3年目をしたたかに駆けぬける彼らは、もはや"新人バンド"という範ちゅうから抜け出し、フロントラインへ転がりはじめた。

DISCOGRAPHY

●Album

IMAGE
Ⓐ Eden／VANITY―BRANDNEW―／Lost Affection／Dreams／Imitation Lovers
Ⓑ スキャンダラスな君の夜／Kiss…いきなり天国/Feel Blue/ステキなサタディナイト
V●LP-VIH-28275（'86年11月11日）

inner ocean
Ⓐ Time Bomb／Nervous Breakdown／Shadow Dance in Blue Glass／Doctor／Wax and Wane～月を売った女神～／Lady party doll Ⓑ Kiss in the moonlight／SAYONARA SEKAI／Raindrops／Human dolls／NEW DREAM～BAD MOON RISING～
V●LP-VIH-28301（'87年9月15日）

●Video

REAL BEAT SCENE 4～Real Ocean～
①Nervous Breakdown
②Wax and Wane～月を売った女神～
③NO SIDE ACTION
（3曲入り、15分、￥2800）
V●VHS－VTM－130 Beta－VBM－130

REAL OCEAN～REAL BEAT SCENE5～
①Time Bomb
②Doctor
③スキャンダラスな君の夜
④Human dolls
⑤Raindrops
⑥KISS…いきなり天国
⑦NEW DREAM～BAD MOON RISING
（7曲入り、50分、￥4500）
V●VHS－VTM－137 Beta－VBM－137

●12inch Single

KISS…いきなり天国
c/w Vanity～憂いの君／Go-Go Girl
（'86年5月21日）

●Single

VANITY―BRANDNEW―
c/w Black&Red
（'86年10月）

PRISONER of LOVE
c/w Lost Affection
（'87年2月）

Kiss in the moonlight
c/w NEW DREAM-BAD MOON RISING-（'87年7月）

NO SIDE ACTION
c/w SAYONARA SEKAI
（'88年1月）

Blind Age
c/w Nervous Breakdown
（'88年5月）

BARBEE BOYS CHECK!

キミはどのくらいバービーを知っているか？

●バービーボーイズの世界は深い！ のである。"私は正真正銘のバービー・ボーイズのファンヨ。"というキミも、もしかしたら知らないことがいっぱいあるのです……。そこで、あなたがどのくらいバービーのことを知っているか、"BARBEE BOYS CHECK"。はたしてあなたは何バービーになるか？ 答えは50ページにあるけど見ちゃダメヨ。

[YES・NO編]

1 杏子はタバコを吸う
2 イマサは酒が強い
3 緑の瞳をしたモンスターが心の中に住んでますか
4 コイソのドラム・スティックは100g(1本)が目安である
5 「でも!?しょうがない」のプロモ・ビデオに出てくるのはコンタと杏子の指である
6 コイソはトマトが好きだ
7 コンタはある日トマトが好きになった
8 代々木のオープニング・ナンバーは「チャンス到来」だった
9 Freebeeジャケットでコイソはギョーザを食べている
10 「冗談じゃない」は夏の夜の歌だ
11 「マイティウーマン」は始発電車でやってくる
12 「ドンマ ドンマイ」でピアノを弾いてるのは杏子だ
13 コイソは下町生まれだ
14 コイソは巨人ファンだ
15 杏子はブライアン・イーノをよく聞く
16 コンタはステージではアルト・サックスを吹いたことがない
17 イマサはステージで生ギターを弾いたこともある
18 エンリケはステージでウッド・ベースを弾いたことがある

撮影●大川直人 構成●藤井徹貫

ちょっと上級

●YES・NO編は全部クリアしたかな? 次はちょっとむずかしいので気をひきしめてかかれ!

[音楽編]

19「ごめんなさい」に出てくる数字を合計するといくつ?
20映画『台風クラブ』の冒頭シーンで流れるのは?
21歌詞の中に"冷蔵庫"が出てくるのは?
22ビンゴゲーム、ハンティングゲームが出てくる曲は?
23『3rd.BREAK』収録曲の中で"幻のイントロ"がついていたが、レコード化の段階でカットされた曲は?
24杏子の作詞デビュー曲は?
25バービーボーイズ初の共作は?
26**100円玉**で弦を叩きながら作った音が使われているという曲は?
27**バービー**がCBS・ソニー・オーディションに応募した曲は?
28バービーがアマチュア時代に出演していたライブ・ハウスは?
29「**悲しきコヨーテ**」で杏子がデュエットした相手は?
30『Black List』のT.D.を行なったN.Y.のスタジオは?
31代々木第1体育館で披露した新曲は?

[雑学編]

32エンリケの出身地コロンビアの首都は?
33Freebeeのジャケットでコイソが着ているのは、ナンというバンドのTシャツ?

34コイソがカラオケで得意とするナンバーは?
35エンリケとコイソがパーソナリティをつとめるFM大阪の番組は?
36映画『ふたりぼっち』でのコンタの役名は?

BARBEE BOYS CHECK!

37 ギターが写ってないアルバム・ジャケットは?

38 「1st OPTION」でBarbee君が手にしている酒の種類は?

39 コンタの主演映画の相手役は?

40 バービー・ファンクラブの名前は?

41 いまみちともたかのペンネームは?

42 エンリケの好きな色は?

43 少年時代のコイソが熱中していたスポーツは?

44 杏子がパーソナリティをつとめる番組は?

全部終わったら答えをCHECKだ!

●1〜10 ベビー級

▶甘い! ブラジルのチョコレート・ケーキよりも甘い! まだまだ修業も精進も足りないキミは、バービーボーイズの"バ"の字を見つけたら、むさぼるように読んで聞いてみることだ。雑誌はGB、ラジオは杏子のスーパーギャング、レコードは「使い放題Tenderness」、映画は『ふたりぼっち』——これは必要不可欠のチェック事項。ローマは1日にしてならずだが、バービー・フリークは瞬間的になれる。あとは深めていくだけなのさ。

●21〜35 ヘビー級

完璧にキてる人。きっとバービーのすべてのアルバムは隅から隅まで聞き込んでいる、とみた! でも、ライブはたま〜に欠席してないか。そのテの甘えの構造を許可した覚えはNOTHINGぞ。今後は、ライブ皆勤賞を目指すべし。ライブでの細かい動きのチェック、杏子のいたずらウォッチング、「負けるもんか」の3番(レコードには未収録)マスターに努力を惜しんじゃダメ。従って、8月22日のBIG EGG in Barbeeには絶対出席を義務づけよう。

●11〜20 メイビー級

▶May be——多分——キミはバービーのこと愛しているはずだ。それはキミ自身も気づいていないことかもね。でも、キミのバービーへの愛は心の深いところで揺れているのさ。だから、まず家族や友達へ向けて、バービー・フリークを宣言をして、バービーを愛してるって公言すべきだ。好きこそもののナントヤラの言葉どおり、見ても聞いてもハートの深層部でビシバシ感じられるはず。今はキャリアのキミも明日から立派なバービー・フリーク。

●36〜44 バービー級

▶Oh My God! なんてこったあ! こんなに素敵なバービー・フリークがいるなんて。キミは今から"Dr.Barbee"を名乗ってよし。ただし、バービーの特徴は、イマサの言葉を借りると、——どこにでも行けるフットワーク——だから、ウカウカしてると、一気のクラス・ダウンもあり得るのだ。従って、日々これ精進でバービー・フリークを極めてもらいたい。まずは映画『ふたりぼっち』を10回以上は観ること。

BARBEE BOYS CHECK!

どうだったかな？
こらっ、こっちを先に見るのはダメだゾ！

●さて、全部クリアできたかな？ 44問中何問正解できたかをたしかめて、キミのバービーボーイズ度をCHECKしよう！
くれぐれも答えを先に見ないように！

A ① No
杏子はタバコを吸いません。でも、嫌煙家でもありません。お酒はお付き合い程度。
A ② No
弱い！ というほうが正確。ココイソは強い
A ③ Yes
「1st OPTION」ジャケット（表）の英文の参照
A ④ No
正解は60g
A ⑤ No
女性の指はビデオの監督さんの指です。
A ⑥ No
A ⑦ Yes
転向のきっかけはアラン・シリトーの小説。
A ⑧ No
「負けるもんか」でしたよね。
A ⑨ No
シューマイが正しいのです。中華風ファッションできめているのがエンリケ、食べようとしているのがコイソ。
A ⑩ No
秋です。歌詞をもう１度よ～く読み返してください。夏の××が秋の××につながる、という意味の深い歌ですよ。
A ⑪ No
最終電車です。中央線なら午前１時頃だけど、ロンドンは24時間動いているので、どれが最終で、どれが始発か、迷いますよねェ。
A ⑫ No
コンタが正解。
A ⑬ Yes
チャキチャキの下町っ子だとか。
A ⑭ Yes
江戸っ子はヤッパ巨人ファンでなくちゃね。
A ⑮ Yes
ブライアン・イーノはロキシー・ミュージックなどに在籍していたミュージシャン。
A ⑯ No
ステージでも立派にアルト・サックスを吹いています。
A ⑰ Yes
Barbee Boys on the RUN ツアーの「ラサーラ」などで弾いてたでしょ。
A ⑱ No
A ⑲ 52（＝2＋3＋5＋6＋2＋3＋2＋3＋5＋6＋7＋8）
A ⑳ 「暗闇でDANCE」
深夜のプールサイドでのダンスシーンに使われています。
A ㉑ 「ショート寸前」と「涙で綴るパパへの手紙」
A ㉒ ビンゴ・ゲームは「わぁい わぁい わい」ハンティング・ゲームは「ショート寸前」
A ㉓ 「どんなもんだいッ」
一体どんなイントロだったんでしょう。
A ㉔ 「ショート寸前」
A ㉕ 「はちあわせのメッカ」
アルバム『LISTEN！』のA ①に収録。
A ㉖ 「ラストキッス」
A ㉗ 「暗闇でDANCE」と「Midnight call」
ただし、応募当時は「2001年Midnight call」というタイトルだったとか。
A ㉘ 四谷フォーバレー
A ㉙ 王置浩二
安全地帯のアルバム『月に濡れたふたり』に収録
A ㉚ パワーステーション
エリック・クラプトン、ボブ・ディランなどとにかく一流アーティストと呼ばれる人たちはほとんど使用しているスタジオです。でも、イマサいわく――そういうミーハー的理由は全然なかったね――とのことでした。
A ㉛ 「使い放題Tenderness」
バービーらしいor らしくない、と感想が分かれるバービーらしい新曲です。
A ㉜ ボコタ
ボコタはドコダ？ な～んちゃってね(笑)。
A ㉝ ヴェルベット・アンダーグラウンド
正確にはヴェルベット・アンダーグラウンド＆ニコとクレジットされています。
A ㉞ 「そっとおやすみ」
布施明が歌った名バラード。コイソは渋い！
A ㉟ 真夜中のパーティ～負けるもんか！
エンリケの動物ネタとコイソの下町ネタが出ると、かなり面白そう。でも、関西地区でしか聞けないのは残念。
A ㊱ 福田健二
A ㊲ 「1st OPTION」と『Freebee』
A ㊳ バーボン
とうもろこしから作る酒。バーボンのソーダ割りは邪道だが美味い。
A ㊴ 古村比呂
NHKの朝の連続テレビ小説"チョッちゃん"に主演。映画では"童貞物語"に主演。
A ㊵ 負けるもん会
A ㊶ チャック・ムートン
日本式ではムートン・チャックさん。きっと無頓着さんと書くのでしょう。
A ㊷ 紫
『LISTEN！』のアルバムを見よ！ また、ステージ衣装もパープルが基調です。
A ㊸ 野球
A ㊹ TBSラジオ・杏子のスーパーギャング

D I S C O G R A P H Y

●Album

1st.OPTION
Ⓐ帰さない／ふしだらVSよこしま／Shit！Shit！／嫉妬／ブリティトール／a nine day's wonder
Ⓑもォやだ！／Blue Blue Rose／小憎 clyin' on the beach／暗闇でDANCE／冗談じゃない
ES●28・3H-156 '85年２月25日

FREEBEE
Ⓐmidnight peepin'／負けるもんか／チャンス到来／マイティ・ウーマン／でも!?しょうがない
Ⓑ悪魔なんか怖くない／ドンマイ・ドンマイ／ラスト・キッス／タイム・リミット／ダメージ
ES●28・3H-181 '85年11月１日

3rd.BREAK
Ⓐ離れろよ／どんなもんだいッ／はやまったらイヤだぜ／ショート寸前／チークダンス
Ⓑ打ち上げ花火／なんだったんだ？7DAYS／STOP／ラサーラ
ES●28・3H-245 '86年10月５日

LISTEN
Ⓐはちあわせのメッカ／泣いたままでListen To me／Dearわがままエイリアン／ごめんなさい／女きつねon the Run
Ⓑわぁい わぁい わぁい／夜の街／Noisy／くちにチャック／ナイーブ
ES●28・3H-298 '87年９月９日

Brack List
Ⓐ C'm'on Let's go！／Blue Blue Rose／でも!?しょうがない
Ⓑ 暗闇でDANCE／瞳の奥でまはたくな／チャンス到来
Ⓒ 小憎 cryin' on the beach／もォやだ／Midnight Call
Ⓓ帰さない／負けるもんか／ダメージ

●Video

S E X Y B E E T M A G I C
C'm'on Let's Go！／帰さない／もォやだ／STOP！／ショート寸前／チャンス到来／離れろよ／暗闇でDANCE／なんだったんだ７DAYS／負けるもんか／さぁどうしよう／翔んでみせろ／ラサーサ
ES●98・2H-109('87年２月)

Fake Band
女ぎつね on the Run／なんだったんだ？７DAYS／でも!? しょうがない／暗闇でDANCE／チャンス到来
ES●38・2H 124 （'87年６月）

●Single

暗闇でDANCE
b w MIDNIGHT CALL
'84年９月21日

もォやだ！
b w Blue Blue Rose
'85年２月１日

でも!?しょうがない
b w Pretty doll
'85年６月21日

チャンス到来
b w 瞳の奥でまばたくな
'85年10月２日

なんだったんだ?7DAYS
b w あいさつはいつでも
'86年10月１日

女きつね on the RUN
b w ショート寸前
'87年４月１日

泣いたままで listen to me
b w 涙で綴るパパの手紙
'87年８月26日

ごめんなさい
b w はちあわせのメッカ
'87年12月２日

使い放題Tenderness
b w ブリティドール
'87年６月22日

●12 inch

負けるもんか
b w C'm'on Let's go 翔んでみせろ
'86年４月１日

UNICORN
HEY MAN!

戦場に持って行きたいテープに、つっこむ曲を選べ。というのが、今回の司令だった。むちゃな言いぐさだな。戦場ってのは、無人島とかさ、あるでしょ。ま、この写真だし。でもさ、「地獄の黙示録」だったりしたらさ、大笑いになるってのもあるよ。実際、この選曲は、ヘリコプターで奇襲をかけるときにさ、いきなり「ふりむけばカエル」ってのがかかったりしたら、やっぱまずいよね。そ、こんなふうに、〝戦場〟が、まったく実感のない言葉でよかった。イノセントなヤツらでよかったよね。

D I S C O G R A P H Y

● **Albums**

BOOM

Ⓐ Hystery-Mystery／Game／Maybe Blue／Concrete Jungle／Limbo
Ⓑ Sweet Surrender／Alone Together／Sadness／Fallin' Night／Pink prisoner
CS●28AH-2238　'87年10月21日

PANIC ATACK

Ⓐ I'M A LOSER／HEY MAN！／SUGAR BOY／抱けないあの娘(Great Hip inJAPAN)／FINALLY
Ⓑ シンデレラ・アカデミー／サービス／ペケペケ／SHE SAID／眠る／ツイストで目を覚ませ
CS●28AH-5088　'88年7月21日

◀いやいや、申しわけない！　この本が店頭に並ぶ'87
◀年7月1日現在、UNICORNは未だ、アルバム1枚き
◀りのアーティストなのだ。OH GOD!!　しかし、見
◀出しにはAlbumsなんて、複数型になってるしなぁ！
◀ええいっ、7月21日発売のニューLP『PANIC ATTAC
◀K』も混ぜてしまおう。今から、タイトルだけ見て、
◀もんもんしててくれ。

撮影●加藤正憲　COPY●川村真澄　スタイリング●池谷幸江　衣装協力●中田商店●03-831-5154

テイストって言えばさ、昔。テイストってバンド、あったよね。川西くん、覚えてる？　ロリー・ギャラガーとか。君だけだよ、僕と年代があうのはさ。バッド・カンパニー、いいよね。僕、武道館行ったもん。そう言えば、川西くんの腕力で目にもの言わせてるみたいなドラムってさ、なんか、ツェッペリンとかの時代ってかんじあるよね、うん。民生くんが言ってたけど、「ドラムってのは暴力ですからね」って。そーゆーの好きだなぁ。やっぱね、人間、カラダだよ。しかしさ、ほかのメンバー、いろんなところから曲を集めてきてるのに、このおおざっぱなこと。ツェッペリンとバッド・カンパニーだけでまとめて。やっぱ、リーダー格はこうでないとね。

KAWANISHI ▶DRUMS

くずれモヒカンのテイストはやっぱり最年長。

UNICORN
HEY MAN!

かもしれないと思ったりして。あのね、こないだスペインに行ってきて、マドリッドのレコード屋で見つけたのが、すっげえかわいい男の子のシンガーのテープ。カルロスなんとかっての。スペインの人って、みんなカルロスってんだぜ。で、そこにはいってたのが、ベイシティーローラーズの「I only wanna be with you」だったんだ。もちろん、スペイン語でさ、もう、爆笑もの。いまだに生きてるんだな。そんで、帰ってきたらさ、夜中、テレビで田中星児が出て「ビューティフルサンデー」歌ってるしさ、「すばっすばっすばっすばらしーさんでー」って、やっぱり昔のものって、懐かしむのがいいような気がしない？　無気味だよ、生きてたら。

EBI ▶BASS

よく解んないヤツってほっとかれるのが好き。

▶チマタニハンランシテル、コノ"ニンシキヒョウ"。タトエバ、メンバーガキテルアーミーノコスチュームヲアツカッテイル、ウエノノセンモンテン(P51ヲミルト、デンワバンゴウガノッテルシ)デハ、800エンデオリジナルヲツクッテクレルラシイヨ!!　トリアエズ、サツエイデツカッタノハ、ミンナニプレゼントシマス。(P54へ)

やっぱりさ、ギターを弾くひとは、音楽聞くときも、ギターの音がいちばん聞こえてくるのかなぁ。ひとそれぞれ求めているものが、やっぱ、いちばんに耳に入ってくるのかなぁ。不思議じゃない？ だってさ、何度同じのを聞いても、そのつど違う音を聞こうとすると、聞こえてこるもんね。ボリュームとか、バランス、同じでも、やっぱ聞き分けることってできるもんね。人間って不思議だ。そう言えばこないだ言ってた。テッシーが。聞くたびに違うことが発見できるって。ギターって職人芸だよね。僕はつねづね思う。音楽家に必要なのは、良い耳だ、と。この選曲はどーでもいいんだけど、個人的に僕は、フィル・コリンズの顔が好きだ。

TESSY ▶GUITAR

どことなくザ・フライのような目が怖い。

▶コレヲプレゼントスルノダガ。メンバーヒトリニツキヒトツシカナイノダ、スマン。トリアエズ、カンセイハガキニ、ジュウショ・シメイ・ネンレイ、ソレニ、ダレノカホシイカハッキシカイテ、〒156-91 トウキョウトセタガヤクチトセユウビンキョクシショバコ15ゴウCBS・ソニーシュッパン GB DELUXE ユニコーン'4マイノナフダ'カカリマデ。シメキリハ7ガツマツジツデアル。

夏っていうと、どうしても日本の夏は、裏庭にじとじとはえた、シダの影でカエルが座ってる、みたいな、どーしてもスティッキーなイメージしかありませんね。そんなときは、好きなオンナのコの背中でさえも、うっとーしくなってしまいがちです。ヒヤッとした、ガーゼっぽい麻のシーツで、大きめのピロケースの中でうごめく羽毛を感じながら、月の光りにさらされて眠りにつくのがいちばん。僕は、なんとなく思う。民生くんってタイマー・ジャンキーではないだろうか。まず、エアコンのタイマーでしょ、テレビが一時間後に切れるように、と。そのうえ、ウォークマンのイヤホンで、テープを聞きながら。そして、最後に洗濯機のおはようタイマーを確認して。そんな夜は、やっぱ一人がいい。

SEE YOU AGAIN!
GB9月号は、
MINI BOOKやるし!

TAMIO ▶VOCAL

きっと眠れぬ夜は、タイマー・ジャンキー。

UNICORN
HEY MAN!

BUCK-TICK

B-T LYRICS

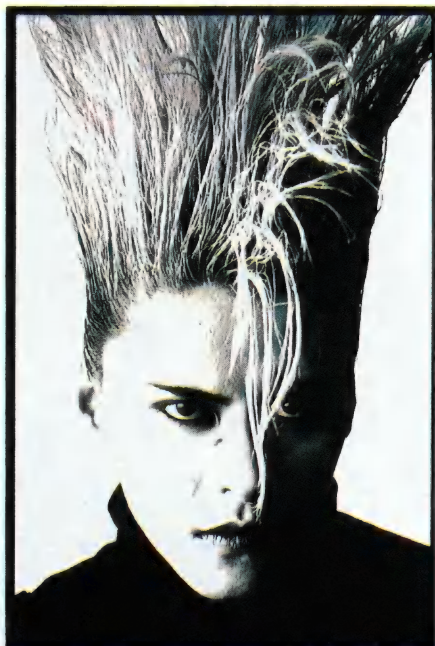
異彩を放つ、その詞世界に注目

●6月21日にセカンド・フル・アルバム『SEVENTH HEAVEN』をリリースし、人気の炎に油を注いだ感のあるBUCK-TICK。彼らはこれまで、その類いまれなるルックスのことや、ポップな曲調のことばかりがなにかとクローズ・アップされてきたが、彼らの曲の中にある〝詞〟の部分を見逃がしてはならない。ここでは、5人のメンバーのコメントをもらいながら、BUCK-TICKの深遠な詞世界をのぞいてみようと思う。

PHOTO by MASAFUMI SAKAMOTO, COPY by TEKKAN FUJII

ATSUSHI SAKURAI(Vo)

HISASHI IMAI(G)

HIDEHIKO HOSHINO(G)

英国製の化粧品Mary Quantには、〝SEVENTH HEAVEN〟の名を持つマニキュアがある。それは、女性の爪を紫色に染める。

SEVENTH HEAVEN――それは第七天国のことである。神と天使が同居する至福の境界を意味するらしい。

BUCK-TICKのニュー・アルバムも『SEVENTH HEAVEN』を名乗る。どうやらヒサシは、その音の響きが気にいったようだ。

ヒサシの独特のセンスは、独特の詞世界を生む。それは、現在のロック・シーンの中では、明らかに異彩を放つ存在である。具体的な情景描写や、わかりやすい心理描写が中心的であるロックの中の詞とは、確実に一線を画する。

そこで、BUCK-TICKの詞にスポット・ライトをあててみた。無理を承知で、BUCK-TICKの音楽の中から詞だけを抽出し、〝どれが一番好き？〟という質問をぶつけてみた。

ユータは、「MY EYES & YOUR EYES」と答えた。

ユータ「感情がこもってますよね。アルバムのラスト――『SEXUAL ×××××！』のB面ラストに収録――に歌うのにふさわしいと思います。特に好きなのは、〝悲しみに染まる事も～胸に転がった〟のところ。以前の『HURRY UP MODE』(インディーズ時代のアルバム) の流れからすると、今井サンっぽくないのかもしれませんけどね。でも、そのときの感情が目にうかぶような詞を書くでしょ。そこが好きなんです。遠回しに遠回しに書くのが今井サンらしさ。ドーンとストレートに書くのがアッちゃんらしさ。２人の性格の違いが、詞にもハッキリ出てますよ。詞がピッタリきたと思ったのは、『HURRY UP MODE』に入ってる「MOON LIGHT」。すげえインパクトがあったのは、「SEXUAL ×××××！」でしたね」

ヒデは「DREAM OR TRUTH」を指名した。

ヒデ「せつなくて、かわいらしくて、独得の感じが好き。〝ほんの少し～青に覆われ口づけて〟のBメロのところが好き。今井クンらしい詞だと思いました。初めてこの曲を聞いたときも、ここが耳に残った。強烈に頭の中に残る言葉です。今井クンの詞には照れが見える。だけど、自分が言いたいことはシッカリ入っている。今井クンらしい詞も、アッちゃんらしい詞も、どちらもBUCK-TICKらしい。〝コレ、どーゆーこと？〟みたいにアレコレと細かく内容を訊いたりはしません。自分なりに解釈してます。「MY EYES & YOUR EYES」の中の〝離れないで……花びら〟には、たまげちゃいました(笑)」

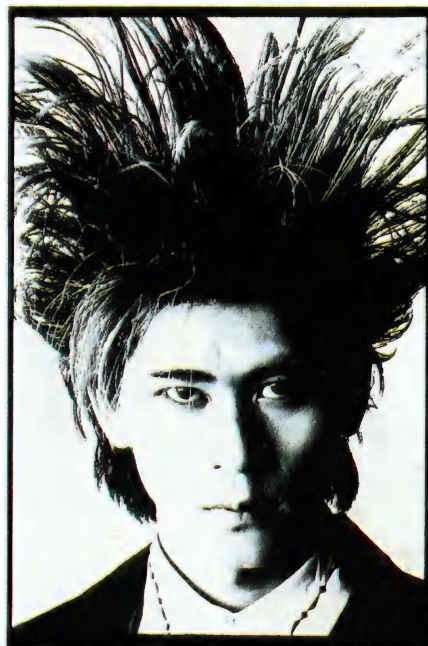
ヤガミトールは「DO THE 〝I LOVE YOU〟」を掲げた。

トール「最初の〝ダイヤモンド敷き詰めたら～〟からして、タダ者じゃないでしょ。この感性はタダ者じゃない。でも、ナンだカンだいっても、エッチな詞ではありますけど。(笑) オレの場合、譜面じゃなくて、曲で覚えて（ドラムを）叩くタイプだから……ライブでも、実際に歌いながら叩いてるときはありますよ。オレはリズムを考えるとき、ボーカル・ラインの弾みかたを頭に置いてるし……詞は重要なんですよねェ。抽象的だよね、今井の詞は。普通の感性じゃ考えられないでしょうね。物語ふうに書くのは、ある程度は誰でもできると思うんです。でも、今井の詞は真似できない。真似しても、今井の真似でしかない。だからオレは、今井は新しいタイプの作詞家だと思いますよ。今井の前じゃあ、恥ずかしくて書けねェなって思いますね。赤子同然みたいな感じ。(笑) もっともっと評価されていいと思う」

アツシは「MISTY ZONE」を選んだ。

アツシ「自分では、追いつめられた感じがうまく書けたと思ってます。そこがポイントかな。ロック・スターのことを書いてみたんです。ロック・スターが転げ落ちていく過程を……みじめなんだけど、その哀愁がカッコいいってところを書いた詞です。サビの〝I AM STRANGE BOY～〟の４行が特に気にいってます」

今井寿、桜井敦司。この２人が書き表わす詞世界のズレは、BUCK-TICKの世界を面白く複雑化し、活性化する。

アツシ「書いてるときに、今井と違う世界を、とは意識しません。ただ、できあがったものを並べてみると、オレのほうがストレートで、悪くいえば単純なのかな。(笑) 今井のほうは、１回聞いただけじゃわからない世界ですよね。今井の書いた中では「HYPER LOVE」が好きです。〝美辞麗句〟という言葉の使いかたが、今井らしいでしょ」

しかし、どんな詞が存在しても、それの生殺与奪の権を握るのはボーカリストだ。BUCK-TICKではアツシである。彼の発音のしかたひとつ、歌いかたひとつで、詞は傑作にも駄作にもなるだろう。

アツシ「いつも最終的には、オレが歌うってことは頭にありますけどね。自分の感情から直接くる言葉を歌うのが理想だと思うから……精神的にはストレートでいたいですよね。ただ、表現方法として、直接的な言葉を使おうとは考えてません。逆に、抽象的にしようとも思ってません。そのときの感情に素直に書けたらいいですね。いつも最初に、核になる出来事を思いうかべます。それは、ロック・スターだったり、セックスだったり……イメージというよりは具体的なものです。そこから、それに付随している風景や感情を思いうかべて拡げていきますね」

ヒサシは、「SEVENTH HEAVEN」から話を始めた。

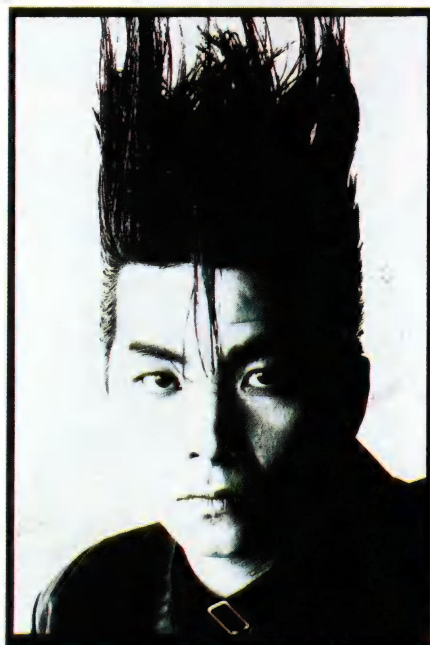
ヒサシ「今までに比べて、わりと現実的なことを書いた詞です。曲自体は昔からあったもので、全然違う詞をつけていて、何回かはライブでもやってました。でも、どうしても好きじゃなくて……むしろ嫌いな部類に入ってましたね。ところが今の詞にしたら、自分でも一発で好きになったんです。改めて詞の重要性みたいなのを感じました」

あらゆる芸術の中には、抽象的なほど芸術性が高い、との考えかたがある。だから、抽象性の高いものはより芸術的になり、具体性の高いものはジャーナリズムへと向かう。そんな考えかたも成立するだろう。

私生活を事細かに歌った、かつてのフォーク・ソングはある意味でジャーナリズムのカテゴリーに入る。当時の若者の文化や生活様式を記したジャーナリズムだといえるだろう。写真のない時代の肖像画も、記録するという点ではジャーナリズムなのである。

しかし、BUCK-TICKの詞は抽象的なアートを志向するかのようだ。その方向性を根底に持っている。

ヒサシ「オリジナルを書きはじめたころから抽象的な表現をしてました。抽象的といっても、英語が他の人のよりやや多く入っているから、そう聞こえるのかもしれませんね。ただ、意図的にわかりにくくしてるっていうところはあり

BUCK-TICK
B-T LYRICS

U-TA HIGUCHI(B)

TOLL YAGAMI(Dr)

ます。英語の部分は、日本語に訳すと恥ずかしくなるような言葉だったりして。(笑) でも、オレ普段から女の子に〝愛してる〟なんて言わないから……その点では自然かも」

日本のロックという土俵の中でも、英語詞を使うアーティストはいた。しかし、「PHYSICAL NEUROSE」のような英語の表現方法にチャレンジした人は知らない。この方法論が中心になるとは思わないが、新しいスタイルであることは確かだ。

ヒサシ「これは、英語の単語をたくさん使おうと思って作りました。(文章としてではなく、単語という単位でたくさん使おうとした、という意味だと解釈する)「HYPER LOVE」の〝美辞麗句〟は日本語だけど、英語みたいな発音を持った言葉として使ってます」

ちなみに、「PHYSICAL NEUROSE」に登場するグレゴール・ザムザとは、カフカの小説『変身』の主人公の名前である。ある朝、目が覚めると自分が巨大な毒虫に変わっているのを発見する男の物語だ。だから、歌詞の中にも〝METAMORPHOSE〟――変形、変身――と出てくる。

また、ヒサシはシュールレアリスムの鬼才、マン・レイのごとき視界も持つ。シュールレアリスムふうの映像から生まれたのが「CASTLE IN THE AIR」。

ヒサシ「日本語にすると、〝空中楼閣〟でしょ。それは絶対にありえないから、とてつもない空想って意味だったりするわけです。そこから発展させて作った詞ですね」

移動のクルマの中でも、妄想や空想の世界で遊ぶことがあるというヒサシ。彼は、そんな異次元から持ってきた言葉で詞を作っているのかもしれない。

猛烈なBUCK-TICK人気のなか、見落とされがちな詞の世界。今いちど味わいかえしてみてはどうだろう……？

●Album

SEXUAL ×××××！

Ⓐ EMPTY GIRL／FUTURE FOR FU TURE／DREAM OR TRUTH／DO THE "I LOVE YOU" ／ILLUSION Ⓑ SEXUAL ×××××！／SISSY BOY／MIS-CAST／HYPER LOVE／MY EYES & YOUR EYES
VI●CD:VDR-1435（'87年11月21日）

ROMANESQUE

Ⓐ MISTY ZONE／ROMANESQUE
Ⓑ AUTOMATIC BLUE／HEARTS
（4曲入りミニ・アルバム）
VI●CD:VDR-20001（'88年3月21日）

SEVENTH HEAVEN

Ⓐ FRAGILE ARTICLE／…IN HEAVEN…／CAPSULE TEARS(PLASTIC SYNDROME Ⅲ)／CASTLE IN THE AIR／ORIENTAL LOVE STORY Ⓑ PHYSICAL NEUROSE／DESPERATE GIRL／VICTIMS OF LOVE／MEMORIES…／SEVENTH HEAVEN VI●CD:VDR-1514（'88年6月21日）

●Video

BUCK-TICK 現象 at THE LIVE INN

OPENING／PROLOGUE
TO-SEARCH
HURRY UP MODE
MOON LIGHT
ENDING／THEME OF B-T
VI●VHS-VTM-126
Beta-VBM-126
（'87年9月21日）

MORE SEXUAL ！！！！！

THEME OF B-T
SEXUAL ×××××！
DREAM OR TRUTH
HYPER LOVE
EMPTY GIRL
ILLUSION
MY EYES & YOUR EYES
VI●VHS-VTM-138
Beta-VBM-138
（'88年2月21日）

FROM INDIES

HURRY UP MODE

Ⓐ PROLOGUE／PLASTIC SYNDROME(Type Ⅱ)／HURRY UP MODE／TELEPHONE MURDER／FLY HIGH／ONE NIGHT BALLET Ⓑ MOON LIGHT／FOR DANGEROUS KIDS／ROMANESQUE／SEACRET REACTION／STAY GOLD
（'87年4月）

TO-SEARCH／PLASTIC SYNDROME Ⅱ
（'86年10月）

'84年に結成され、当初は地元・高崎を活動の拠点としていたBUCK-TICK。'85年12月に現在のメンバーとなり、東京のライブハウス・シーンに進出しはじめた。シリーズ・ギグを展開するなか、インディーズ・レーベル〝太陽レコード〟のサワキ社長（一部の間では有名なオカタです）の目に止まり、'86年の10月リリースしたのが、初のシングル「TO SEARCH/PLASTIC SYNDOME(TypeII)」というわけだ。これがインディーズ・チャートの第6位までに上昇し、ライブの動員増加に拍車をかけた。

翌'87年の4月1日には、同じく太陽レコードから初のアルバム『HURRY UP MODE』をリリース。その日に発売記念ギグ〝バクチク現象〟を豊島公会堂で開催し、インディーズ・シーンでは異例の830人を動員したというからスゴイ！

この『HURRY UP MODE』はインディーズ・チャートで長期に渡って第1位の位置に輝き、以降のツアーも大盛況となった。(当時のGBにそのころのBUCK-TICKが紹介されてるのを知る人は少ない)

メジャー・デビューを果たした現在でもこの『HURRY UP MODE』に対する需要は高く、各方面で問い合わせが殺到しているらしい。そこで今回、メンバーからこのアルバムについてコメントをもらった。

アツシ「楽曲的にはものすごいアルバムだと思ってます。テクニックや録音機材の面を除けば、『SEXUAL～』や『SEVENTH～』にも劣らないアルバムです」

ヒサシ「インディーズへの置きみやげ――カッコよすぎるかなあ。(笑)タイトルは、〝急げ！ 形式〟だったり、〝急げ！ 様式〟だったりっていう意味でしょ。それは、自由だといっても自由にできない決まりが多すぎるっていう意味も込めたんですけどね」

ヒデ「アマチュア時代からやってきた曲だけど、今のと比べても同等だと思っています」

ユータ「インディーズ時代の集大成ですね。音に関しては無理なところもあったけど、やりたいことをすべてやっている一枚ですよ」

トール「一発録りに近いノリがあったね。そのときの気持ちをそのまま出してるし、メジャーへの足がかりにもなったけど、機材面では納得いくもんじゃなかったですね。でも、楽曲はイイですよ！」

インディーズ・レーベルからリリースしたことシングル、アルバムの中の曲は、ビデオ『バクチク現象』などで聞くことができるが、やはりファンとしてはオリジナル・ディスクを持っていたいところだろう。買いそびれた人はどうすればよいか？ 残念ながら売り切れ状態で、追加プレスの予定もないそう。自主制作レコードを扱っている店を根気強く回ってみれば、どこかに1枚ぐらい残ってるかも……？

まあ、気にかかったレコードはその場で買っておくべし、という教訓でもありますナ、これは。

ハートのジグソーパズル

ROOTS OF PRINCESS PRINCESS

撮影●菅野秀夫　文●藤井徹貫

ハートはどーして♡のカタチをしてるのだろう？
本当のハートのカタチは、もっと歪だったり、もっとマンマルだったりするのかもしれないよね。掌を太陽に透かしてみるように、希望の光に喜びを透かしてみると、そのカタチは見えるのかも。センチな光に痛みを透かしてみると、欠けてる場所が見つかるかも。
夢への距離は、誰にも測れないはず。走っても、走っても、近づけない――夜空に浮かんでるお月さんみたいなものかもしれない。小さな鏡があれば、手の中につかまえることだってできるのに、猛ダッシュを何度、繰り返しても、チ～トモ近づかない。
宝ものってなんだろう？ダイヤモンドより大切なものってあるはずじゃん。宝ものって思い出の器かもしれない。どれだけ大事な、どれだけたくさんの思い出を抱えているかでガラクタも宝ものに変身するのさ。
プリンセス・プリンセスの音楽は、ハートと夢と宝もののジグソーパズル。
プリンセス・プリンセスの音楽は、輪郭も色もないのさ。それは光と同じ。だから、誰かの心に届いたとき、初めてクッキリとカタチを表わし、ハッキリと色を示す。それはそのまま、その人のハートのカタチだったり、夢までの距離だったり、宝ものだったりするわけ。
それは彼女たちがマルごと正直に音楽やってる証拠だと思ったりする。そのマルごと正直な一人一人の音楽歴のギャップが彼女たちの今をカラフルにしているとも思う。
だから、今のプリンセス・プリンセスを10倍楽しむために、リスナーとしてのヒストリー5編をチラッと紹介しよう。例えば、同じ曲を聞いても――メロディーを追うカオリ、サウンドを味わうトモコ、ベースラインが耳に入ってくるアツコ、歌詞を聞いちゃうカナ&キョン――ほどのバラバラ・ヒストリー。聞き方も、好みも、プロセスも、OH！ BARA[5]。そん中にチラリホラリと見え隠れするプリンセス・プリンセスの音楽的ルーツ。フォーク、フュージョン、プログレ、歌謡曲、ハードロック、ロックンロール、関接的にブラックミュージック……クネクネと入り乱れるそのルーツ。
だけど、彼女たちはきっと言うだろう。女の子がロックやるのは特別じゃない――どうして今までやらなかったのか不思議なくらい、と。5編のヒストリーの結末は、この気持ちなのかもしれないね。

奥居香 ● Vocal & Guitar

BEST ALBUM『ローズ』ベッド・ミドラー

小さいころから、クラシック・ピアノをずっとやってたのね。合唱するときに必ずピアノ弾いてる子っているじゃない。小学生のときは、そういう子だった。だから、ショパンが好きみたいな世界でさ、ポップスとか、ロックとかには全然興味なかったね。
それが中２のとき、軽音のクラブに入って、RC聞きはじめたら、メチャメチャ好きになっちゃった。もう毎日、毎日、毎日、聞いてたもんね。RCのコピー・バンドやったりして、そのときはベースだったんだけど。ロックバンドのコンサートを見たのも、高１のときのRCがはじめてじゃないかなあ。クリスマスの日だった。ギャーギャー叫びすぎて、次の日は全然、声が出なかったもん。
中３のときに、アイアン・メイデンが日本でデビューしたのよ。それも聞いたし、イーグルスの『ホテル・カリフォルニア』もスリ減るほど聞いたよ。そのころ、好きだった男の子がイーグルス好きでさ、つい買っちゃったんだ。でもね、ヤッパRCの『ラプソディー』のほうが聞いたと思うよ。
パット・ベネターのコピーをはじめてからだね、歌って楽しいって思えるようになったのは。シャウトなんかも真似しちゃってね。それが18～19歳の頃。
『ローズ』は、私の宝もの。これで自分の歌や自分自身が変わったの。それほど興味があったわけでもないけど、テレビで映画の『ローズ』を見たら……それがえれぇショックでさ。ベッド・ミドラーが歌ってる「When a man loves a woman」を聞いてたら、歌詞なんてわからないのに、そうだね、そうだねって気持ちが湧いてきちゃった。歌はハートだって思った。声を惜しんでちゃ、何も伝わらないと思った。で、今、こだわってるのがプリテンダーズのクリッシー・ハインド。私のシャウトに対する考え方を変えてくれたの。ブライアン・アダムスも好き。私の求めるものいっぱい持ってる人だから。

今野智子 ● Keyboards

BEST ALBUM『フォックストロット』ジェネシス

私、普通の子だったから、あっちの人の音楽を聞きはじめたのは遅かったと思いますよ。小学生のころは、ピンクレディ好きな普通の子でしたからね。
中学生になってから、ラジオの深夜放送を聞きはじめてだから、ブルース・スプリングスティーンの「ハングリー・ハート」あたりからですよね、洋楽を聞きはじめたのって。
自分で買ってはじめて感動したのはYMOの『ソリッド・ステイト・サバイバー』。学生時代に聞いた音は心に刻まれてますよね。私は歌謡曲も嫌いじゃなかったし、チャゲ&飛鳥も好きだったし、尾崎亜美さんも好きで聞いてました。亜美さんは好きだった男の子から薦められてから聞くようになったの。エヘヘッ。亜美さんの『リトル・ファンタジー』ってアルバムが一番聞いたアルバムかもしれないな。今でも、曲作りの面で……コードの展開とかで、亜美さんに似たものがヒョコッと出たりして、オットットッと思ったりして。プリンセス・プリンセスでやってる曲ではないですけどね。
ジェネシスは、ピーター・ガブリエルが好きで、そこから遡って聞いたんです。歌詞も好きですね。こんな考え方をこんな表現にする人もいるんだと感激しました。私、わりと個性的な人が好きなんです。亜美さんにしても、ケイト・ブッシュにしても、そうでしょ。自分が〝これだ！〟と思ったものを追求してる人が好きみたいですね。
昔は、音が少ないのは嫌いだったんですよ。それにドラムの音が処理してないのは嫌いでした。だから、初期のビートルズとかはダメな部類に入ってました。それがジェネシスを聞くようになってからは、考えが変わりましたね。急にいろいろと聞けるようになっちゃったりして……。今は、スッキリしたものも聞きます。ただ、アメリカよりはイギリスもののほうが個人的には好きみたいですけど。

富田京子 ●Drums

BEST ALBUM『LIVE!』フリー

子供の頃から、エレクトーンを習ってたので、ポピュラーと呼ばれる音楽は弾いてたし聞いてました。

私、〝銀座NOW〟世代なんですよね。木曜だか、金曜だかに洋楽コーナーがあって、KISSとかも出てた。でも、スゴイじゃなくてコワイと思ってた。

中学生の頃のコッキーポップからですね、ちゃんと聞きはじめたのは。私は歌詞人間だけど、音楽っ子というより普通の子として聞いてました。自分がこの音楽をやるとかじゃなくて、ただ聞くだけ。きっと本を読むのと同じ感覚。中学時代はRCも聞いてたなあ。私たちの中学時代って、RC好きか、横浜銀蝿好きかの頃だったから。もうキャロルじゃなかったの。

高校に入って、バンドを組んでから、聞く音楽も広がりました。洋楽ではじめて買ったのは、ゴー・ゴーズ。それもバンドでコピーするためだったし、ジャンケンで負けたから。それが16歳のとき。

ビートルズは知ってて、リンゴ・スターも知ってました。でも、リンゴ・スターが好きだって人はあまりいないでしょ。そしたら、サイモン・カークって人がリンゴ・スターを好きだって、読んだか、聞いたかしたんですね。でサイモン・カークってどんな人だろう？　と思って調べたら、バッド・カンパニーがあって、その前にフリーがあったのね。それで『Free Live／』を聞いて、好きになりました。そうやって興味が出ると、どんどん遡って聞きます。それにレコードを買う前には、その人のことをアレコレと調べるほうでしたね。

私、６月生まれなんですけど、このバンドに入って、はじめてのお誕生日に４人が買ってくれたプレゼントがコージー・パウエルの『OCTOPUS』だったんです。それまでドラマーのソロ・アルバムというと45分間ずっとドラム・ソロだって思ってたから、オーケストラを従えてやってるのに驚いちゃった。

渡辺敦子 ●Bass

BEST ALBUM『ブルータートルの夢』スティング

ベースをはじめた頃に好きで聞いてたのがイーグルスの「ホテル・カリフォルニア」。私、最初のバンドはキーボードだったのね。でもキーボードって女の子なら誰でもやっちゃうようなイメージがあって、ベースのほうが目立つなあって思ってた。その頃に「ホテル・カリフォルニア」のベース・ラインがスンナリ耳に入ってきたの。邦楽では、岩崎宏美さんとか、八神純子さんの「水色の雨」とか聞いてましたよ。

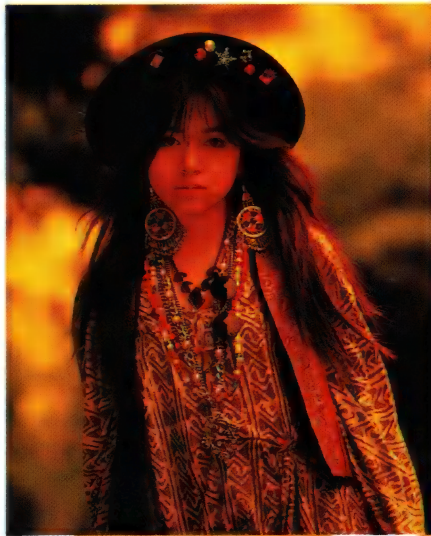
一緒にバンドやってた男の子たちから、ディープパープル、レインボー、アイアン・メイデンとか、日本のバンドだとツイスト、サザンとか借りてました。でも、バンドやってると、自分は16分系のほうが好きだって思いはじめて、ボズ・スキャッグスあたりに走っちゃったの。『ミドル・マン』とかね。それは高校生の頃だったから、あの大人の雰囲気がよかったのかなあ。

同じ頃から、フュージョンも聞いてた。カシオペアやシャカタクも好きだった。チョッパーがビシバシっていうのが好きで、カシオペア、ブラザーズ・ジョンソンを必死にコピーしてたモン。TOTOもコピーしてたから、真剣に聞いてたよね。松下誠さんのパラダイム・シフトというバンドも好きだった。そこの『パラダイム・シフト』と『プレッシャー・プレジャー』の２枚のアルバムも聞き込んでたね。

高校生の頃は、１か月に３～４枚ぐらいアルバム買ってたかな。おまけにバンドが練習するスタジオ代とかもかかるじゃない。だから、いつもピーピーいってましたよ。

それから、シャーデーやスティングにいくのね。ヘヴィ・メタやパンクは好きじゃなかった……ヘヴィ・メタはうるさいでしょ。あれは目覚めて一番に聞く音楽じゃない／　って思ってたけど、合宿時代はカナちゃんが隣の部屋でいつも聞いてたからね。

中山加奈子 ●Guitar

BEST ALBUM『ケセラセラ』ジョニー・サンダース

最初はフォークから入ったんですよ。ギターもフォーク・ギターからはじめたし。その頃は、長渕剛さんや吉田拓郎さんを聞いてました。

で、途中からロックに移って、パウワウ、シルバー・スターズ、ノベラが好きだったなあ。中でも、プログレッシブ・ハード・ロックとかいってたノベラが好きでしたね。ノベラからはELP、ユーライア・ヒープにチョコッと行って、パウワウからはスコーピオンズ、アイアン・メイデン、タイガーズ・オブ・パンタンに広がってたね。

その頃から、ジョーン・ジェットも聞くようになってました。ジョーン・ジェットは、私の中では完全に格別。今だに色褪せない存在だから。

日本では、モッズ、ハウンド・ドッグ、シーナ&ロケットも好きだったから……ナンデモ高校生だったね。でも、自分の中では、骨のある音楽じゃなきゃイヤだってこだわりはあった。だから、その頃はハードロックにエネルギーを煽られてましたよ。

ここ２年ぐらいはジョニー・サンダースが気に入ってます。はじめて聞いたときから、一発で好きになりましたね。

洋楽ではじめて買ったレコードはスコーピオンズの『Black Out』だね。はじめて持ったロックのカセットがパウワウだった。今まで最高に聞いたのは……どうだろう？……ノベラかなあ。高校時代、ヘッドホーンしてノベラを聞くと、ドラマチックな展開に泣いてたもんなあ。

今は、流行にはウトイと思いますよ。高校生ぐらいのロック少女のほうが私より詳しいと思うなあ。私の最近の傾向はどんどん古いもの古いものと時代を遡ってるみたい。意識はしてないけど、好きなもの、聞きたいものが古い時代のものだったりするのね。いつも思ってることは、ロックに関しては、一生、単なるファンでいたいってこと。

[辛口座談会●プリプリ、ちかごろの外タレライブを斬る／]

――では、プリンセス・プリンセスのみなさんに'88年前半を振り返ってもらいましょう／　今年、観た中で最高だったコンサートは？
カナコ「ミック・ジャガーとジョニー・サンダース」
カオリ「ブライアン・アダムスとミック・ジャガー」
アツコ「TOTOとミック・ジャガー」
――ミック・ジャガーが評判よいねェ。
キョン「私もミックはよかったな。それとピンク・フロイド」
トモコ「ミックも、ピンク・フロイドもよかったけど、イエスも感動した」
――ミック・ジャガーのどこがそんなによかったの？
カオリ「存在感。私はボーカリストとして見てたから、あの人の存在感の大きさには感動したよ」
トモコ「好きってわけじゃなかったけど、あの存在感には感激したよね。すべてを自分の芸術にしちゃってるもん」
――ストーンズはお好きですか。
カオリ「うちで特にストーンズが好きなのはカナちゃんだけ。でも、コンサート行って思ったけど、ストーンズの曲は聞いてなくても知ってるもんだね」
トモコ「ライブの原点を見てるような気がしたなあ」
カオリ「昔のビデオを見たことあったけど、その印象と同じだった。ビデオと実物のギャップがなかった」
アツコ「ちょっとしたなんでもない仕草がすごくカッコいいんだよね」
カナコ「エンディングがよかったよ」
アツコ「ツトム・ヤマシタが出てきて鐘みたいなの鳴らすんだよねェ」
カオリ「ポカーンと口を開けちゃうような終わり方でしょ。あれであのコンサートは3倍くらい印象深くなってると思わない？」
カナコ「でも、うちがアレをやったら、バカにされるよなあ(笑)」
トモコ「あッ、あの終わり方でしょ」
<完全に1拍遅れのコンノ>
カナコ「私はストーンズのメンバーがいるってことだけで感動したね。ほかのメンバーには目がいかなかったもん。」
――ミックの前では子供同然？
カナコ「単なるハッパだったね」
キョン「もっとワガママな人かと思ってたの。オレがルールだ／　みたいな……でも、ドラムの人に結構気をつかったりしてんだよねェ」
カオリ「私さあ、客にも驚いちゃった。36〜37歳の背広のオッチャンがあそこまで熱狂するの見て、感動的だったと思わない？」
カナコ「何十年も、待ってたぜ／って ノリが伝わってきたよね」
キョン「飛び跳ねてるオジサンいたよ」
カナコ「本当に人を狂わす何かがあったよ。私なんて手拍子のしすぎで手がつっちゃったけど、ここで死んでもいいと思った。その気持ち、高校時代はあったけど……久々だったなあ。ホレタッね／」
キョン「出たあ〜／」
カオリ「カナちゃん、すぐ惚れるからなあ(笑)」
――じゃあ、ミック・ジャガー以外でよかったのは？
キョン「ピンク・フロイドはすっげえビックリした。もし私がバンドやってなくて、OLとして観たら、きっとものすごく悔しかっただろうなって思ったのね。バンドやってて、音を鳴らす仕事してて、よかったあ」
カオリ「中山さんは寝に行ったんでしょ(笑)」
カナコ「スミマセ〜ン。中山、ポケット瓶1本飲んで眠ってました」
トモコ「私、座ってられない／って感じだったよ。立ち上がって、ブラボー／って叫びたいぐらい」
カナコ「ワタシャ、ジョーン・ジェットがよかった。今年じゃないけどね。アレはただのファン心理で行ったから。渋公だったんだけど、ガラガラでさあ、ダフ屋さんも出ないのよ。だけど、本当に好きな人しか、ここにいないっていう一体感はあった」
――コンサート行くときは、単なる一人のファンになれる？
カナコ「本当に好きじゃないとなれない」
カオリ「それッ賛成／」
カナコ「本気じゃないと、つい研究しちゃうよね。でも、本当に好きなら、ただのファンになってる。その気持ちを忘れたくなくて、これからはそれほどでもないのには行くのヤメようと思ってる。そうしないと、どんどん感激がスレてっちゃうから。それはハートを観てから気がついた」
キョン「アンときは何も見えてなかったもんね。ドラムの私がドラムのドの字も見えてないんだから」
カナコ「あれ、最低だよな」
<一同、うなずく>
カオリ「ビデオのほうが1000倍面白いよ。で、最後にツェッペリンの曲やったじゃない。アレがやたらカッコよくてさ、ダサイとか思っちゃった。アレだけのバンドが自分たちの曲より、他の人の曲やったほうがカッコいいなんて、なんてカッコ悪いんだろうって思った」
――それはツライもんがあるなあ。
カオリ「ただ、アンはデブなだけに声はすっげえ出てたよ」
アツコ「パンフだと顔だけしか写ってないから、デブとは気づかない／」
カオリ「外人特有の太り方だよね。でも、あのカラダに声を共鳴させてるわけじゃない。だから、デブは必ずしも悪くないと、私は勇気づけられたのでした(笑)」
カナコ「でも、金返せ／　の世界だったよなッ」
カオリ「そうだ／　5000円返せ／」
キョン「私は眠っちゃった。ネタネタ」
カオリ「私、TOTOも前半はウトウトしてたなあ。後半は楽しかったけど。ただ、私も含めて、ファン全員が昔の曲で盛り上がってたね」
カナコ「だから、私たちも「恋はバランス」をいつまでもやらなきゃ(笑)」
カオリ「シェー」
アツコ「私、昔はTOTOをコピーしてたじゃない。だから……」
カオリ「おいおい、富田君、キミもコピーしてたんだろッ」
キョン「チョロッとなッ」
<ヒトの話をムシして私語に走るオクイとトミタ>
アツコ「だから、実際に目の前でコピーしてた曲をやってくれると、それなりに感動するもんだよ。テクニックはピカイチだし」
カオリ「余裕のヨッチャンだったじゃない」
アツコ「イエスのテクニックもすごい」
カオリ「でも、途中で飽きなかった？」
アツコ「飽きた(笑)」
トモコ「私、あのベースの人が好きだったから、歳とってもカッコイイ／　とか思ってたから、会いたいって思ってたから、飽きなかったよ」
カオリ「会いたい？　ヘンなヤツ(笑)」

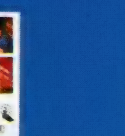
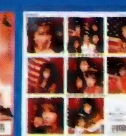
DISCOGRAPHY

●Album

Kissで犯罪
Ⓐ Kissで犯罪／少女・アマゾネス／AB/AC
Ⓑ TOKYO彼女／やさしい殺意／くちづけは、お早目に
CS●20AH-2046　'86年5月21日

TELEPORTATION
Ⓐ ガールズ・ナイト／恋はバランス／言わないで／ソーロング・ドリーマー／思い出の隙間
Ⓑ ユー・アー・マイ・スターシップ／海にひとしずく／ヒプノタイズド／モーション・エモーション／ヴァイブレーション
CS●28AH-2182　'87年5月21日

HERE WE ARE
Ⓐ 19 GROWING UP／WONDER CASTLE／MY WILL／FLAME／KEEP ON LOVIN' YOU
Ⓑ GO AWAY BOY／SHE／ROMANCIN' BLUE／冗談じゃない／恋のペンディング
CS●28AH-5004　'88年2月26日

●Single

恋はバランス／ソーロング、ドリーマー
('87年4月)

世界でいちばん熱い夏／ヴァイブレーション
('87年7月)

MY WILL／KEEP ON LOVING YOU
('87年11月)

19 GROWING UP／WONDER CASTLE
('88年2月)

GO AWAY BOY／恋のペンディング
('88年5月)

PATi-PATi

●表紙・巻頭特集26ページ
ザ・チェッカーズ
●ジャンボ・ポスター
ザ・チェッカーズ/藤井郁弥
●PIN UP
米米クラブ
●6大特集
米米クラブ/氷室京介
TM NETWORK/松岡英明
バービーボーイズ/UNICORN

UP-BEAT/吉川晃司/レッド・ウォーリアーズ/BUCK-TICK/ハウンド・ドッグ/ザ・ストリートスライダーズ/C-C-B/大江千里/爆風スランプ/ザ・東南西北/岡村靖幸/関口誠人/LOOK/プリンセス・プリンセス etc.

▶A4WIDE ▶248PAGE
▶580YEN
パチ▸パチ8月号
7月9日発売

MUSIC MAGAZINE for BAD BOYS & GIRLS パチ・パチ・ロックンロール

ROCK 'N' ROLL MONTHLY

●表紙・巻頭特集30ページ
＋ピンナップ
THE STREET SLIDERS特集

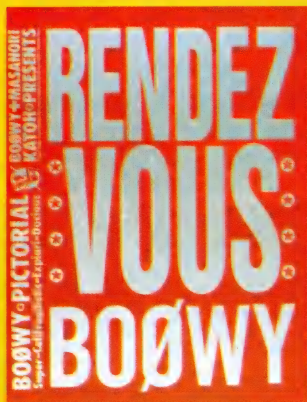
●特集
レッド・ウォーリアーズ
BUCK-TICK
RCサクセション
UP-BEAT/BLUE HEARTS
●スペシャル連載開始!!
氷室京介

バービーボーイズ/ラフィンノーズ
UNICORN/KENZI & THE TRIPS
SHADY DOLLS/THE MODS
山下久美子/ZIGGY/レピッシュ
PERSONZ/エレファントカシマシetc.

▶B4WIDE ▶184PAGE
▶580YEN
パチ▸パチロックンロール8月号
NOW ON SALE

▼パチ▼パチ・ロックンロール9月号は『氷室京介大特集号』で、7月27日発売!!

BOØWY

RENDEZ VOUS BOØWY BOØWY PICTORIAL MASAHORI KATOH PRESENTS

RENDEZ-VOUS（ランデブー）
BOØWY写真集

●日本のロック・シーン、ビジュアルに革命を起こした、BOØWY。そしてカメラマン加藤正憲。この融合による作品たちは、PATi▸PATi、ROCK'N'ROLL、レコード・ジャケット、ポスター、パンフレットに次々と発表され、圧倒的な評価を得ました。パチ▸パチは、この作品たちの集大成を企画。BOØWYのメンバーより「見たことがないほどハイ・エナジーな写真集を」という指示のもとに制作。未公開写真＆写真集のための撮りおろしフォト、プライベイト・フォト満載のフル・ボリュームで展開する、究極、唯一の写真集です。

大増刷出来
▶A3変型 ▶180PAGE(オールカラー)
▶2,800YEN
▶ハードカバー上製本 ▶美麗箱入り
NOW ON SALE
ポスター2枚つき!!

吉川晃司
単行本発売決定!!

0 ZERO 1988 K2

吉川晃司22歳、デビュー以来、彼の行動や存在そのものが、ひとつの"刺激"という社会秩序を作りだしてきた。存在自体が、多くを語り、多くを与えてきた。そんな彼が、5月6日、日の武道館で、ひとつの終止符を打った。それが彼の行く手に何を生みだすのだろう。4年間、吉川晃司と共に歩んできたパチ▸パチは、現在の彼を1冊の本という形にしたいと思う。パチ▸パチにて好評連載中の「K2」をはじめ、撮り続けてきた彼の1つ1つをここに再現。新たなる撮りおろし、書きおろし含め、現在製作進行中。

予約受付中!!
7月15日発売
▶ハードカバーA5判
▶240ページ
▶定価-1500YEN

CBS・ソニー出版 〒102 東京都千代田区五番町6-2 TEL 03(234)5801

THE ALFEE

LOVE SONGS in TIME SPIRIT

ラブソングでメッセージしていくということ

●ツアー "TIME SPIRIT" も、もうすぐその前半戦が終わろうとしている。初日のステージで、「ラブソングでメッセージしていくことを考えている」と高見沢の言葉を聞いた。コンサートの内容は、その言葉に深くうなずけるものであったし、そのイメージをふくらませてくれる新曲にも出会えた。だから、話を聞いてみたいと思った。今年のアルフィーが伝えていきたいと考えている"ラブソングでメッセージしていくこと" について

PHOTO●GORO IWAOKA　COPY●AKEMI KOMATSU

THE ALFEE

LOVE SONGS in TIME SPIRIT

4月に九州からスタートしたツアー〝TIME SPIRIT〟の中で、高見沢がたびたび口にする言葉がある。

「今、ラブソングでメッセージしていくことを考えている」──というのが、それだ。

また、同じくたびたび言われる言葉に、「愛は人間の最後の切り札だ」というのがある。

※

'85年、アルフィーは男女の愛を歌ったラブソングを聞かせてくれた。個人的な、男としての女に対するラブソングを主として展開し、2作のアルバム『FOR YOUR LOVE』と『THE BEST SONGS』を発表している。後者のアルバムにおさめられている「至上の愛」に代表される'85年のアルフィーは、非常にロマンチックであったという気がしている。

'86年、アルフィーは、それぞれの内側を見つめる歌を歌っていた。自らを励ましているような「SWEAT & TEARS」のようなシングルもあった。そして何よりアルバム『AGES』は、俗にいうところの〝メッセージソング〟のイメージそのものであり、世の中や時代に対する警告もふくまれていたように思う。とにかく、非常にストレートで硬質な印象だったのが、'86年であった、と思うのだ。

'87年、アルフィーは、アルバム『U.K. Breakfast』を発表し、思いっきりポップなところを見せてくれた。

そして今、'88年の前半のツアーが、あと数本で終了しようとしている。今回のツアーを見たヒトは高見沢がいうところの〝ラブソング〟の深さが伝わっただろうか。近未来的なイメージのステージ・セット、異次元の惑星に降り立ったかのような5人の男たちは、どこか戦士のようなイメージだ。アニメーション映画『宇宙戦艦ヤマト』とも、そのイメージは重なる。

〝TIME SPIRIT〟のコンサートで、いくつか新曲が歌われている。「CATCH YOUR EARTH」と、「LOVING YOU」は、どちらもスケールの大きいラブソングだ。

[小さいころから星は好きだったよ]

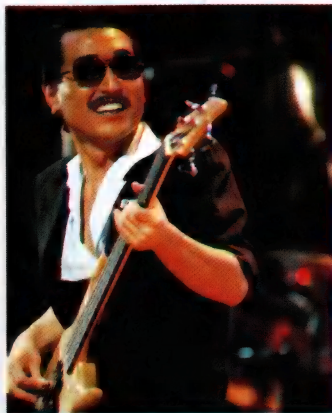
「CATCH YOUR EARTH」は某TV番組のタイトル曲として昨年の秋からオンエアはされていた。また昨秋のツアーでも聞くことは出来たがリリースされたのは、つい先日の5月で、CDとカセットのみで発表されたベスト企画アルバム『BEST SELECTION II』の中に収められた。

曲の背景をききたくて、高見沢に声をかけた。

「あのTVの番組が始まったのが去年の10月、だから、作ったのはそのちょっと前…。夏のイベントが──〝SUNSET─SUNRISE〟が終わったちょっと後だよね、きっと。……世紀末でしょ、今。世の中がさ、すべてデカダンス傾

向にあるじゃない？　退廃的、っていうかさ。
それで、なんか……。昔っからこれは思ってるんだけどね。日本人とかアメリカ人とか、黒人とか白人とか、そういう感覚じゃなくてさ、地球人という立場でね、自分たちの星をね、見つめ直してもいいんじゃないかな、と思ってたの、ずっと。だから、ホラ、なんかフロンガスを使いすぎて成層圏が壊れたとか、そのために宇宙船が直接、当たってきちゃうとかさ、そういった出来事が起きてたりするわけじゃない？　もちろん核のこともあるし、科学というものは人間を囲む諸々のことを便利にするために発達してきたものだけど、逆にそれが環境破壊になっていくってことはさ……、人類を守るためにやってきたことが結果的にこの星を壊すようなことになってきちゃうという、逆説的なことになっちゃってるじゃない？　もちろん、それには国と国のイデオロギーの違いとか、資本主義か共産主義かの違いとかさ、肌の色の違いとか、諸々のことがいっぱい関係してくると思うんだけれど、そういうものを、それぞれがそれぞれの観点でだけ考えていくと、すごく狭くなっていくっていうかね。だから、オレは、地球人的な感覚って、持っていたいなと思うし、そういう歌も作っていきたいな、という気がしてるんだよ。だから常に、人間の最後の武器は〝愛〟しかないって、ずーっと言ってきたけどね。改めて今もう一度、ステージで言ってるっていうのは、そういう……何ていうんだろう、いろんなものに対する愛をさ、改めて今、自分なりに感じてる、ってことなんだ。

子供ンときからそうだったんだよ。星が好きでさ。ギリシャ神話とか好きで、星を見ててずっと飽きなくてね、縁側でそのまま寝ちゃったこともあるしさ。まだ星がよく見えたからね、そのころ。ただ、オレンちのほうも、近くに鋳物工場とかがあったからさ。工場の多い街だったから、結構、公害もあったらしくてね。だんだん星が見えなくなっていったんだ。なんで見えなくなるんだろうと思ったら、そういう煙突のけむりだったとかさ。今まで見えてたもんが見えなくなっていくって、やっぱり子供ながらも思うことあるじゃん。

光化学スモッグなんかも、オレたち、体験した最初の世代だと思うんだ。たぶんね。光化学スモッグ注意報とかが出たりしてさ、なんか目が痛いなとかさ、運動場での体育は中止とかさ、中学ンときね。でも今、光化学スモッグって言葉もあんまり聞かなくなったもんなぁ。もう、そういう次元じゃなくなってるのかもしれないよね。人間がもうそれに慣れちゃってるっていうか…。天気いいのに、サッカーやりたいのに、光化学スモッグで外に出られなくてさ、「なんか、こわいもんだな」と思ったよね。そういうのって、結局、人間の科学がタレ流したヤツじゃない？　それで、天気がいいのに外に出られないというのはさ、そんな理不尽なことはないと思ってたよ。そういう、自分たちの地球なのにっていう、自分たちの星だからこそっていうような気持ちは子供ンときからあったよね。だから、アルフィーって、星の歌が多いでしょ？　地球は危機だと思うよ。だけど危機だ危機だと思ってるとさ、ほんとに危機になっちゃうから。

マイナスの方向にばっかり目をむけてるとさ、ほんとうにそうなっちゃうじゃない？　だけどオレは人間の愛を信じてるから。愛は人間を救うことができると信じてるから。だから訴えたいし、こう思ってると歌っていきたい」

そんな大げさなことじゃないんだ。言葉にすると彼の言ってることは、すごく大げさでエラソーにきこえるかもしれない。だけど彼の言ってる愛は、とても身近で、とても些細なことだったりする。けれど、とても深い。そして、とても優しい愛であるのだ。

もうひとつのラブソング、「LOVING YOU」。コンサートの後半に登場する、キーボードの壮大なイントロで始まる佳曲がこれだ。

THE ALFEE
LOVE SONGS in TIME SPIRIT

ひところ高見沢はこの曲の前に〝地球最後のラブソング〟とコメントしていた。そんなに深い意味はないんだと彼は言ったけれど、あのコメントの意味はおそらく、こうだ。最後、というのは終わりという意味ではない。最大級の、これ以上は今のところ言えないほどの愛を込めた、ラブソング――そういう意味あいでの〝最後〟なのだと、あの曲を聞いて思う。重傷を負っている、この星にむけて、高見沢が最愛の想いを込めて、密そやかに捧げる唄、それが「LOVING YOU」なのだと思っている。

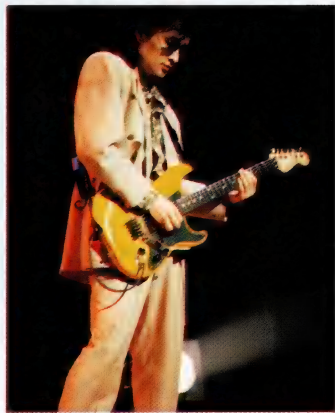
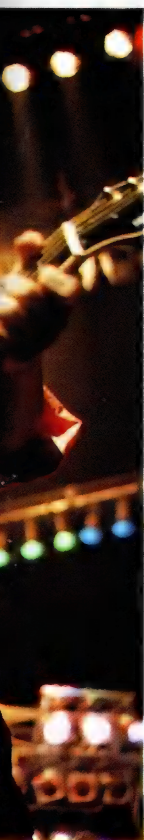
高見沢自身の中では、いつごろの歌はこうで、それはいつから考えていて、今年はこの方向で、というような意図的な節目や理由なんかない。思ったことを、感じたことを、歌ってきただけだ。それが結果、こうなった。

「『FOR YOUR LOVE』の前もさ、「星空のディスタンス」だとか「スターシップ」とかさ、ファンタジーな曲をいっぱい作ってきて、それが地上に降りてきたかんじ、というのかな。。地に足のついたラブソングが「恋人たちのペイヴメント」以降の、'85年いっぱいのかんじだよね。地球人としての、個人的な愛っていうか、〝FOR YOUR LOVE〟っていうぐらいだから、自分の心の中に蓄積されていたものを歌にしたっていう感覚だったんじゃないかな。だから、今、感じたり、歌ったりしてるものとは少し違うのかもしれないよね」

［　ハードなものをやりたいんだ　］

ツアーの中で、ラブソングがひとつの大きなテーマであるのと同時に、彼の頭の中には並行していろいろな構想がある。それは秋に向けて、そしてアルバムに向けて……。

「ハードなものをやりたいんだ」

どうも、そのカギはもうすぐ、7月27日にリリースされるニュー・シングルが握っているようだ。曲のテーマは〝19歳〟なのだそうだ。「次のシングルは、メッセージしててさ。19歳がテーマなんだ。19歳ってのはカラダも心もほとんどオトナで、でも社会的にはまだオトナとしては認められなくてさ。中途半端な部分もあって、揺れている世代だと思うんだよね。男にとってホントの成人は30歳だとオレはよく言ってる

けどさ、20代をどう生きたのかによって30代が決まるようにね。ただ20代って、オトナのチケットは手に入れたけど、まだまだワケわかんないことってあるわけで、つまるところ、19歳をどう生きたかが結構ポイントになるんじゃないかなって気がするんだよ。高校出たあとの1年じゃない？　それで20才になるわけだから。それまでは社会的には、結構、子供扱いされてさ、そのあとの1年で、仕事につく人はいきなり社会にでるわけだし、大学やそのほかの学校行くヤツも、同じ学生とはいえ高校生までの学生扱いとは違う空気を吸うことになるわけじゃない？　自分で判断すべきこともいきなり増えたりしてさ。19歳という、たった1年間で20歳になんなきゃいけないわけでさ。

簡単に言えばさ、オレにとって、18や19歳のときのオトナたちのアドバイスっていうのはさ、あきらめることだったりしたわけ。この殺伐とした世の中で生き残るためには、夢のようなことを言わない、つまり夢をあきらめることが生き残る手段だと言われたことがあった。19歳って、自分のことでいうと、大学1年でさ、オレがアルフィーをやり出したときで……。19歳のころおもしろかったし、まぁ今とそんなに変わってないんだけどさ。

結構、昔書いてたものがたくさんあってさ、詩とも日記とも違うんだけど。たぶん、書こうと思って書いたもんでもないんだけどさ、結構しっかりしたもん書いててさ、これが。とってあったんだよね。それをたまたま見つけてさ。ま、日記みたいなもんなのかな、断片的なね。レジスタンスなわけ、書いてある中味は。それがモチーフだというかさ。「ラジカル・ティーンエイジャー」や「SWEAT＆TEARS」的なメッセージ・ソングじゃなくてさ、違う角度から見たメッセージ・ソングっていうのをね、作ってみたいと思ったからね」

この話を聞いている段階で、このニュー・シングルは「だいたい出来た」という状態だった。アコースティック・ギターをジャリンジャリンに入れたROCKをやってみたいと、高見沢は話してくれた。ブッちぎりのギター・サウンドとでも言えばいいのだろうか。

どうやらしかし、彼が先に語っていた〝ハード〟という言葉にも、詞の部分、サウンドの部分ふくめて、深い意味がありそうだ。最近出来た曲の中にはブルージィな感じの曲も多いとか。

「ブルースっぽいものも、すごく今、興味を持っててさ、スタッフと、遊びでだけどブルースバンドなんか作ったりして〝クリーム〟なんかやってンだぜ。「クロスロード」練習してンの、へへへ…」

そういえば彼は、コンサートが終わったあとの楽屋で、ボトルネックを手にしていた。最近、デュアン・オールマンもよく聞く、とスライド・ギターを弾きながら、話していた。

彼がいうところの〝ハードなもの〟を聞くのが楽しみだ。

［　アレンジって、マジックだよね　］

精神性の部分で〝ハード〟というと、やはりアルバム『AGES』があげられると思う。アコースティックであり、なお、硬質なイメージなのは、『BEST SELECTION II』の中で聞ける「Rockdom」がそれだという気がする。この曲もシングルでリリースされたバージョンと、

★7月27日にリリースされるシングル「19(nineteen)」のジャケット撮影現場でのスナップ。(6月2日、広島にて)

Snapshot by A.KOMATSU

『BEST〜』に収められたバージョンとでは、雰囲気がちがう。それがアレンジのマジックだと彼は言う。

もう一度、TIME SPIRITの中でのラブソングに、話をもどそう。今回のように、曲のテーマが大きくて深いものの場合、そのスケール感を出すという部分で、アレンジが楽曲完成の重要なカギを握っていたりする。

「やっぱりすべてアレンジにかかってるからね、曲を生かすも殺すもね。『BEST SELECTION II』を聞いてもらえばわかると思うけど、昔の曲も、あれだけ服を着がえれば、あんなふうに変わってしまうっていう……アレンジって、マジックだよね。だから、すごく、アレンジっておもしろいよね」

THE ALFEE

LOVE SONGS in TIME SPIRIT

高見沢のアレンジメントの基盤になる音楽は、どうも'70年代のROCKのようだ。やはり、好きでずーっと聞いてきた音楽は、頭に、ではなく、カラダに、入っているらしい。

「オレの場合さ、ブリティッシュ・ハードロックやプログレッシブなヤツが本来好きだからね。イエスとか、クイーンとか、大好きだったから。すぐにでもフレーズは出てくるし、すぐにでも弾けるわけ。ツェッペリンでもユーライア・ヒープでも、ハンブル・パイでも、フリーでもさ。バッド・カンパニーは……ちょっと泥くさいか。そういうのばっかり聞いてきたからさ、で、その反動もあって、最近はデュアン・オールマンも好きだよ。クラプトンはギターやってるヤツはみんな好きだろうしさ。でも、バンドのイメージでいうと、やっぱりツェッペリンかクイーンか、イエスとかさ。ンでね……」

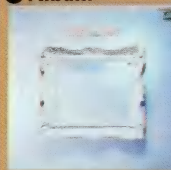
※

'70年代のバンドの話をすると、彼の話はとどまるところをしらない。どうして、そんなにうれしそうな目をするの？　アルフィーをはじめたころも同じように聞きくるっていた、'70年代のロック・アーティストの数々。あの時代を彷彿とさせる新人バンド、キングダム・カムに今、夢中だとも彼は言った。彼らはツェッペリンのそっくりサンとも、ロバート・プラントの再来とも言われている5人編成のアメリカのハードロック・バンドだ。「あそこまで徹底してツェッペリンされちゃ、もうマイったと言うしかない」と、快く、朝から、聞いているそうだ。

19歳のころ、高見沢は、どんな朝をむかえていたのだろうか。取材から10日後、ニュー・シングルが完成したと知らされた。7月27日リリースのそれは「19(nineteen)」と、タイトルがつけられていた。

Anytime winner, Sometime looser.
But I believe in you.
Anytime loving, Everytime looking.
You make my dreams come true.
We just live on the planet.
Catch your earth, Blue star.

DISCOGRAPHY

●Album

TIME AND TIDE
Ⓐ雨／街の灯／四季つれづれ／星降る夜に／ゲーム・オーバー／さよならはさりげなく／Ⓑ夜汽車／街角のヒーロー／ラブレター／メモアール／セイリング／過ぎ去りし日々
PC● LP-C25A0053 （'79年8月21日）

讃集詩
Ⓐやすらぎをもとめて／Something Blue／帰郷／逆もどり浮気考／明日なき暴走の果てに／坂道
Ⓑ落日の風／ロンサム・シティ／無言劇／追想／Musician
PC● LP-C25A0093 （'80年5月21日）

ALMIGHTY ALFEE
ⒶMEET THE ALFEE／ロンリー・ガールを抱きしめて／気分はロックン・ロール／回想／SAVED BY THE LOVE SONG
ⒷCATCH THE WIND／FEELING LOVE／さすらい酒／水曜の朝午前3時／踊り子のように／挽歌／MIDNIGHT BOXER
PC● LP-C28A01807 （'81年10月21日）

doubt,
ⒶSee You Again／ダウト！／悲しみをぶっとばせ／うつろな瞳／泣かないでMY LOVE／ロックンロール・ファイティングマン
Ⓑ夕なぎ／稚くて愛を知らず／Sunset Summer／OッDORANAI!!／SINCE1982／お・や・す・み
PC● LP-C28A0212 （'82年4月21日）

ALFEE
Ⓐ夢よ急げ／ロックンロール・ナイトショー／別れの律動（リズム）／ANGEL／A.D.1999
Ⓑ愛は想い出の中に／君にしびれて／君はパラダイス／真夜中のロマンス／不思議な関係／OVER DRIVE
PC● LP-C28A0257 （'83年1月5日）

ALFEE'S LAW
Ⓐジェネレーション・ダイナマイト／Mr.Romance／仮面舞踏会／幻想飛行／メリーアン
Ⓑ誓いの明日／Crazy Boy&Crazy Girl／白い夏バレンシア／トラベリング・バンド／TIME & TIDE
PC● LP-C28A0290 （'83年9月5日）

PAGE ONE
ⒶREFRAIN／恋人になりたい／ロンリーガールを抱きしめて／雨／SEE YOU AGAIN／祈り／ラジカル・ティーンエイジャー
Ⓑジェネレーション・ダイナマイト／ロンサム・シティ／無言劇／メリーアン／誓いの明日／夢よ急げ
PC● LP-C28A0309 （'83年12月5日）

THE RENAISSANCE
Ⓐ孤独の美学／愛の鼓動／真夜中を突っ走れ！／二人のSEASON／星空のディスタンス
ⒷGATE OF HEAVEN／鋼鉄の巨人／NOBODY KNOWS ME／STARSHIP ～光を求めて～／永遠の詩
PC● LP-C28A0346 （'84年7月5日）

FOR YOUR LOVE
ⒶAFFECTION／真夏のストレンジャー／あなたがそばにいれば／SWEET HARD DREAMER
Ⓑ裏切りへの前奏曲（プレリュード）／SLOW DANCER／あなたの歌が聞こえる／恋の炎／確かにFor Your Love
PC● LP-C28A0413 （'85年6月19日）

THE BEST SONGS
Ⓐ心の鍵／恋人達のペイヴメント／マンハッタン・レイン／霧のソフィア／孤独のHERO
Ⓑ至上の愛／シンデレラは眠れない／北のHOTEL／悲しき墓標／A LAST SONG
PC● LP-C28A0458 （'85年12月5日）

AGES
Ⓐ不良少年／夜明けのLANDING BAHN／AMERICAN DREAM／SWINGING GENERATION ⒷWIND OF TIME／BRIDGED TO THE SUN／THE AGES／夢の終わりに ⒸSWEAT & TEARS（Re-mix） ⒹRockdom～風に吹かれて～
PC● LP-C35A0526 （'86年11月5日）

ONE NIGHT DREAMS1983～1987
OVER DRIVE／夢よ急げ／メリーアン／AFFECTION／恋人達のペイヴメント／シンデレラは眠れない／AMERICAN DREAM／星空のディスタンス／SWEAT & TEARS／SAVED BY THE LOVE SONG／明日なき暴走の果てに／ロンサム・シティ 他ライブ全28曲。
PC● LP-C70A0593 （'87年9月21日）

U.K.Breakfast
ⒶFar Away／Girl／Stand up, Baby――愛こそすべて――／黄昏に瞳を閉じて／聖夜―二人のSilent Night―
Ⓑ1月の雨を忘れない／クリスティーナ／My Truth／終わりなきメッセージ／It's Alright（CDのみ）
PC● LP-C28A0611 （'87年12月9日）

●Special CD

『BEST SELECTION』（'84年12月5日発売） PC● CD-D33A0049

『BEST SELECTIONⅡ』（'88年5月21日発売） PC●CD-D32P6218

●Video

『OVER DRIVE 1983ALFEE8.24. BUDOKAN』（'83年10月21日） VHS-VHM1116 Beta-XBM1116 LD-G78M0010

『FLYING AWAY ALFEE IN YOKOHAMA STADIUM 1984.8.3. FRI』（'84年9月21日） VHS-V128M1092 Beta-X128M1092 LD-G78M0026

『ALFEE 3DAYS 1985.8.27/28/29 YOKOHAMA STADIUM』（'85年10月15日） VHS-V128M1269 Beta-X128M1269 LD-G78M0074

『ALFEE HISTORY 1982～1985』（'85年12月15日） VHS-V98M1303 Beta-X98M1303

『THE ALFEE 1986.8.3 TOKYO BAY-AREA』（'86年10月5日） VHS-V128M1425 Beta-X128M1425 LD-G88M0136

『1986.12.24 Christmas Special ALL NIGHT THE ALFEE』（'87年5月21日） VHS-V49M1486 Beta-X49M1486

『THE ALFEE SUNSET-SUNRISE1987.AUG.8-9』（'87年9月30日） VHS--V128M1526 Beta-X128M1526

『THE ALFEE MEIGAKU LIVE』（'88年6月21日） VHS-V49M1667 Beta-X49M1667

●Single

ラブレター c/w 過ぎ去りし日々 （'79年1月）

踊り子のように c/w さよならはさりげなく （'79年4月）

星降る夜に… c/w 街角のヒーロー （'79年7月）

冬将軍 c/w さよならの鐘 （'79年10月）

無言劇 c/w 明日なき暴走の果てに （'80年3月）

美しいシーズン c/w Feeling Love （'80年6月）

恋人になりたい c/w CHECK OUT （'80年11月）

宛先のない手紙 c/w 北のHOTEL （'81年5月）

通り雨 c/w 言葉にしたくない天気（'81年10月）

泣かないでMY LOVE c/w モーニング・コールでラスト・キッス（'82年3月）

Sunset Summer c/w 絶狂／ジャンピング・グルーピー（'82年6月）

別れの律動（リズム） c/w 挽歌 （'82年11月）

暁のパラダイス・ロード c/w 祈り （'83年3月）

メリーアン c/w ラジカル・ティーンエイジャー（'83年6月）

星空のディスタンス c/w DOWNTOWN STREET （'84年1月）

STARSHIP ～光を求めて～ c/w 愛の鼓動 （'84年5月）

恋人達のペイヴメント c/w ロールオーバー・イエスタデイ（'84年10月）

シンデレラは眠れない c/w A LAST SONG （'85年2月）

霧のソフィア c/w BLUE AGE REVOLUTION （'85年10月）

風曜日、君をつれて c/w 世にも悲しい男の物語 （'86年3月）

SWEAT & TEARS c/w 風よ教えて （'86年7月）

ROCKDOM ～風に吹かれて～ c/w DAYS GONE BY（'86年9月）

サファイアの瞳 c/w 木枯しに抱かれて （'87年3月）

君が通り過ぎたあとに～Don't Pass Me By～ c/w FOR THE BRAND-NEW DREAM （'87年3月）

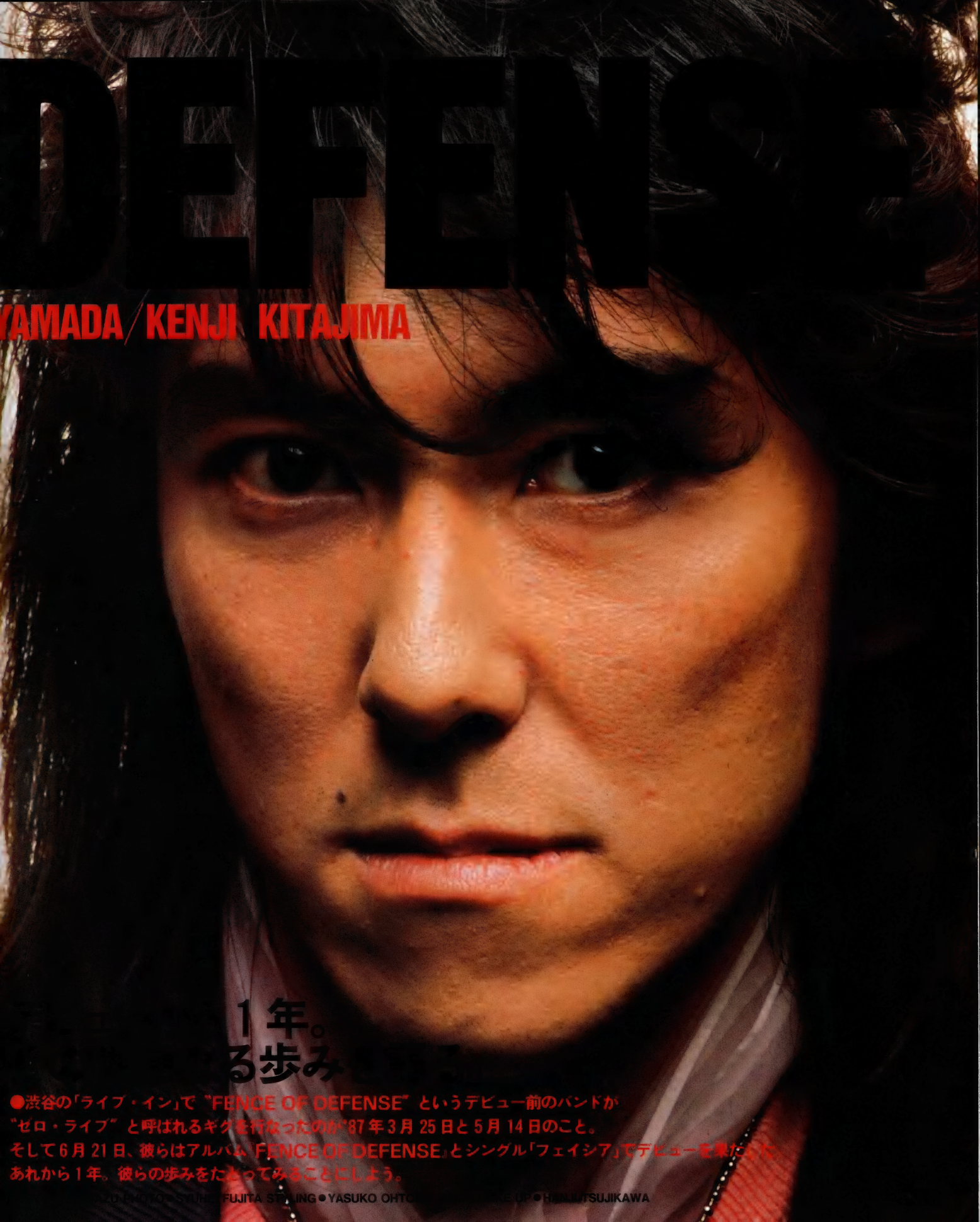
白夜―byaku-ya― c/w LONG WAY TO FREEDOM（'87年7月）

My Truth c/w It's Alright （'87年10月）

1月の雨を忘れない／Girl （'88年1月）

WEEKEND SHUFFLE ―華やかな週末― c/w 見つめていたい（'88年3月）

NOW PRINTING

19(nineteen) c/w アウトロー・ブルース （'88年7月）

●渋谷の「ライブ・イン」で"FENCE OF DEFENSE"というデビュー前のバンドが"ゼロ・ライブ"と呼ばれるギグを行なったのが'87年3月25日と5月14日のこと。そして6月21日、彼らはアルバム『FENCE OF DEFENSE』とシングル「フェイシア」でデビューを果たした。あれから1年。彼らの歩みをたどってみることにしよう。

FUJITA STYLING●YASUKO OHTO　　●HANJI TSUJIKAWA

FENCE OF DEFENSE ANNIVERSARY

はじめて3人で演ったのは「STRANGE BLUE」かな。

F.O.D.のファースト・アルバム「FENCE OF DEFENSE」がリリースされたのは、'87年6月21日。ということは今、そのレコード・デビューからちょうど1年が経過したことになる。ふつうなら、ここで、「早いもので彼らもデビューから1年…」とかいう常套句が使われそうなもの。でも、この3人に対しては"まだ1年"といった言い方、してみたい。彼らがこの1年間に成してきたこと、そしてこれからやろうとしてることを考えると、そのほうがぴったりくるからだ。

バンド結成の何年も前からバリバリのプロであり

——それだけに、すでに自分のスタイルを持ち合わせていたであろう各メンバーが、手さぐり状態で始めたF.O.D.にもかかわらず、この365日の間に2枚のアルバムと何10回かのステージを消化した後、自分たちの形を発見、その第1ラウンド終了まで宣言してしまったのだから。そんなバンドのNOW&THEN。山田ワタルと西村麻聡の2人に、話してもらった。

＊

——F.O.D.の音楽って、どんな形で出来はじめたの？

西村「一番最初は、とりあえずボクがいろんなタイプの曲を作ってきて、それを3人で実際に演りつつ考えてったんだよネ」

——何を基準にしてセレクトしてったわけ？

西村「ほとんど好きキライ、だったみたい。「健ちゃん(北島健二)、これどう思う？」「ボク、好きじゃない」——それてその曲はボツ、みたいな(笑)。皆んなの視聴率のよかったものだけやった」

山田「けっこう西村がカンペキなデモ・テープ作ってきちゃっててネ。すでにビッチリいろんな音がつまってて、ギターもドラムも入れる余地のない曲、多かった(笑)。だから、2人が入りやすいのから演ってみて」

西村「本当に3人で演ったのは、「STRANGE BLUE」からじゃないかな？　アレのリフから入ってったら「アッ、カンジいいネ」ってなって」

山田「その時、ボクがたまたまロバート・パーマーのテープ持ってたのネ。で、こういうドラムをたたきたいと思って演り始めたら気合いが入ってきて」

——当時、リハーサルはマメにやってたの？

山田「いわゆるアマチュア・バンドと同じ(笑)。あの頃いちばん燃えてたなーと思ったのは、ファースト・アルバムのためのデモ・テープ作りだったネ。小さなカセット・レコーダーを使って、多重録音して」

西村「ボクがソレ担当のミキサーになって「ハイ、録音スタート」って(笑)。録音し終わったら、それを家にもって帰ってシンセ録り直して、歌入れて…。とにかく、すごく疲れた。笑えるくらい(笑)」

——そのデモ・テープではどんな曲を？

山田「全部で5曲。「STRANGE BLUE」「EMORTIONAL WAY」「PLASTIC AGE」「BURN」、あとバラードが1曲あったんだけど、それはどっか行っちゃた(笑)」

——ファースト・シングルの「FAITHIA」(アルバムと同時発売)とかは？

山田「これが一番見えてない状態で出てきたんだよネ。スタジオの中でボクと北島がちょこちょこっとやって、あとは西村が「大丈夫だから」って」

——頼もしい(笑)

西村「なんとかするって言ってネ」

山田「けっこう、そういう曲がシングルになったりする。一番手じゃない曲がのし上がってきて」

「アッ、カンジいいネ」って。

——この時点で、お互いのことは見えてきた？
西村「ボクはワタルとは仕事してたから、だいたいのことはわかってたつもり」
——健ちゃんのことは？
西村「ハプニングを期待したい奴だったんだけど、1枚目のレコーディングの時はその通りで、こっちが心配になってくるぐらい(笑)」
——ところで、今ふりかえってみると、ファーストっていうのはどんなアルバムだったと思う？
山田「勢いを感じるアルバム、かな？」
——何かを始めたときの勢い？
山田「レコーディングとかも含めた全部のネ。それと、ボクにとって「STRANGE…」や「EMORTIONAL…」は、パッと聞いた時に過去がよみがえる曲もある」
西村「いま出ても恥しくないアルバムだと思うな。さすがに長いリハーサルを経て作られただけあって、ライブで演っても自然に出来る曲が多い」
山田「安定してる「FAITHIA」とか、目をつぶっても出来るぐらい(笑)」

＊

'87年夏。この時期、F.O.D.は最初の動きを見せ始めた。まず、6月18日。東京は芝浦のインクスティック・ファクトリーでデビュー・ライブ。その3日後の6月21日、ファースト・アルバム「FENCE OF DEFENSE」とシングル「FAITHIA」のリリース。そしてすばやくも、8月26日にはセカンド・シングル「NIGHTLESS GIRL」の発売、と流れていった。さらに、セカンド・アルバムへ向けての合宿、レコーディングが始まったのもこの夏の終りから。先に進まずにはいられないF.O.D.スタイルは、レコード・デビューの季節に、もう形づくられていたようだ。

＊

——ファースト・アルバムと同様に回想形になるんだけど、現時点で語るセカンド・アルバムってどんなふう？
山田「ボクは、2枚目が出たときは1枚目より好きだったんだけど、今は1枚目のほうが好き」
——それはどの辺が？
山田「アルバム自体の色、かなー？　ボクの中では2枚目ってモノトーンのカンジなんだよネ。それが1枚目のほうはなんか色がついている」
——その辺、西村クンはどう？
西村「ボクはそれなりにどっちも好き。2枚目だって負けてないよって(笑)」
山田「もちろん、それはあるよネ。だから、ウーン、1枚目には勢いがある、2枚目はいい演奏をしてる、その差がちょっとあるってカンジかな。1枚目っていうのは、多少演奏がズレていてもバンドの色が出てればいいやってやり方だったから。もしかしたら、その"色"のことかもしれないネ、さっきボクが言ったのは」
西村「2枚目は、バンドの中での気持ちが固まってきて、それが音にも出てるって言い方、出来るかもしれない」
山田「ま、いま言ってるようなことはスゴク細かい部分でさ、基本的には1枚目も2枚目も"同じアルバム"だと思ってるんだよネ。コンセプトも、作り方も、スタッフも、実際同じだったわけだし。1枚目と2枚目でF.O.D.、そのことをわきまえた上で細かい違いはあるっていう」
——1、2枚目を通して、この3人で何か出来るの

FENCE OF DEFENSE ANNIVERSARY

今は意識してF.O.D.っぽくできる。土台があるから、

か？っていうのを試した、という話も聞いたんだけど。

山田「そうだネ、この2枚に全力投球したせいで、いま作ってる3枚目をいろんな角度から見れるようになったと思うし……」

――この2枚で、ある程度のものは出し尽せた？

西村「ウン、その中から見えてきたものが相当あって、それが次のアルバム作りにかなりつながってるからネ。ただ、3枚目でもまたいろんな発見はあると思うけど」

山田「これまでは、「これしかない！」ってカンジでやって、その中でいいものが生まれるまでがんばった。「F.O.D.っぽいのは何かな？」ってネ それがわかった今は、意識して「F.O.D.っぽくしちゃおう」とか出来る。土台があると、いろんななことが見えてくる、という」

――そのF.O.D.っぽさって、言葉で紹介するのはムズカシイかな？

山田「ボクは、シーケンサーがチョコチョコっと鳴ってて、3人の音がボンボンと鳴ってるのが"ぽさ"だと思う(笑)」

――すごく基本的な質問なんだけど、シーケンサー、シンセサイザーの自動演奏って、なぜとり入れてるのかなァ？

西村「ベースやギターを太く聞かせるためのモノ、って考えもあるネ。生楽器を持ち上げるための。でもシーケンサーも主役なんだ」

――3人も主役、シーケンサーも主役、主役がいっぱいいるんだ。

西村「そうそう(笑)」

――一方で、自分の好みの音だ、っていうのもあるんでしょ？

西村「ウン。それと、曲を作るときにそこから入ることも多いし。同じフレーズをキカイで反復させといて、そこへ気持ちを入り込ませていく」

――ずっと自分で弾いてたんじゃ、客観的に聞けないもんネ。さて、こうしてセカンド・アルバムも完成しました。で、去年の12月2日、3枚目のシングル「FREAKS」と供に「FENCE OF DEFENSE II」としてリリースされて、そのあとパルコ・パートIIIでライブがあったでしょ？

山田「12月13日、14日ネ。ボクはあの時からライブの自信、ついたんだよネ。それまでは、新人ピッチャーが声援もわからずに投げているのといっしょで、リラックスはしてるんだけど、頭の中では曲のことばかり考えてた。それがパルコで、西村には悪いけど、カレが当日に高熱出したおかげで、開き直れた。オレと北島で「なんとかやらなくちゃ」って話し合ってネ」

――でも、西村クンも含めて、あの時のライブはよかったなー。

西村「あー、だからネ、あの時以来みんなに「オマエはカゼひいてる時のほうがいい」って言われる(笑)」

――体調のことは別にして、西村クンがライブで感じをつかめたのは、いつ頃？

西村「この間のツアー("TRUE FACE"ツアー)でようやく。パルコまでは、ステージの終わりまでノドが続くんだろうか？って世界だったからネ。やっぱり、1ステージ通すっていうのは大変。他の人のバックやってたときは、当日の朝まで飲んでても関係ないって調子だったけど(笑)」

＊

'88年のF.O.D。その第1弾は、2月26日、セカンド・アルバムからシングル「MIDNIGHT FLOWER」がカットされて、始まった。セカンドの収録曲の中でも、特に詞の部分で重要なポイントを占めて

いろんなことが見えてくるんだ。

るこのナンバー。こいつのリリースで新年をビシッとキメて春。4月17日からは全国ツアー“TRUE FACE～WE WON'T LET YOU LEAVE US～”がスタート。初のホール・ツアーだ。ここで3人はいつになくリラックスしたモノを見せてくれた。ここで再び、いつもの息つくヒマもないF.O.D.流展開が始まった。ツアーが終わるやいなや、東京、山中湖をまたにかけた3枚目の制作の合宿。それから東京でレコーディングがスタート。次に場所を河口湖に移し、再度東京に戻り…。

ライブとレコーディングの繰り返し。それを新人バンドとしては異例のスピードでこなしてきている彼らだけど、よくよく聞いてみると、その構図はもーっと複雑だ。

「ボクたちって、いつも“出来ないこと”を目指してるんだよネ。だから、2枚目を作るための合宿でもう今度の3枚目の内容を考えてた」（山田）

過ぎてゆく時間を心底おしんでるかのような、このクロスオーバー・スタイル。「今なんて、もう4枚目のプラン、考えてるもんネ」と西村クンは笑った。こんなカンジで、デビューから1年が過ぎていったわけだけど、最後に、3枚目がどんな展開を持った作品になるのか？ 話してもらおう。

「アルバム全体の60%は「やっぱりF.O.D.でした」残り40%は「アレッ？」っていうカンジになりそう。まだ作ってる最中だからなんともいえないんだけどネ、ボクはそんな気がしてる」（山田）

もし、その感触が本当だとしたら、これは大きな変化。40%――アルバム全体の半分近くが未体験のモノにすりかわってしまう、というのだから。3枚目の作品にして、こんなトライアルをするなんて…。

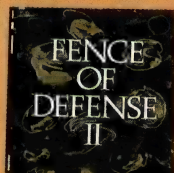
「60%を気にしてる人には「よかった」、40%が気になった人からは「裏切られた」っていう作品になるんじゃないかな？（笑）。でも、「いいバンドですネ」っていわれた1、2枚目から「いいレコードですネ」って言われる3枚目、にはするつもり！」（山田）

D I S C O G R A P H Y

●Album

FENCE OF DEFENSE

A INTRODUCTION／BURN／STRANGE BLUE／PLASTIC AGE／DEEP BLUE EYES B NIGHTLESS GIRL／MISTY／EMOTIONAL WAY／FAITHIA

ES●28·3H-264 '87年6月21日

FENCE OF DEFENSE II

A PROXIMITY／LIGHTHOUSE／FREAKS／MIDNIGHT FLOWER／HARD LIPS B LEMMING／TRUE FACE／CAN'T TURN I'M YOU TONITE／STRANGER OVER SPLENDOR

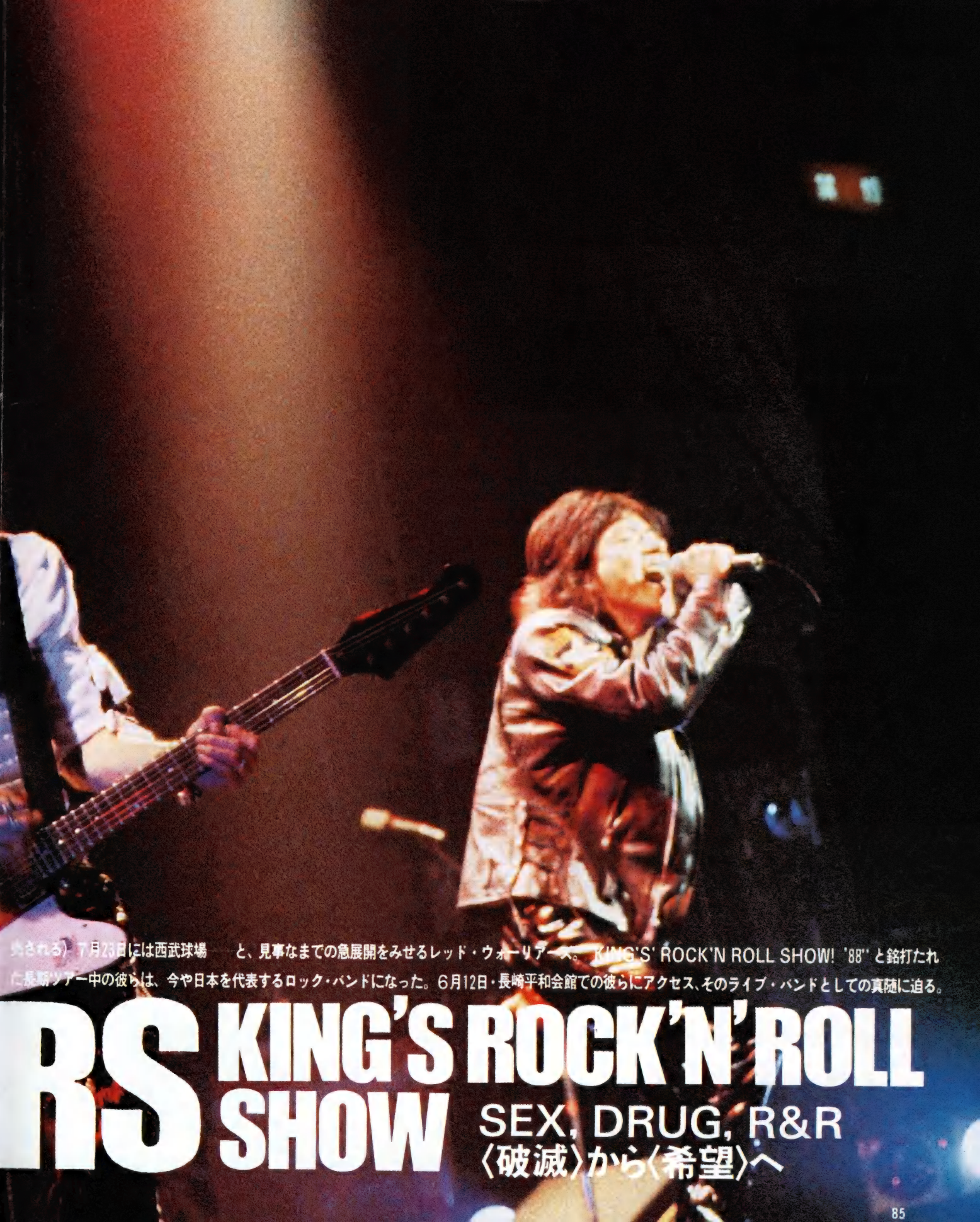
●28·3H-319 '87年12月2日

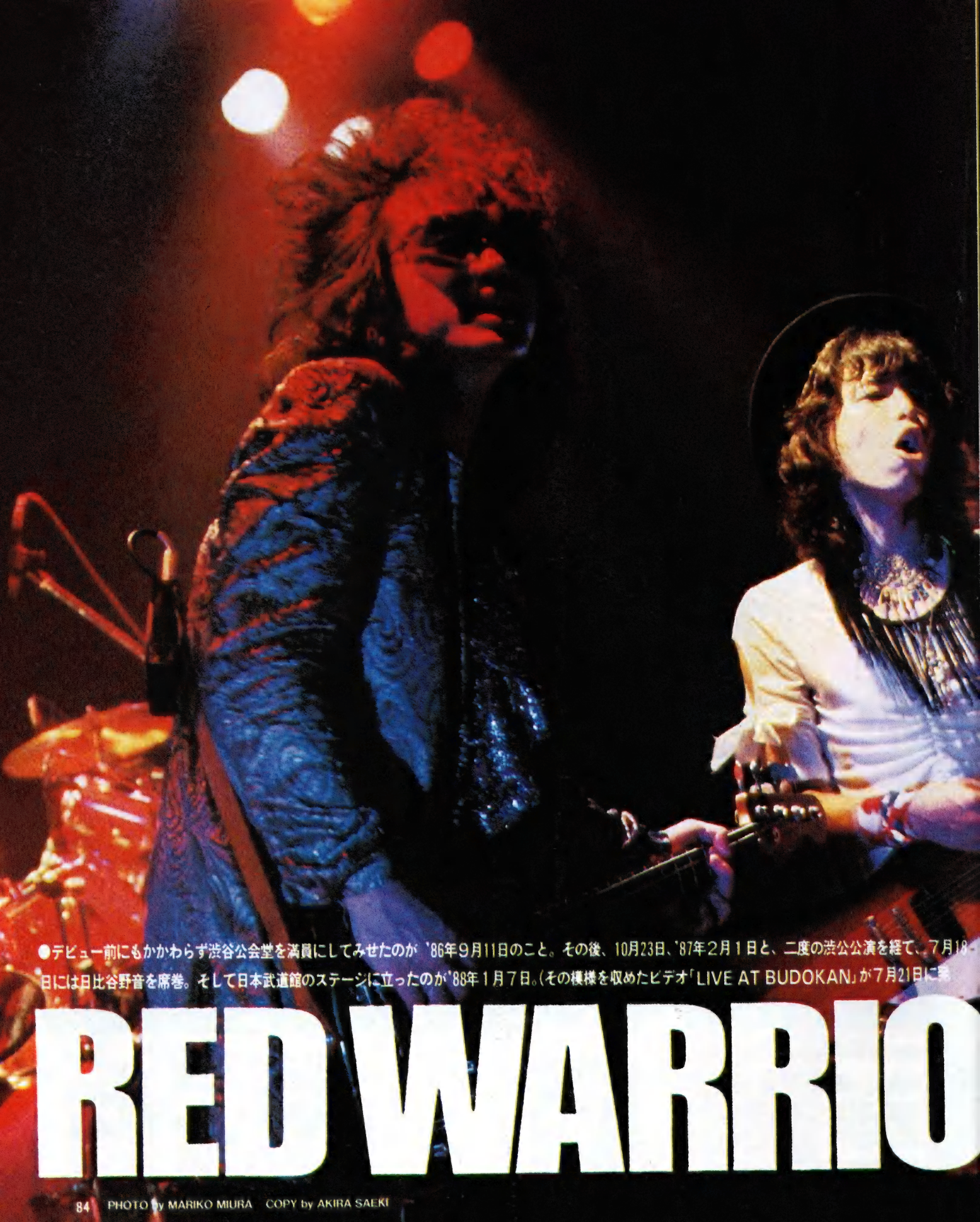
●Single

フェイシア／TRUE FACE

'87年6月21日

ナイトレス・ガール／PLASTIC AGE

'87年8月26日

FREAKS／STRANGER OVER SPLENDOR

'87年12月2日

●デビュー前にもかかわらず渋谷公会堂を満員にしてみせたのが '86年9月11日のこと。その後、10月23日、'87年2月1日と、二度の渋公公演を経て、7月18日には日比谷野音を席巻。そして日本武道館のステージに立ったのが'88年1月7日。(その模様を収めたビデオ「LIVE AT BUDOKAN」が7月21日に発

RED WARRIO

 PHOTO by MARIKO MIURA　COPY by AKIRA SAEKI

発される）7月23日には西武球場——と、見事なまでの急展開をみせるレッド・ウォーリアーズ。"KING'S' ROCK'N ROLL SHOW! '88" と銘打たれた長期ツアー中の彼らは、今や日本を代表するロック・バンドになった。6月12日・長崎平和会館での彼らにアクセス、そのライブ・バンドとしての真髄に迫る。

RS KING'S ROCK'N' ROLL SHOW

SEX, DRUG, R&R 〈破滅〉から〈希望〉へ

〈破滅〉ではなく〈希望〉その証しとしてのR&R——転がり続けるレッド・

RED WARRIORS

KING'S ROCK'N'ROLL SHOW

Ⅰ．アーティストのライブ・レポートなどをやっていると、当然のこといろいろな街へ行く機会は多くなるのだけれども、ここ数年地方の都市へ頻繁に出向いて気付いたことの一つに、大きな予備校とか塾の類いがずいぶん増えたな、ということがある。もちろん、長年それぞれの都市を観察し続けてきたわけではないから、ほんとうにどれだけ増えたのかと訊かれても返答に困ってしまう節はあるのだが、何となくどこの街へ行っても予備校や塾の大きなビルが目に入ってくるのである。

〝塾通いに疲れました〟と言って命を絶つ小学生や中学生が後を絶たないことからもわかるように、いまや学生時代に一度も塾や予備校を体験せずに通りぬけてしまう人は少数派なのではないだろうか？　カリキュラムの簡素化、つまり詰め込み主義のスピード教育はよくない！　と大人たちは言い、それが少しずつ実現化される一方で、そのシワ寄せがドッと塾に押しよせているような気がする。その結果、学校でも塾でも見はられ、1日が逃れようのないカリキュラムにのっとって進行してゆく。〝やりたいことをやりなさい〟と言われても何がやりたいのかすぐには決められないほど、誰かに見はられがんじがらめになっているのではないか？

こんなことをエラそーに書いている僕にしても小学生の時から塾通いをしていた子どもの一人ではあった。ところが当時は〝塾なんて行くヤツは学校で勉強するだけでは理解することができないバカモノ〟といった風潮があり、僕は〝ガリバー〟つまり〝ガリ勉してもバカなヤツ〟という最低のニックネームをつけられたりしたのである。今はきっと、塾に通ってないヤツは不安に感じてしまう風潮があるのだと思う。その内容も学校の授業の形態を少人数化させただけの〝破綻のないモノ〟に違いない。そうして、KIDS はどんどん身動きがとれなくなっていく。

Ⅱ．中・高校生の頃、勉強と対極にあることはたぶん恋愛だろう。勉強することは礼讃されるけれども、恋愛、特にセックスなどはすぐに不純というレッテルを貼られてしまう。一昔前までは、セックスなどは不純という名のもとになるべく隠される方向にあった。が、今は恋愛の仕方はもちろんのこと、セックスの仕方、楽しみ方まで丁寧に教えてくれる雑誌はヤマほどある。恋愛もセックスも、判らないから自らすすんで探し求めるのではなく、どこからともなく与えられたマニュアルを暗記・学習し、それを実践しなければいけないような錯覚に陥ってしまう。

ところがその一方でエイズの恐怖がある。セックスに対する情報は掃いて捨てるほどあるのにもかかわらず、その一方で巨大なリスクがクチを開いて待っている。僕らがほんとうに能動的に楽しくやれるモノはどんどん少なくなり、日を追うごとにがんじがらめになっていく。

Ⅲ．レッド・ウォーリアーズが〝セックス、ドラッグ、ロックンロール〟というキャッチ・コピーと共に出現した時、僕は一種すがすがしい気持ちがした。これは、ほんとうだ。ロックンロールが、マジで〝セックス、ドラッグ、ロックンロール〟であった'60年代を知っている人には〝何を今さら〟と思われたかもしれない。しかし、木暮武彦のアタマの中には、そのキャッチ・コピーそのものがロックの原型であり、それを日本でもちゃんとやってやるんだという思いがあった。そして、僕の受け止め方は、'60年代を通過した人の考えとも、木暮武彦の考えとも、違った。

ロックがまさに〝セックス、ドラッグ、ロックンロール〟であった時、その三つはすべて危ないモノだったと言えるだろう。その3つとも体験し、とことん突き詰めていくと、すぐに死がやってくるような、そうした感じを宿していた。けれども、レッド・ウォーリアーズが〝セックス、ドラッグ、ロックンロール〟と言った時、そこにはとても良い意味で危なさがないと僕は思う。それはどうしてかと言えば、現在の僕らの日常、ライフそのものの方が、はるかに死に近いからである。セックスの背後に潜むエイズ、電力と兵器の源になっている核、絶えずレールが敷かれている生活から生まれる〝自分＝生きる屍化〟と自殺など、数えあげればキリがない。

そんな状況の中で〝セックス、ドラッグ、ロックンロール〟というコトバと共に、ステージやレコードから響いてくる強い音楽は、破滅的性格を持っているというよりも、むしろ希望的ではあるまいか？　ほんとうに自分が信じられる仲間と〝オレはこうなんだ〟と言える音楽を演り、自分の〝生〟を形作っていける――今のレッド・ウォーリアーズの人気、ひいては日本のロック・バンドの台頭の背景には、KIDS がロック・バンドを〈希望〉だと思えるとこ

ウォーリアーズ。

バンドが生み出したライブそのものに バンド自身が影響され変化していく

RED WARRIORS

KING'S ROCK'N'ROLL SHOW

ろが確実にあるような気がする。

かつて〝セックス　ドラッグ　ロックンロール〟が《破滅》を指し示すコトバであったとするなら、レッド・ウォーリアーズはそのコトバを《希望》へと反転させたのである。たとえ、当人たちは意識していないにせよ、その部分はとても重要だ。

6月12日、長崎平和会館でのライブを観ながら、僕はそんなことを思った。

ジミ・ヘンドリックスの、一種破滅的な「アメリカ国歌」をオープニングにして「KING'S ROCK'N ROLL」が鳴り響くレッド・ウォーリアーズのツアー〝KING'S ROCK'N ROLL SHOW！'88〟には、これまでになかった楽しさがある。つまり、レッドがその誕生当初から持っていた〝つまはじき者の集団〟的なテイストが薄れ、評価と演りたいことがしっかり連動した結果のライブだと言える。

デビュー前の渋谷公会堂ライブから、レッドにあったモノは〝つまはじき者たちの一発逆転ノリ〟であった。幾つもバンドを作ってはうまく転がせず、しまいには新宿の路上で〝一人歌い〟を演ってしまった田所豊。自分のやり方には自信を持っていたのにもかかわらずレベッカを追われた木暮武彦と小沼達也。ローディとして重宝がられミュージシャンの道をあきらめかけた小川清史。この4人が〝だけどオレたちは！〟と思い結成したレッドには、夢だけしかなかった。たとえそれが安手のヒロイズムを帯びていたにせよ、音楽にストーリーとチカラを生み出したことは確かなのである。

そして田所豊言うところの〝アマチュア時代の総決算ライブ〟が、今年1月7日の武道館であった。あの時点で、レッドは〝つまはじき集団〟であることを清算した。大きな節目となったのだ。

だから〝KING'S ROCK'N ROLL SHOW！〟は、新たな攻撃色とエンターテイメント色をたずさえている。チンピラの一発逆転ノリがなくなったことを悲しむファンがいるかもしれないが、バンドは以前にもまして〝一つ〟になろうとしている。そして、それゆえ〝一つ〟になれなかった時の落胆は大きなモノにもなっているように思える。

長崎平和会館は、1階がオール・スタンディングのライブ・ハウスっぽい会場で、客のノリがダイレクトにステージに伝わっていった。ステージと客の間にあるのは1本のロープだけ。逆に客が一気にイッてしまうと危ない状態になるケースも予想できる。レッドが今回のツアー・タイトルにした〝SHOW〟を自負する部分と、昔のライブ・ハウス的ノリが対決するかもしれないと思い、楽しみだった。

結果は、客のパワーにレッドが応えたというカタチになった。それほど客がレッドに期待し要求するところは強かったように思う。それで僕は、先ほど書いたようなことを感じたのだ。レッドのバンド・イメージは決してクリーンではないが、それが客にパワーを与え強い同化を促している。そのプロセスがライブを通してはっきりとわかるのは、彼らの新しい側面を見たようで驚きだった。ユカイ君はもとより、シャケもキヨシ君も動き回った。ユカイ君はPAと昇り台の間に落ちたりもした。

それでも、終演後彼らは〝きょうのライブはイケなかった〟と言った。「客の顔とか見てると、ある程度のところはクリアーしたと思えるけど、自分としてはダメだった」とシャケ。「最近はオレとシャケの感じ方が近くなってきてる。それで、きょうはダメのほう」とユカイ君。この辺、ライブ・バンドとして回を重ねてきたレッドの成長ではないだろうか？客とのコンビネーションをふまえつつ、自分たちのバイブレーションを最終的なライブの判断材料にするところは、客観的にみればかなり高度なことだ。この話を聞いていて僕はこのツアーが、SHOW的要素を強く放出するだけのモノではないと確信した。

レッド・ウォーリアーズは、7月23日に西武球場でライブを放つ。コンマ君のドラムスを核にして生まれる彼らの大きなノリは、球場でより映えるだろうが、小さな会場でも彼らは様々な〝波〟を受けている。バンド自身がパフォームしたライブそのものにバンドが影響され変化していくとしたら、これほど刺激的なことはない。〝もう一度ライブを共有したい〟と願うのは、その証明である。燃焼か不燃か？それはマニュアルどおりにやって来ないのだ。

D I S C O G R A P H Y

●Album

LESSON 1

ⒶSHOCK ME／OUTSIDER／BLUE BOY'S BLUES／BLACK JACK WOMAN／BAD LUCK BOOGIE
ⒷBIRTHDAY SONG／WILD CHERRY／ABA-ZURE／GUERRILLA
CO●AF-7426　'86年10月10日

CASINO DRIVE

ⒶCasino Drire／I Miss You／Old Fashioned Avenue／Outlaw Blues／Morning After
ⒷJohn／Monkey Dancin'／Foolish Gambler／Wine & Roses
CO●AF-7455　'87年6月21日

KING'S

ⒶKING'S ROCK'N' ROLL／NEVER GIVE UP／SHAKIN' FUNKY NIGHT／THE DAY AFTER／ANOTHER DAY, ANOTHER TIME
ⒷROYAL STRAIGHT FLASH R&R／JAJAUMA-NARASHI／WILD AND VAIN／PARTY IS OVER／IT'S ALL RIGHT
CO● AF-7482　'88年4月1日

●Single

OUTSIDER／BLUE BOYS BLUES（'86年12月10日）

ROYAL STRAIGHT FLASH R&R／Morning After（'88年3月10日）

●12 inch

バラとワイン／I AM THE WALRUS　他全3曲（'87年4月21日）

ルシアン・ヒルの上で　他全3曲（'87年11月21日）

「ribbon」への片想い。

●ニュー・アルバム『ribbon』が好評だ。
この最新作で渡辺美里が、私たちに示してくれたものは数多い。
GB７月号でのインタビューをもとに、
このポップ・アルバムの秘密を探ってみた。

PHOTO●NAOTO OHKAWA　COPY●RYUICHI TAKAHASHI

misato WATANABE

渡辺美里は、アーティストとして本当に大きくなった。『ribbon』というアルバムは、アーティスト渡辺美里の力量というかな、センスがいいとか実力を感じさせるとかいうことではなく、それを越えるもの――アーティストに必要とされる多角的なパワーを発揮している。

渡辺美里は、ハイ・テンポで成長してきた。シンガー／ボーカリストとしてスタートし、作詞を手がけるようになり、レコードのプロデュースにも加わるようになった。主役であるのと同時に、作品の作り手としてのポジションにもついた。

そうして聞き手にゆだねたのが『ribbon』だ。『ribbon』は、美里的感性のありかたを示してファンをアッと言わせた。『BREATH』を、さらに越えている。たとえ、アルバムを作るうえでの彼女のポジションが同じだとしても『BREATH』と『ribbon』とでは、アーティストとしての大きさが違う。

まず最初に、わかりやすいところから、ヴァラエティ豊かな曲が収められている点に触れてみよう。つまり、いわゆるスケールが大きいと感じるところだ。

ヴァラエティ豊かといっても、巾があるということとも違い、それは「センチメンタル・カンガルー」～「恋したっていいじゃない」～「さくらの花の咲くころに」のはじめの3曲の流れでつかめると思う。渡辺美里というと、ミディアム・ハイぐらいのテンポのメロディーがよく伸びた曲が〝彼女らしさ〟だと思われていた。このアルバムでも確かにそういうタイプの曲はある。「Believe」や「悲しいね」がそうだが、でも、よくアルバムを聞いてみると、これまでとは違い、いわゆるキャッチーなところのある先の2曲は、このアルバムの柱になっていないのだ。そこが、ハッキリと違う。その2曲よりも、意外といってもいいハイ・テンポでトンがったサウンドの「恋したっていいじゃない」やロックのワイルドさ大らかさを自分のものにした「センチメンタル・カンガルー」や「19才の秘かな欲望」（ザ・ラヴァーソウル・ヴァージョン）のほうが目立っているし、存在感という点では「さくらの花の咲くころに」や「彼女の彼」「ぼくでなくっちゃ」といったゆっくりめの聞かせる曲も負けてはいない。

ヴァラエティがあるだけではなくて、クォリティの点でも問題がない。ひとつひとつの曲がきわだって聞こえる。これが、彼女が言うところの〝ポップ〟ということだと思う。「たくさんの色を使っても全部が渡辺美里に聞こえてくると思うんです」

と、今度のアルバムを評した彼女。そこに、あえてつけ加えるとしたら、たくさんの色のリボンは、デザインも質も一流、ということだ。

曲調（サウンド）の豊富さを巾とすると、奥行は、いわば詞の世界。ここで特に注目したいのは歌の主人公――詞が、過去や未来にも目を向けている点だ。今を一生懸命生きている、というのが彼女の代表作に感じられたイメージだったと思う。それに対して『ribbon』では、「さくらの花の咲くころに」で学生時代を想い出し「10 years」で昔の夢と明日に向かって走る勇気を重ね合わせる。そして、東京という街に対する愛着心を自然破壊というペシミスティックな部分を含めて歌った「Tokyo Calling」も、過去と未来に目を向けている彼女が見える。

この点について彼女自身はどう思っているかと言うと……。

「「さくらの花の咲くころに」に関して言えば、今だから言えるとか、今だからあのころの気持ちを感じることができるとか、そういうことが詞になっているんだと思うんです。その瞬間――リアルタイムでは、ああいう曲の感情って浮かんでこないような気がするんです」

「レコーディングのためにスタジオに通っているとき、スタジオの横のほんの少し土が残っているところで子供たちが遊んでいるのを見かけたんですよね。で、そのときに、私が子供のころ遊んでいたシーンをふと想い出して、なにか複雑な気持ちになったんです。10年後、20年後に私たちがどうなっているのか、住んでいる街がどう変わるのか、想像つかないところはあるんですけれど、子供のころに感じていた輝いている時間がとてもいとおしく思えたし、忘れたくないな、と思って……」

渡辺美里のこれまでの歌のイメージにあった〝今をせいいっぱい生きる〟ということは、少し角度をかえて見れば〝いろんな想いが交錯する中で、そこで頭を抱えこみ立ちすくんでしまいたい気持ちをおさえて、足を踏み出す〟ということだったと思う。今この時期に彼女が、過去を振り返ったり、未来を想像してみたりとい

う詞を書くようになったのは、ひとつには、それだけ心に余裕が出てきたのだと思う。〝今〟〝現在〟という人間にとって欠くことのできない世界はもちろん視界の中心にあっても、それよりも、より広い（時間的な広がり）世界を受け入れようとする彼女がいる。

過去や未来に目を向け、あのころのことを想い出したり、将来を見ようとしたときに、彼女は、決して悲観的になったり焦躁感にかられたりはしない。いや、きっと、そういうことは心のどこかにあるはずだが、それが、聞き手に向けられることはない。そして、以前ならば、一種の強さとして表れたものが、今度のアルバムでホンワカした感触に変わっている。女性的なやわらかさが人間の様々な感情の起伏と一体になって、心地よい情感を生み出している。

情緒や情感、これが『ribbon』のもうひとつのキー・ポイントだ。

MISATOは、もとから〝詞の世界〟の情緒を大切にしてきた。それは聞き手にとっても重要なファクターで、知らず知らずのうちに詞に表れた場所・時間・季節感といったものから歌の臨場感を得ている。そういう聞き手の無意識の欲求に、MISATOは確実にこたえてくれる。聞かせる曲といったタイプはもちろんのこと、『ribbon』ではバンド・サウンドのよくドライヴした演奏によるバンド・サウンドのロック・ナンバー「センチメンタル・カンガルー」でもうまくメロディーに乗せている。〝リボンが風にゆれるサマーデイズ〟ドアタマの歌詞がこれだからね。切れ味

見事なフレーズ。それだけで、この歌のイメージは明解に伝わってくる。

そして、そういう詞をバックアップして、さらにリアルな情緒や情感を生み出しているのが、清水信之や佐橋佳幸などによるアレンジだ。曲で言えば、シングルとして先に発表されていた「悲しいね」（アレンジは小室哲哉）からその流れがはじまっていたと言ってもいいだろう。いわば描写的と言ってもいいアレンジ。これについては、彼女自身が適確な言葉で語っている。

「全部の曲ではないんですけど、サウンド・トラック……映画のサウンド・トラックみたいにしたいというのがあったんです。アレンジで、例えば、さくらの花が散っている風景が感じられたり、冬の街の寒々とした感じがだせたらいいな、と思いました。映像的というんですか、聞いていて目の前に風景が浮かんでくるような、そういうアレンジにしてもらった曲もたくさんあります」

『ribbon』で渡辺美里が作品の作り手としてのポジションを得たということは、このような彼女の言葉でもわかる。歌の世界をよりリアルに伝えようとする彼女がアレンジについて考えたひとつの解答が〝映像的なサウンド〟だ。

……と、このように『ribbon』の、いわばヒミツを探ってみたのだが、どうだったろう。

「戦後最大のポップ・アルバム」を合言葉に作られた『ribbon』は、やはり、とびきりのポップさがある。

DISCOGRAPHY

●Album

eyes
ⒶSOMEWHERE／GROWIN'UP／すべて君のため／18才のライブ／悲しいボーイフレンド／eyes Ⓑ死んでるみたいに生きたくない／追いかけてRAINBOW／Lazy Crazy Blueberry Pie／きみに会えて／Bye Bye Yesterday
ES●28・3H-180　'85年10月2日

BREATH
ⒶBOYS CRIED ―あの時からかもしれない―／Happy Together／IT'S TOUGH／Milk Hallでおあいしましょう／BREATH ⒷRichじゃなくても／Born To Skip／Here Comes The Sun（ビートルズに会えなかった）／Pajama Time／風になれたら
ES●28-3H-300　'87年7月15日

Lovin' you
ⒶLong Night／天使にかまれる／My Revolution／そばにいるよ／素敵になりたいⒷ19才の秘かな欲望／This Moment／君はクロール／Resistance／My Revolution(Hello Version)Ⓒ悲しき願い／みつめていたい／言いだせないまま／雨よ降らないで／Steppin' NowⒹ男の子のように／A Happy Ending／Teenage Walk／嵐ケ丘／Lovin' you
ES●42・3H-240～1　'86年7月2日

ribbon
Ⓐセンチメンタル・カンガルー／恋したっていいじゃない／さくらの花の咲くころに／Believe／シャララ Ⓑ19才の秘かな欲望／彼女の彼／ぼくでなくっちゃ／Tokyo Calling／悲しいね／10 years
ES●28-3H-5030　'88年5月28日

●Video

BORN AUG. 1986-MAR. 1987～
君に会えて＊／嵐ケ丘＊＊／Resistance＊＊／My Revolution＊＊＊／君はクロール＊＊＊／Long Night＊＊／GROWIN' UP＊＊／そばにいるよ＊＊＊／My Revolution＊＊＊＊
＊from Promotion Video
＊＊from Seibu Lions Stadium '86年8月
＊＊＊from Nippon Budokan '87年2月
＊＊＊＊from Osaka Stadium '86年8月
β●98・1H-115　VHS●98・2H-115
8mm●78-1H-8004　LD●78・4H-115
VHD：78・7H-115

●Single

I'm Free b/w タフな気持ちで(Don't Cry)（'85年5月）
GROWIN' UP b/wルージュの色よりもっと（'85年8月）
死んでるみたいに生きたくない b/w Bye Bye Yesterday（'85年12月）
My Revolution b/w みつめていたい（'86年1月）
Teenage Walk b/w 素敵になりたい（'86年5月）
Long Night b/w 雨よ降らないで（'86年7月）
BELIEVE b/w Half Moon（'86年10月）
IT'S TOUGH b/w BOYS CRIED（'87年5月）
悲しいね b/w New Boyfriend（'87年12月）
恋したっていいじゃない b/w eyes(Live Version)（'88年4月）

HIDEAKI MATSUOKA LYRICS NOTE

●デビューして1年半。その間にリリースされた松岡くんの3枚のアルバム、『Visions of boys』『Divine Design』『以心伝心』には、その時々の松岡英明が息づいている。その3枚のレコードの詞を通して"松岡英明の1年半"と"これからを探ってみると――。

撮影●渡辺マコト　文●宮本好

『Visions of Boys』

デュラン・デュランが、次にレコード出すまで待てなかったから…〝自分で作ろう！〟

――デビュ曲「VISIONS OF BOYS」が、松岡クンの初めて作った曲というのは有名な話だけど、いきなり英語の詞曲だったのは、どうして？

M：自分であんまり英語だからどうのっていうのはなくて、あんまり深くは考えてなかったですね。英語が、一番カッコイイと思ってたからなあ。

――「VISIONS OF BOYS」はどんなイメージから生まれたんだろう。

M：自分の好きな音楽かな。デュランデュランを聞いたりとか、他の日本の歌謡曲とかを聞いてたんだけど、ちょうどその頃、チェッカーズとか吉川晃司クンとか出てきてて面白い時期があったでしょ、それが終わっちゃったら、なんか全然つまんない時代に入っちゃって、〝誰かなんかやってくれる奴いないのかなあ〟っていうあたりから、作りはじめたのかなあ。だから、自分のどうのってよりはそういう人が出てきて欲しいなあっていう歌だった。

――作りあげた時、〝やったあ〟っていう感じだったでしょ。

M：そうですね(笑)　サッカーやってて、ゴールにシュートが決ったのと同じような。

――「VISIONS OF BOYS」で、いちばん言いたかったことってどんなこと？

M：自分の中にある夢とみんなの求めてるものが共通してるのかな、どうなのかなっていう部分と、そ

ーだという。

『Divine Design』

リアルなシチュエーションよりも僕の性格とか気持ちっていうのが、出てるかな。

実は、「Victue & Vice」と同時期に出来ていて暖めていた松岡英明の最もアーテイスティックな部分である「Divine Design」がタイトル・チェーン。同じライン上の「Don't Look Back」は、安定した魅力がある。しかし、特筆すべきは日本語の詞作に新しい彼らしさの芽ばえがみえる「Let Me Alone」。

＊

――「Let Me Alone」は日本語の韻というか音をうまく使ってて、てにをはを変えるとかのアイディアを盛り込んでいるけど。

M：みんなが気づいてる以上に細かく作ってる所ありますね。でもそういう作業って機械的なことになっちゃうし、みんなに届く時には全体像でわかって欲しいっていうのはありますね。

――歌う度に、作った時の気持ちがよみがえってきて胸が痛くなるんだって言ってたよね。

M：これはもう、1回1回苦しくなりますね。特に「小さな僕らを空は見つめていた／すべて忘れればいいなんて言った僕さえも」っていうところが自分でも好きなところで、胸が苦しくなると同時にすごく希望も持てる歌なんだ。

僕にとっては、ずっと英語詞より日本語の方が難しかったし、今でも英語の方がしっくりくるっていうのはあるけど。自分でもコレコレコウダカラ英語がいいんだとか、ほんとはわかんないんですよ。どこらへんが好きなのかもよくわかんないし、決して完璧な英語が表現できるわけでもないし。だから、僕にとって、英語が究極のものだって言い方は似つかわれと自分の捜してるやつがでてこないし、自分でやってやろうっていうあたりのことかなあ

＊

このあたりのイメージは、「VISIONS OF BOYS」のプロモーションVTRによく現われている。この後に「世の中には汚いものがあるからこそ、綺麗な物が存在する。君がしてきた美徳も悪徳も両方が君にとってプラス、悪徳の中からでさえも得られるものがある」という意識の元に作られたのが「Victue&Vice」。英語版のオリジナルが存在したという「Please Burn Up, Love Passion」。曲先で他人の提供曲には初めて詞を付けた「夜空は星の宝箱」。これはデモテープを貰った彼が、特に書くはずでもなかったらしいが、「突然、ブァーって書いてしまった」らしい。その他の収録曲「Angel, go to Sleep」「Dance with abandon」（CDのみ）も英語でやりたかったナンバ

しくないかもしれないけれど、でも僕の中の感覚として、英語がもっとも素敵な言葉かなとは思ってますね。でも伝えることは、コミュニケーションの中ですごく大切なことのひとつだし、その中で僕がこれだけ好きな英語を抑えてまで日本語で歌う意味があるものだと思ってるし、今では、日本語で曲を作ることに関して抵抗がなくなってきたし、面白いものも作れたから。

——日本語の面白さがわかったのは、どの曲あたりから？

M：僕の認識の中で、日本語はドラマチックな曲には似合うなっていうのはずっとあったんですよ。だから、「夜空は星の宝箱」も書けたし、この「Let Me Alone」も曲聞いてこれだったら、うまくいくんじゃないかなって書き始めたのね。その中に自分で日本語つくるんなら、こういう書き方がいいなっていう自分の書き方があったから、そういうもの入れたっていう意味では、「Love Passion」とか「夜空は星の宝箱」の延長線上のことを出来たと思ってたんだけど。日本語で面白いことができるなあって思いだしたのは、「VIRGINS」を書いてからかな。

＊

このアルバム「Let Me Alone」以外の曲は、英語で歌いたいという気持ちが強くて、日本のレコーディング・システムと闘っていた毎日だったとか。特に「Perfect Crim」「Dance in Versailles」この2曲に関しては、最後の最後までどうしても英語で作りたいと粘っていたらしい。

そのディスカバー日本語とでも言うべき初の12インチ・シングル「VIRGINS」。松岡クンが突然「日本語で書きたい」って言い出したことにスタッフはキョトン、実際に作っていった時にもビックリ、驚きながらも「やったじゃないか」と手をとりあって喜んでいたとかいないとか。

＊

——日本語で書きたいっていいだしたのは、どうしてなんだろう。

M：僕がセカンドで英語にこだわってたっていうのは、日本語が書きたくないっていうよりは、「Perfect Crimc」にしても「Dance in Versailles」にしても英語先行の中で作ったから、それを日本語に変えるっていう作業がとてつもなく嫌だったのね。で、そういう中での日本語に対しての反発だったわけで、自分から、日本語先行で考え始めれば、全然問題ないと思ってたんだ。だけどそう思ってるのにも関わらずそういうことをいつもしてなかったし、確かに自分の中に英語がそんだけ好きっていうのがあったから、曲を書きたいと思って書き始めちゃうと英語から作っちゃうっていうのがあったんだ。でも、「VIRGINS」は、絶対日本語から作ろうって最初から、頭でそう決めこんでたんだ。

——この曲は、英語で表現していた松岡クンのライン上にあって、内容とビート感を兼ね備えていて、しかも日本語としても水準に達しているという。

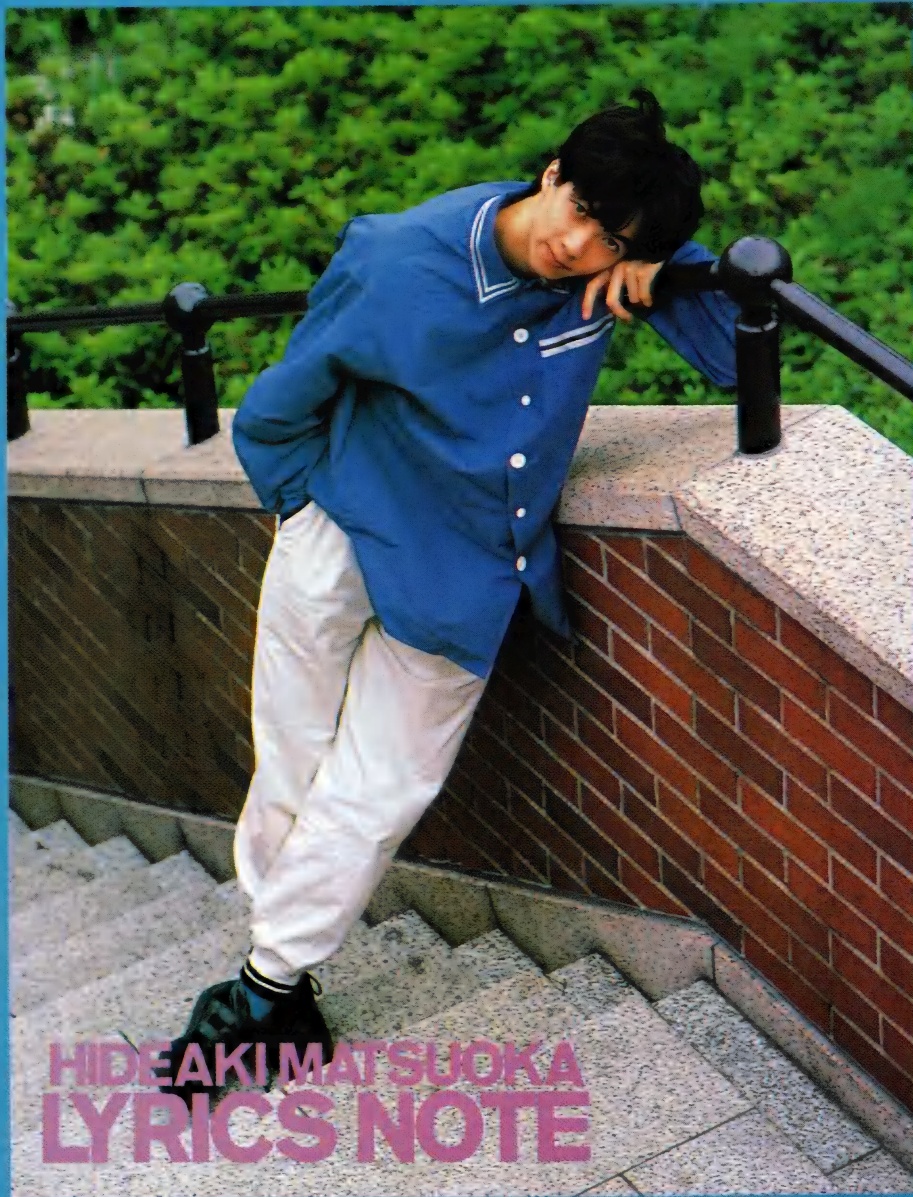
M：英語日本語っていう部分でもそうなんだけど、セカンドまで作ってきてのサウンド・コンセプトっていうか、どういうことがやりたいんだろうっていうのがちょうど固まりつつあったのね。アイディアがいろいろ浮かんできてたから、ほんとはこんだけアイディアが浮かんできてるんだし、絶対英語で作りたいとか思ってたんだけど、そのアイディアを持ちこんで日本語の歌にしたから、ちょうどいいバランスでそういうのが出たのかもしれない。

『以心伝心』

初めてすごく面白いことをやる人って、別に深く考えてないんじゃないかな!?

——で、3rdアルバム「以心伝心」へと続いていく訳だけど、また、思いきったタイトルというかね。

M：これは、〝以心伝心〟っていう言葉がポンと浮かんできた時に、ああいい響きだなって思っただけで、この言葉をメロディの中でいかにカッコヨクするかっていうことしか考えてなかった。

自分の曲の作り方として、自分の心の中から溢れ

出てくるものに抵抗したくないなっていうのはあって、今までは溢れ出てくる前に、いろんな言葉が溢れるのを抑える薬を作っちゃってたような気がするんですよ。それは見栄なのかもしれないし、音楽に対して言葉で決めきっちゃってたところなのかもしれないし。その薬が効かなくなってきちゃったっていうか、自分の中で言葉があんまり意味をなさなくなってきたりとかしてきて、言葉に対してすごく無責任になり始めたっていうこともいえるのかもしれない。確かに言葉にしてるんだけど、明日の僕も同じことをいう僕とは限らない、って思い始めたっていうか。ただ、その時思ってることはちゃんと、嘘つかずに言ってるつもりだし、そういう部分がなんかね、溢れださせてしまう原因になってるっていうか。

——だから、「Wonderland」の詞のように以前の松岡クンなら絶対描かなかった他人からみる松岡クンのイメージとシンクロするような詞を書いたり、日常的な情景描写や「オレとオマエ」という人称を歌えたりしたのかな？

M：自分の中の成長過程っていうのと状況がうまい具合に一致しちゃったっていうか。あたかもそういう感じだけど、自分の中で詞に関しては自分の世界感があったから、その中で僕にとって音楽ジャンルは関係ないんじゃないかとか、もっと幅広いことに手を出してもいいんじゃないかってことよりは、僕の中でいっこいっこ詞を書いていったときにこういうふうに書きたいなっていうのが最優先されていたっていうかね。やりたかったことがひとつひとつ形にしてるだけっていうかね…。

＊

このアルバム『以心伝心』は、今までの作り方、取り組み方と異なり、まるで歌謡界のアイドルのような関わり方をしてみようとしたという。しかし、出来上がってみれば、本人の作詞の参加がことの他多く、松岡英明の世界観に満ちて、しかも新しいアプローチがそこここに見られる。

「最近の僕の中で得たものが無意識のうちに蓄積されて、その後で一生懸命に何かやろうとした時に、ゆっくりジワジワ出てくるんじゃないのかなあ」というのが3枚のアルバムを通してつかんだ感覚なのだろう。

DISCOGRAPHY

●Album

[VISIONS OF BOYS]
ⒶPlease Burn Up, Love Passion／あたらいシンパシー／青に消えたSilent Night／羊飼いたちのサイエンス／Angel,go To Sleep
ⒷVirtue&Vice／歳月きみを待つ／夜空は星の宝箱／absence／Visions of Boys
ES●28・3H-251　'86年11月1日

[以心伝心]
ⒶWonderland／Eyes Never Lie／T-R-Y／Justify／きみを教えて
ⒷVIRGINS／お気に召さないか？／Big brother／HAPPY BIRTHDAY／Living in a false scene／秘密の7つの夢
ES●28・3H-5027

[Divine Design]
ⒶScene from Paradise／Dance in Versaills／Dual Personality／Young Pirates／Bad Bad Bad／Let Me Alone
ⒷDon't Look Back／Perfect Crime／Around the World／Divine Design
ES●28・3H-288　'87年6月21日

●Video

[VISIONS OF A BOY—OUT SIDE]
Visions of Boys／Young Pirates／New Sympathy／Dance in Versailles／Virgins／Visions of Boys
ES●38・2H-127

●Single

[VISIONS OF BOYS]
b/w Please Burn Up, Love Passion
('86年11月)

[あたらしいシンパシー]
b/w VIRTUE & VICE
('87年2月)

[Dance in Versailes]
b/w Dance in Versailles(Your Voice Version ('87年5月)

[Young Pirates]
b/w Don't Look Back
('87年9月)

[Wonderland]
b/w Eyes never lie
('88年6月)

●12inch

[VIRGINS]
b/w Living in a false scene
('87年12月)

Hideaki Tokunaga
Holiday in Kyoto

想い出を巡る小さな旅

PHOTO●HIDEO KANNO
COPY●JIRO HAMADA

この土地を訪ねる度に、僕はなぜか「ただいま」と心の中で呟く。
生まれた場所からは遥かに遠く、ゆっくりと数日を過ごしたことさ
えない〝京都〟の街なのに歩くほどにその想いは深まる。
数々の思い出とひと握りの知識を持つこの道をいつか、ゆっくりと
辿ってみたかった。だから今日は、たったひとりの気楽な自分に戻って
僕の京都で旅をする。(ほんの少し関西弁がよみがえる小道にて)

京都への想い

●関西で育った彼にとって近くて遠い場所だった京都はひとつのラジオ番組を通して遠くて近い場所へと変わる…。

中学、高校と過ごした伊丹（兵庫県）では悪いことやアホなことをいっぱいやった。皆が思ってるようにかなりやんちゃだったからね。だから伊丹に帰るとただただ懐かしいと思う。でも京都に降りると懐かしいんじゃなくて、また帰ってきたいと思う。郷里は福岡なんだけど、あそこには住みたいと思う。伊丹にも住みたいと思う。でも京都には住みたくはない。やっぱり、帰ってきたいと思う。

京都っていうのは……。３枚目のアルバムを作るときに〝自分自身の音楽をみつけなくちゃいけないっていう強い思いがあって、そのアルバム『BIRDS』を出した後で「フリーキャンパス京都」（ラジオ番組）でしょう。すごく苦しんでアルバム作った時期に、ラジオでは、自分が不安で不安でしょうがないっていう奴らが手紙をくれるわけ。そこで僕がストレートに心の内を話すことで生きる決意を持ったとか、力を得たとか、そんな返事があったりする。だから一緒に大きくなれたね、ってそんな気がしてる。アーティストとしての成長っていうか、何か大切なものを教えてもらったと思っている。だから単に〝青春の場所〟じゃない。またここに帰ってくることによって、またひとつ大きくなれるような気がする、そんな場所なんだ。

ラジオの仕事とか終わって小料理屋みたいなところで一杯やる。川の流れを見て、蚊帳が吊ってあって……何か、昔ガキの頃遊んでた田舎に帰ったような気持ちがする。そこの川にも鯉がいたし、柳があったり、あんな風な家やよく似た道なんかもあって、だから京都に魅かれるのかもしれないと思う。（伊丹に住んでた頃）大阪、神戸っていうのはよく遊びに行ったけど、京都にはなぜかあまり来なかった。その頃よりも今の方がよくわかるんだよね。他の街がすごいスピードで変わってく中で「わしらはこの庶民のにおいだす」って、カワラとひらがな……。変わらないでほしいなあ。

三十三間堂

●さんじゅうさんげんどう。京都市東山区七条大和大路にあり、本堂には千体と数えられる観音像が安置されている。

京都に初めて来たのは中学1年のころ。まだ福岡から引越してきたばかりで関西弁とか言葉もよくわからなくて、本当に真っ白なときだったと思う。

日本史ってあまり好きじゃなかったんだけど、平安京とかいろいろ京都のことが出てくるでしょう、で、何か行ってみようかなと思って…。何かを捜そうとはしていたんだろうけど、弱冠12歳でね、京都は自分の表面を通り過ぎるだけだった。

で、その後、学校の勉強会でこの三十三間堂に初めて来たんだ。あの時は金剛さんとか見て、〝ヘェ〜〟って感じでよくわからなかったけど雰囲気で楽しんでたような気がする。

でも、今、こうして見ていると時の流れっていうのをすごく感じるね。原爆ドーム（広島）を見たときに、その回りに森があるでしょう、でも昔はなかったわけですよね、原爆が落ちて。でも、今はまた何もなかったように森がある――。ここも15年前に見た風景と何ひとつ変わってない、まったく。だけど、例えば昔はコンニャク食べれなかったのに今は食べれるとか。コンニャクをおいしいって、子供は思わないじゃないですか。それと同じで、おじいちゃんとかこういうの（三十三間堂）見て喜びますよね。

あのころの事を思うと自分も今の大人の世代になっちゃったのかなあって思う。昔見たときは決して感慨深かったりしなかったのに、今見てて何で楽しいんだろうって。今も特に興味があるわけじゃないのに、落ちつくね。歴史を感じる。

東京とかだと住宅街は2階建ての同じような家がドッと並んでたりするんだけど、京都ってそんなことはないし、田んぼとかあっても不思議と、〝田舎〟って言葉は出てこない。これも歴史を守ってる、みたいな重みのせいなのかな、本当に古風だよね。

京都っていうのは関西の人にとっても憧れの土地なんじゃないかなあ。だから学生の頃とか京都の女の子とつきあうとそれだけで素敵だったりしたよ。

京都の人は排他的だとか、冷たいとかいう人がいるけれども、それは少し違ってるように思う。何もかもが壊されていく中で守るってことはとても大切なことだし、第一彼らはマイペースなんだと思う。

フリーキャンパス京都

●KBS京都で'87年4月3日から'88年3月25日までの約1年間、(毎週金曜22時～1時)DJを担当し、人気者に。

この話がきた時は、大阪でも東京でもずっとラジオやってきてたし、関西ってこともあるし(関西弁でいける)、これなら大丈夫って思ってたけど、とんでもなかった。3時間の生放送があんなに難しいとは！

第1回目のことは本当に思い出せない。ウァーっと話し続けて、舞い上がって終わってしまったって感じなんだよね。

東京のラジオだったら1時間の中に5～6曲あるじゃないですか。曲中心だったから曲の雰囲気で喋っていけばよかったけど、この番組は人間として、悩みや恋愛の問題があったりして、そう簡単にはいかない。それにラジオって、どんな顔で、どんな姿で話したってその人の中身しか出てこないから、何か自分を試したいっていうかそういう意味でもすごくやりたかった。それが京都だったっていうのは意外だったけどね。

関西の子ってラジオにすごく興味があるんじゃないかって思う。手紙とか読んでると、学ぶっていうか、知りたいとかラジオに求めてくる。ラジオ文化みたいなのが確かにあるんですよね。だから僕の番組でもファンレターはないんですよ。「あの日のあの話は……」とか自分の思いをね、書いてくるんですよ。

やっててね、何かすごい自由な空気を感じたんですよ。〝フリーキャンパス〟だなって。ほら、大学ってフリーじゃないですか。なのにあえて、〝フリーキャンパス〟なんてネーミングがね。京都らしい。京都ってバンカラ的なイメージのある学生の街だなって思う。古風でストレートでいいんですよね。それから大学生が中心でしょう。僕は大学行かないでブラブラしてた方じゃないですか。デモテープくばってる頃は〝何してます〟っていう確かな地位みたいなのってなかったから大学生に対抗した気持ちで、「みんなが大学を卒業する頃にはプロになってやろう」って、そういう気持ちが強かったんだけど、それもこの番組をやったおかげですごくよくわかった。みんなも僕がプータラしてた時と同じように気持ちがふらついてて不安なんだって。だから今はダンパやろうが何しようが、すごく許せる。やっぱり大学生は4年間の自由な中で自分のやりたいことみつけて、遊ぶときは遊んで、それでいいと思ってる。自分がいつの間にかそんな年を追い越してしまったからこんな風に言えるのかもしれないけどね。

最終回の時、外へ出たらリスナーの子たちが外で一列にズラッと並んでるわけ。ワーもキャーもなしで。そしたらみんなひとりひとりに別れのあいさつをしたくなって一人一人握手して、ほんの少し話して、そして帰った。僕を一人の人間として皆が接してくれたって気がして本当に、そのことにお礼を言いたかった。

ただ、今となっては後半忙しくなって、コンサートとか重なって、きっちりと出演できなかったのが悔まれるけどね。たくさん教わった。うん、そういうことだね。

Hideaki Tokunaga
Holiday in Kyoto

BIG BANG

●中京区河原町にあるライブハウス。小さなステージと急斜面に設置された客席が不思議な臨場感を作り出す。

京都で一番最初にやったライブハウスなんです。京都だったらBIG BANG（ビッグ・バン）っていう、ライブハウスでは有名なスペースで、ステージに立つと、客席が真上にあるみたいな感じがして演奏する側はすごくやりにくい。だけど、客席が満杯になって演奏している風景を見てると、カッコイイんだ。誰がどんな曲を歌おうとロックになってしまう。不思議なんだけど、そんな気がする。バンドとしてキメたいなら、僕はここを推薦するね。

僕が初めてここで歌った頃っていうのはもう京都でラジオ番組やってたんだけど、とりあえずはラジオのパーソナリティのイメージを除外してやらなきゃいけない。徳永英明は歌手なんだってことを前面に出さなきゃって、プレッシャーがかなりありましたね。

で、いざ始まると、まず中・高校生の男の子たちがいるわけ。今だったら僕のライブで男の子たちがいる光景ってまずないよね。わあ、やっぱりラジオ聞いてパーソナリティとして、この子たちは来てくれたんだなあって思ったのを覚えている。でもそのおかげもあって200人位入ったんですよ。一応4階まで満杯だったんだけど、京都の番組のスタッフとかビール飲んで、もうグチャグチャ。ディレクターなんかのヤジが飛んできたり、よく考えたら、もう友だち的なノリなんですよ。でも、そのおかげでリラックスしてできたと思う。その時はド緊張してたからね。

その時の1曲めはねえ、……何だったっけ、BIRDS TOURの第1期だから、あっ、「輝きながら……」だ。まだヒットはもちろん、シングルカットさえ、されてなかった。

●その時ライブの雰囲気を、今回の取材の際、お世話になったJ音楽企画の池田氏にうかがってみた。

「もっと派手なライブをやるのかなって思っていましたし、ラジオのイメージを期待というか思い浮かべていましたので、意外な感じはしました。〝歌うたい〟という彼の強い意志的な部分を一生懸命出していたように思います。来てるお客さんはラジオのリスナーがほとんどで、その中で彼は自分の歌を聞かせようとしていた。どうしてもノリ的には(ラジオのリスナーが多いから)微妙なところはあったけどね」

この日、徳永英明は「フリキャン（フリーキャンパス京都）聞いてる？」と客席へ投げかけるのを自ら拒否したという。今ではコンサートの度に、昔話のように〝フリキャン〟の話が飛び出すというのに。何かが大きく変わってしまったようで、でも何が違うというのだろう。彼はステージ上のアマチュア・バンドを見つめている。

エトセトラ

●アクシデントかハプニングか？　京都の街を歩き回る今回の取材では、こんな出来事もありました。

●何といっても京都は修学旅行の名所。どこへ行っても学生さんでいっぱい。撮影中には決まって〝徳永さんだ～〟という声と共に人が集まってしまう。

①京都駅の食堂街は、まだ「輝きながら…」がヒットする以前、京都を訪れる度に、まず腹ごしらえをしたという馴染みの場所。予感はしていた。そこへ向かう途中、駅の構内に、少なくとも4校の団体を見かけたからだ。サングラスをかけて、こちら側へと歩いてくる。シャッターを切る。彼の後ろの方で少しずつざわめき始める。ひとり、ふたり、5人、10人とその波が広がっていく。〝逃げろ～〟とちょっとした騒ぎになってしまった。

②東京では、ファンの声にちょっとナーバスな徳永君もリラックス。記念写真にも収まって…。

Hideaki Tokunaga
Holiday in Kyoto
「さいなら、また来るよ」

京都駅

●新幹線で東京から約2時間30分。このホームに降りては、また離れる。キオスクで新聞を買い、景色に目を細める。

昔(以前)は、京都駅っていうのは必ず降りる場所だった。それが忙しくなって、ツアーも本数が急に増えたりして京都駅を、上りも下りも通過することが多くなったんだよね。毎週金曜日はとんどやってきては何かを教わったり、何かを摑んだり、時には失った気がしたり……。それが今は通り過ぎる駅を、窓に顔をつけて見ていたり……。そんな時、別に待っている人なんかいないんだけど、降りたい降りたいって、1歩でもいいから降りてみたいって思いがある。

京都にいると顔が優しくなれる、そんなことを信じてる。丘の上で風にあたってるみたい、空気がサラサラと流れているって本当に感じるんだよね。

誰でも有名になりたいとか、ヒーローになりたいって思うんだろうけど、僕の場合、他の場所とかでは思わないのに京都でだけはヒーローになりたい。子供みたいだけれど、思い込んでるみたいなんだ。多分それは京都でラジオを通して、言葉のひとつひとつで皆と知り合ったっていう部分が大きいと思うんだ。普通の道端で日向ぼっこしているおじいちゃんや、野菜を売ってるおばちゃん、缶けりをしている子供たち……どんな人でも、どこでも話せる、そんなヒーローになりたい。

生まれは福岡だし、育ったのも伊丹で、〝京都出身の……〟って言われることはあり得ないんだけど、徳永英明は京都が生んだアーティストなんだっていう風にはなりたい。(〝京都〟に固執しているわけじゃないけど)僕の中には京都(ラジオ)と一緒にここまで来たって思いがとても強くあって……、だから〝思い込み〟とか、〝勝手な言い分〟みたいに聞こえるかもしれない〝I LOVE KYOTO〟はとても個人的で、僕の心の中の懐かしさにも似た思いなんだ。

野球選手が××出身ってあるでしょう。で、「徳永、なんで京都出身なんや?」って聞かれたら、「じゃあ、京都出身じゃなくて、京都代表です」って答えようかなんて思っている。今までのことを大切に、僕の中のこの街、人々、たくさんの思い出を大事にしていきたいと思う。

ホームでは今日もたくさんと人が新幹線の到着を待っている。夕暮れ。修学旅行のたくさん生徒たち。笑顔、おっとりとした方言、タワー、そしてこの駅に降りると必ずするように売店の新聞を手に取る僕。駅弁とお茶も買った。久し振りに遠く離れてしまった友人に会ったような気がする。

「ありがとう、そして、さよなら」

そう小さく呟いて僕は車両に乗り込む。もう大丈夫。〝友人〟は微笑んで手を振っているから。ゆっくりと新幹線は走り出し、やがては懐しい風景と今日一日をちぎっては風に飛ばす。しばらくぼんやりと外を見ていたら急にお腹がすいた。僕は弁当の包みを開く。

D I S C O G R A P H Y

●Album

Girl
Ⓐレイニーブルー/リアリストとロマンチスト/夏のプリズム/冬の動物園/ガール
Ⓑ僕の憂鬱/未完成/Air Port 20:13/レター/最後の学園祭(CDのみ「奇跡のようなめぐり逢い」収録)
AP●LP:RL-3042 CD:RCD-2013
('86年1月21日)

Radio
Ⓐ9月のストレンジャー/夏のラジオ/僕のハートに君はSTAY/ライディーン/夢に抱かれて Ⓑ抱きしめたい/ペンダント/感じるままに/振られるなんて/心の中はバラード(CDのみ「愛の中から」収録)
AP●LP:RL-3046 CD:RCD-2026
('86年8月21日)

BIRDS
Ⓐ輝きながら…/シック/ため息のステイ/ノースリーブのクリスマス/夏の素描
ⒷBIRDS/君は悲しいギター/さよならの水彩画/Silent good-night~君のために(CDのみ「レター」収録)
AP●LP:AY28-14 CD:BY32-37
('87年5月21日)

INTRO.
Ⓐさよなら言葉/レイニーブルー/夏のラジオ/BIRDS/ノースリーブのクリスマス
Ⓑセレブレイション/僕の憂鬱/夢に抱かれて/ペンダント/輝きながら…
AP●LP:AY28-16 CD:BY32-41
('87年12月5日)

DEAR
Ⓐ風のエオリア/HONG KONG NIGHT/あなたのために/Tenderly/Dear…
Ⓑ幾つものワンシーン/ガラス越しのあなた/どのくらい時がたてば/真夜中のリバティ/Melody－永遠の鍵－
AP●LP:AY28-21 CD:BY32-47
('88年4月21日)

●Single

レイニーブルー/奇跡のようなめぐり逢い('86年1月)

夏のラジオ/愛の中から('86年7月)

BIRDS/夏の素描('87年5月)

輝きながら……/さよならの水彩画('87年7月)

風のエオリア/真夜中のリバティ('88年2月)

●CDV

メロディーfrom BIRDS AP●BG24-1('87年9月16日)

KIYOTAKA SUGIYAMA'S SIX SCENES

●杉山清貴の曲の向こう側には、鮮やかな風景が見え隠れする。それはときに雨にぬれた街角であり、地平線に顔を見せた太陽であり、そして、耳元をぬけていく風であったりする。でもそれは、直接言葉になって私たちの耳に入ってくるものだけではない。彼はそのメロディーによって私たちに風や虹や空や雨を感じさせてくれるのだ。──杉山清貴をめぐる６つの風景──杉山さんの曲に織り込まれた６つの風景について彼自身の言葉で語ってもらった。

撮影●岩岡吾郎
文●かこいゆみこ

KIYOTAKA SUGIYAMA'S SIX SCENES

夜明けの空
DAYBREAK SKY

「A PRIME DAYBREAK」で、すみれ色の夜明けって歌詞があるけど、これはわりと誰でも経験あるんじゃないかな。

僕も10代のころなんかよく見たもんだよ。

朝まで思い切り遊んで、帰るときに見る夜明けの空ってすごく宇宙的だと思う。

オーバーパスをスーッと飛んでいく、何か車ごと空へ飛んでっちゃいそうな気持ちになるよね。

思い切り遊んだ後に、さあ、明日はがんばろうって気分になるように、今の自分にとって、ハワイはすごく大切なものなんだ。

特にこの仕事を続けていくうえでね。

もしハワイを取られちゃったら、きっとどうしていいかわからないだろうね。

ハワイでくつろげるからこそ、また次のことに立ち向かっていけるっていうのはあると思う。

海と自分
THE OCEAN and ME

海はあなたにとって何ですか？

って質問に答えるのは、すごく難しい。

海にはいろんなイメージがあるね。

真っ青な深い海。

白い砂浜の向こうの、珊瑚礁のある遠浅の海。

東尋坊から見降ろした海とか、いくつもの風景が見えてくる。

でも、一番好きなのは、やっぱり海の中にいるときかな。

ここ何年も潜ったりはしてないけど、海の中には新鮮なショックがあった。

こんなとこ来ちゃっていいのかな、と思ったもの。

海の中ってすごくいろんな音が聞こえてくる。自分の呼吸の音、潮流の音……本当に自分が、ひとりっきりになれるところ。

あれは本当に宇宙そのものだと思う。

ふたつの虹
DOUBLE RAINBOW

僕が「DOUBLE RAINBOW」って曲を作ったときは、ダウンタウンで昔の彼女を見つけて、以前言い切れなかった、たったひとことを言うために、人ゴミの中を彼女の姿を追いかけていく、みたいな内容だったんだ。

そしたら作詞の田口俊さんが、僕のためにずっと書きたかったイメージがある、というんで、じゃあそれとうまくマッチングできるならって、でき上がったのがあの詞というわけ。

ハワイはごくフツーに歩いていても、空がよく見えるから、虹を見る機会も多いんじゃないかな。風景の中に空はいつも入ってくるからね。

残念ながら僕はダブル・レインボウを見たことはない。カミさんはあるらしいんだけどね。

いずれにしても、大きな虹がふたつ重なってるのを見れたらすごくラッキーだと思うよ。

ハワイの風
WIND of HAWAII

「KONA WIND」の中に出てくる風景は、いわゆる海づたいのダスティ・ロード。

舗装なんかされてない、埃っぽい道をドライブしてる感じだね。

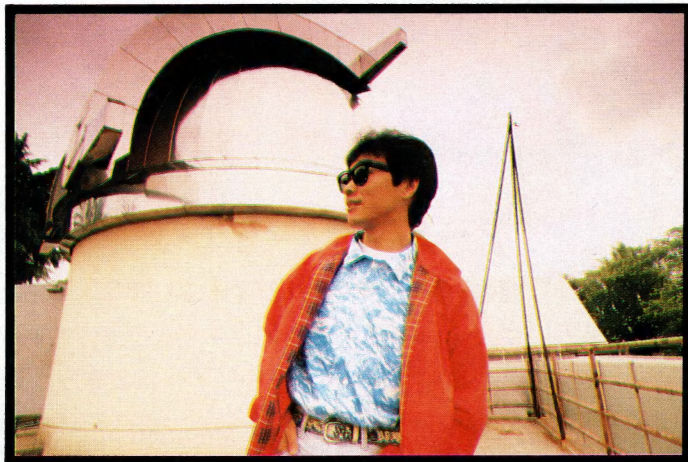
たとえば道を歩くこと、ひとつをとってみてもその道に合った歩き方ってあると思うんだ。

都会のアスファルトの上を歩くのと、ハワイのダスティ・ロードを歩くのとでは、姿勢まで自然に変わってくるんだよね。

その風景の中に溶け込んだ姿でいたいと思う。なんかリゾート・ファッションみたいなカッコウでいるのも疲れるし、だったら普段着のままの自分でいい。

自然の前ではいくら自分を装（つく）ったって、すぐに見透かされてしまうんだよね。

ハワイの風の中では、自分がすごくラクになれる。風が「カッコつけるなよ」って囁いてくるような、そんな感じなんだ。

KIYOTAKA SUGIYAMA'S SIX SCENES

夕暮れ
TWILIGHT

ハワイには、そのときそのときの気持ちよさってあるけど、やっぱり夕方がいい。

空の色なんかピンクとオレンジが混ったような、もう口で言い表わせないような美しさでね。

自分で写真も撮ったりするけど、あの色はどうしても出ないみたい。ビデオのほうがきれいだね。家に帰って自分で撮ったビデオを見たりすることもあるよ。

「サンセット・ラブソング」は、〝本当の美は案外自分の身近にあるもの〟っていうメッセージを込めた曲。

彼女、もしくは彼氏に、自然に「好きだ」とか「愛してる」と言える歌がほしいと思って作ったんだ。

〝美〟という言葉は〝愛〟におきかえてもいい。愛があるから美しいと思うんだろうしね。飾らない思いを歌ったラブソングだと思う。

マヌアの雨
RAIN of MANUA

「PARK SIDE ROMANCE」の舞台になったのは、ハワイのマヌア・バレーっていう、周りは閑静な住宅街でハワイ大学のマヌア・キャンパスがあったりするところなんだけど、そこにパラダイス・パークっていう公園があってね。

山の谷間だから雨が多いんだけど、すごくいいところなんだ。

海からは離れてるけど、とても静かで芝の香りがして、山が朝から晩まで色を変えて、っていう。いろんな種類の小鳥がいて、トロピカル・フラワーがたくさん咲いてて、本当に名前どおりの場所だよね。

ハワイの雨って濡れても冷たくないし、すごく気持ちいい。誰もカサなんか持って歩いてないしね。いつだったか、夜中の11時ぐらいに外へ遊びに行った帰りに、すごい大雨に降られたことがあるんだ。文字通りヌレネズミになったけど、カゼひとつひかなかった。あれはちょっと信じられなかったなあ。

D I S C O G R A P H Y

●Album

beyond…
Ⓐocean／what rain can do to love／position 0(ゼロ)の憂鬱／one more night／alone／illusionを消した夜
Ⓑyou don't know me／long time ago／さよならのオーシャン／reflexive love／miss, dreamer
VA●30188-28　'86年7月2日

realtime to paradise
ⒶREALTIME TO PARADISE／MYSTIC LADY／BOUND FOR RIVER'S ISLAND／タイをはずして／想い出のサマードレス
ⒷBORDER LINE／Cape Light／MOVING MY HEART／モノローグ／THE DREAM
VA●30206-28　'87年3月21日

KONA WEATHER
ⒶKONA WIND／DOUBLE RAINBOW／PARK SIDE ROMANCE／MIDNIGHT CONFUSION～恋にナイフを／サンセット・ラブソング
ⒷHEARTBREAK CITY／I'LL BE THERE／あの夜の向こうに／A PRIME DAYBREAK
VA●30228-28　'87年12月19日

●Video

1/6 half days
sayonara no ocean／China grove／stay the night forever／omoide no summer dress／kimi wa in the rain／tie o hazushite／shade／mizu no naka no answer／realtime to paradise／moving my heart／one more night／you don't know me／the dream

●Single

[さよならのオーシャン]
b/w SHADOW('86年5月)

[最後のHoly Night]
b/w 奪われた倦怠(アンニュイ)('86年11月)

[水の中のAnswer]
b/w IN THE VISION('87年5月)

[風のLonely way]
b/w 無言のDIALOGUE('87年1月)

[僕の腕の中で]
b/w あの空も この海も('88年4月)

[渚のすべて]
b/w BOYS OF ETERNITY('88年7月)

●12 inch

[SHADE～夏の翳り]
b/w 水の中のAnswer/ANGEL EYES('87年8月)

GB DELUXE PRESENTS

[アーティスト・テレフォンカード・プレゼント・スペシャル]

●えっへん！〝バカのひとつおぼえ〞と言われようとも、『GB DELUXE』のプレゼントは、テレフォンカードでなくっちゃ、ヤダヤダヤダヤダぁ〜!! ってことで今年も集まりましたゼ！ 生写真やキリヌキは、もう手帳に入れられないわっというアダルトな皆様へ。

①小比類巻かほる
EPIC・ソニー提供 5名
▶紅白にCMにと、いつのまにか、国民的歌うたい、になってしまったこの1年間。

②BAIDIS
テイチク提供 7名
▶SIONやジルやシュイディーがCDにのっかってる、あの、例の、BAIDISです。

③中村あゆみ
ハミングバード提供 1名
▶4月にはじまったツアーは、夏になっても、まだまだ続いているぜ！ ラッキー♡

④聖飢魔II
ミュージックチェイス提供 1名
▶事務所にたまたま1枚だけあったものに、メンバーがサインしてくれた超貴重品なの。

⑤松岡英明
NON STOP提供 2枚
▶NHK『JUST POP UP』の司会のほうはシブく決めてるから、この笑顔は見れない。

⑥浜田省吾
ROAD&SKY提供 5名
▼潮風の音が耳の奥のほうでしそうなテレフォンカードでしょ♡

⑦甲斐よしひろ
KAI OFFICE提供 2名
▶テレフォンカードの中から出てきて、さけぶんじゃないかと思っちゃうこの写真！

⑧松任谷由実
GB編集部提供 3名
▶コンサートのオープニング、この図のとおりにモデルさんの脚が出てきたという！

⑨稲垣潤一
HOT CLUB提供 5名
▶ちなみに、HOT CLUBというのは、稲垣さんのファンクラブのことです。

⑩岡村孝子
COTTON提供 2名
▶岡村孝子さんの、この横顔！ 去年もお世話になりました♡ 今年もよろしく♬

⑪チューリップ
コロムビア提供 5名
▼TRIAD（トライアード）レーベルをひっぱるTULIPである！

⑫CRYSTAL BIRD
キングレコード提供 1名
▼キングの女性シンガーばかりを集めたレーベルを、クリスタル・バードと申します

⑬UP-BEAT
ビクター・インビテーション提供 2名
▶ゴクミのドラマ〝同級生は13才〞の主題歌「Kiss in the〜」の時のプレミアもの！

⑭A-JARI
クリアスカイ提供 1名
▶A-JARIといえば、この、ブラックに金文字のテレフォンカードしかないでしょお。

⑮CAPTAIN GEORGE WITH NIPPER ZIPPER
NECアベニュー提供 6名
▶夏休み、野外やイベントで、彼らに会えるんじゃないかな？

⑯永井真理子
HEART BEAT CLUB提供 1名
▼H.B.Cは真理子ちゃんのオフィシャルFC。03（341）3131にTEL！

⑰杏里
東芝EMI提供 5名
▼そう、あの長い手足、小麦色の肌。そしてクールな歌声！ 夏は杏里でなくっちゃ。

⑱大沢誉志幸
NONSTOP提供 2名
▼SUZUKIのバイク〝ADDRESS〞のCMソングをやった時のです。

⑲日浦孝則
テイチク提供 10名
▶いきなり10名の超太っ腹攻撃！ そう、HIURAといえばLIVEだよね。

⑳THE BLUE HEARTS
POP ROCK COMPANY 提供 5名
▶ふっふっふ。今、いろんな雑誌で、ブルハGOODSの通信販売のお知らせ見ますし。

[応募の方法] 応募の方法といっても、いつものGBといっしょだよ〜〜だ。51ページのアンケートハガキ、プレゼント希望欄だけじゃなくて、裏もビッチシうめて、送ってくださいね♡ 希望者多数が予定されるので、抽選です。 締め切りは8月21日！ 当選者の発表は、GB11月号（9月22日発売）を待っててておくれ♪♪

GB夏の陣！まずは7月のリリース5段攻撃を受けてみよっ！

▶7月1日『ふたりのカルロス』――田家秀樹著。レモンイエローのカバーが目印▶7月1日「GB DELUXE」――毎度お買いあげいたたきまして♡▶7月16日『GET ON UP＝ゲロンパ』――バナナ×700本。安達明子、手があれる▶7月22日「GB 9月号」――UP-BEAT、UNICORN、FENSE OF DEFENCE、ガンバル！▶7月23日「VOLUME-1 No.4」――？

HIDEYUKI YONEKAWA
C-C-B
keep on running
走り続けるぜ
サウンドメッセージはRunning
そうさOnly Running
メッセージがお前に伝わるまで
永遠にRunning
深くやさしい音のシャワー
ESZ
¥100,000
MORRIS GUITAR '88
ミュージシャンGood'sプレゼント
今、モーリスギターを買うと「ミュージシャン・グッズ」が全員もらえる。
(対象商品)トルネード等、エレアコシリーズ、TF・MD等、アコースティックシリーズ
(応募方法)ギターに添付の愛用車カードを返送するだけ。なお、カードに販売店印の無いものは無効になることがあります。また、グッズの内容は逐次変更されています。
TORNADO
Tornado by Morris
5/25 On Sale LP「走れ★ハントマン」
絶賛発売中 シングル「恋文(ラブレター)」
C·C·B CONCERT TOUR '88
●6/26土浦市民会館●28日立市民会館●7/7京都国体ミュージックフェスティバル●8掛川生涯学習センター●9碧南市文化会館●22'88ビーチサイドフェスティバル新泊村港●23第8回南こうせつサマーピクニック●25ASAMA WOW/1988●30'88神鍋高原ミュージックフェスティバル●8/7 KIRIN TOGETHER '88 LIVE IN KAISEIZAN●8燕市文化会館●16函館EXPO '88(青函博)●18宮城県民会館★問い合せ/ダストコーポレーション
03-780-0504
株式会社モリダイラ楽器/東京・大阪・名古屋・福岡/本社:〒101 東京都千代田区岩本町2-7-4 ☎03(862)5041
カタログのお申し込みは〒切手¥300同封の上株モリダイラ楽器本社モーリスGB DX係まで。

別冊ギターブックGB
GB デラックス
昭和63年7月1日発行
発行所 株式会社CBS・ソニー出版 〒102 東京都千代田区五番町6番地2
電話03(234)5811(販売)・03(234)5011(広告)・03(234)6711(編集)
定価980円（別冊付録とも）
雑誌62935—40